

ハ解散ノ理由ト見ルヘカラサルナリ立憲君主國ニ於ケル解散ハ現在ノ議員ヲ國政ヲ議スルニ適當ナラスト認ムルカ爲メニ之ヲ行フモノナリ此民主國ニ於ケルト君主國ニ於ケルト解散ヲ爲スノ理由異ナルニ從ヒ亦其結果ニ差異ヲ生スルモノナリ即チ民主國ニ於テハ解散ノ理由ハ國民ニ懇フルニアルニ依リ議會閉會中又ハ議員ノ總改選後一度モ召集セサル前ニ解散スルコトヲ得サルモノナルモ君主國ニ於テハ單ニ議員ヲ不適當ト認ムルカ爲メ解散スルモノナルニ依リ停會中及ヒ閉會中ハ勿論議員改選後直チニ解散スルモ決シテ不當ニアラス普國ノ學者中閉會中及ヒ改選後直チニ解散ヲ爲スハ解散ノ目的ニ背クモノナリト唱フル者アリト雖モ既ニ實例ニ於テ(千八百六十年)閉會中解散シタルコトモアルナリ我國ニ於テハ閉會中若クハ改選後直チニ解散シタルノ例ナシト雖モ憲法ノ明文上解散ノ時期ニ關シ何等ノ規定存セサルヲ以テ如何ナル時ニ於テモ解散ヲ爲スコトヲ得ト云ハサルヘカラスハンガリーニ於テ通常豫算ノ議決前解散スルコトヲ得スト定メラレタリト雖モ我國ニ於テハ斯ノ如キ制限ヲ見ルコトナシ若シ通常豫算議決前解散シタル爲メ豫算不成立トナルトキハ前

年度ノ豫算ヲ憲法ノ規定ニ從ヒテ施行スヘキノミ或ハ憲法第四十四條第二項ニ衆議院解散セラレタルトキハ貴族院ハ同時ニ停會セラルヘシトアル明文ヲ援用シ解散ハ帝國議會開會中ノミ行フコトヲ得ルモノナリト説ク者アリト雖モ此規定ハ議會ノ開會中解散アリタル場合ノ爲メニ設ケタル規定ニ過キス此規定ヲ援キテ開會中ニアラサレハ解散スルコトヲ得スト結論スルヲ得サルナリ

解散ハ我憲法上單ニ衆議院ニノミ之ヲ行フモノニシテ貴族院ニ對シテ解散ヲ行フコトヲ得ス然レトモ貴族院ハ其性質上解散シ得ラレサルモノニアラスシテ普國、白國等ノ國ニ於ケル如ク上下ノ兩院ヲ同時ニ解散シ得ルコトヲ認メタルノ例ナキニアラス伊、班、奧等ニ於テ貴族院ノ解散ヲ認メサルハ世襲議員及ヒ終身議員ノミヲ以テ之ヲ組織スルカ爲メノミ而シテ我國ニテ亦此例ニ倣ヒ貴族院ノ解散ヲ認メサルハ貴族院議員中世襲議員及ヒ終身議員少ナカラサレハナリ

第三節 帝國議會ノ組織

第一款 貴衆兩院ノ活動

帝國議會ハ一ノ合議體ニアラスシテ二個ノ合議體即チ貴衆兩院ヨリ成立スルモノナリ此兩院カ我國ニ於テ一所ニ會合スルハ開院式及ヒ閉院式ヲ行フ場合ノ如キ儀式的ノ場合ニ限ラル、モノニシテ其他ハ兩院各獨立ニ討議シ決議ヲ爲スモノナリ乍併二院制ノ特色トシテ兩院ハ帝國議會トシテノ活動ヲ爲スニ於テ凡テ一致セサルヘカラサルモノニシテ議會ノ開會閉會停會皆兩院ニ於テ同時ニ行ハルヘク又帝國議會ノ決議トシテハ必ス兩院ノ決議ハ一致セサルヘカラサルモノナリ但否決ヲ爲ス場合ニ於テ一議院ノ反對アルヲ以テ足レリトナスハ其例外ニ屬スルノミ或ハ上下兩院ノ投票ヲ通算シ或ハ一院ノ出席議員其定數ニ滿タサルトキハ他院ノ決議ノミヲ以テ足レリトナスカ如キ或ハ特別ノ場合ニ兩院合同シテ決議ヲ爲スカ如キ例ハハ攝政ヲ選ム場合ノ如キ例外ヲ許ス國ナキニアラサルモ我國ニ於テハ認メサル所ナリ

貴衆兩院ハ原則トシテ對等ニシテ議決權モ相均シ其結果兩院ノ何レニ先ツ議案ヲ提出スヘキカハ全ク政府ノ自由ニ屬スルモノナリ唯一ノ例外ハ豫算ニシテ豫

算ハ各國ニ於テ必ス先ツ衆議院ニ提出セサルヘカラサルモノトセラレタリ尙ホ國ニ依リテハ例ハハ英、普衆議院ヨリ回送シタル豫算案ニ付キ貴族院ハ可否ヲ表スルノ外修正ヲ爲スコトヲ得ストセラレタル國ナキニアラスト雖モ我國ニテハ豫算ヲ先ツ衆議院ニ提出セサルヘカラサルノミニテ其議決權修正權ニ付テハ兩院全ク對等ノモノナリ

第二款 兩院ノ成立及ヒ二院制ノ利害

英國ニ於テハ最初一院制ナリシカ十四世紀ニ至リ二院制始メテ設ケラレタリ此二院制ノ基礎ハ理論上ノ結果ニアラスシテ單ニ偶然ナル歷史上ノ現象ニ過キサリシナリ英國憲法ハ他國憲法ノ模範トナリテ二院制モ亦他國ニ採用セラレ現今ノ立憲諸國ニ於テハ獨逸及ヒ小國ノ例外ヲ除クノ外殆ト皆二院制ヲ採ルモノナリ而シテ大國ニテ一院制ヲ採リタル例ハ千七百九十一年及ヒ千八百四十四年ノ佛國ノ憲法及ヒ千八百十二年ノ西班牙ノ憲法ナリシモ此等ノ一院制ハ之ヲ實施スルヤ直チニ變更セラレ永ク繼續セサリシモノナリ又二院制ハ嘗ニ立憲君主國ノミナラス共和國ニ於テモ採用セラレ北米合衆國及ヒ其各邦ステート並ニ佛國ニ於テハ

皆代議院ノ外上院トシテ元老院ヲ有セリ
 二院制ヲ採ル國ニ於ケル兩院ノ名稱ハ或ハ貴族院ト代議院或ハ貴族院ト平民院
 或ハ上院ト下院或ハ第一院ト第二院トナス等其名稱一ナラス而シテ我國憲法ニ
 於テハ之ヲ衆議院及ヒ貴族院ト名ケタリ彼明治初年ニ於テ存在セシ左院右院ノ
 如キハ全ク立憲國ノ議會ヲ組織スル二院ト其性質ヲ異ニスルモノナリ
 今二院制ノ得失ヲ考フルニ先ツ其利益トスル點ハ左ノ如シ
 第一 國政ヲ議スルニ當リテハ須ラク永遠ノ計ヲ爲サ、ルヘカラス然ルニ一院
 制ニ於テハ一時ニ輕卒ナル不當ノ決議ヲ爲スコトナキニアラス之ニ反シ二院
 制ニ依レハ縱令一院ニテ一時ノ感情上悖理ノ決議ヲ爲スコトアルモ他院ニ於
 テ之ヲ矯正スルコトヲ得ルノ利益アリトス
 第二 一院制ヲ採ルトキハ議會ト政府ト衝突シ易シ之ニ反シテ二院制ヲ採ルト
 キハ二院互ニ相牽制スルニ因リ政府ト議會ト衝突スルノ機會ヲ少ナクシ若シ
 一院ト政府ト衝突スルコトアルモ他院之ヲ調和スルカ爲メ衝突ヲシテ極端ニ
 走ラシムルコトナシ從テ二院制ニ依レハ內閣ノ交迭及ヒ議會ノ解散ヲ少ナカ

ラシムルコトヲ得ルモノナリ

第三 一院制ハ多數ノ壓制ニ導キ易キモ二院制ヲ採ル國ニ於テハ上院ニ門閥學
 藝才能及ヒ財產ヲ標準トシ社會ノ上層ノ地位ヲ占ムル者ヲ要素トシテ議員ト
 ナスカ故ニ其議決ノ成功ヲ謬マラサルコトヲ期スルヲ得從テ多數ノ壓制ヲ妨
 クルコトヲ得ルモノナリ

第四 一院制ハ議會ヲシテ行政機關ヲ壓制スルノ弊ヲ生セシメ遂ニ無政府ノ狀
 態ニ陥ラシムルノ虞アリ然レトモ二院制ニ於テハ二院相對立スルニ依リ斯ノ
 如キ弊ヲ生スルコトナシ

以上ハ二院制ノ利益トスル所ニシテ大國ノ多數ニ採用セラル、主因タリト雖モ
 其非ナル點亦之ナキニアラス其重ナルモノ左ノ如シ

第一 議事ヲ延滯セシム

第二 政府ハ二院中其一ヲ自己ノ爪牙トシテ專政ヲ擅ニスルノ虞アリ

第三款 貴族院

我貴族院ニ相當スル所ノ上院ノ組織ニ付テハ二種ノ制度アリ第一種ノ制度ハ我

貴族院ノ如ク特別ノ門閥家及ヒ國家ニ勳勞アリシ者ヲ主ナル要素トシテ之ヲ組織スル制度ニシテ第二種ノ制度ハ凡テ人民ヨリ直接間接ニ選任セラル、者ヲ以テ之ヲ組織スルノ制度ナリ例ヘハ佛、米、白ノ元老院ノ如キハ此第二種ノ制度ノ例ニシテ佛ノ元老院ノ組織ハ各縣ノ選舉會ニテ選舉セラレタル議員ヲ以テ之ヲ組織シ其選舉會ハ各縣内ノ代議院議員、縣會議員、郡會議員及ヒ縣内ノ町村會ヨリ選出スル各町村ノ代表者ヲ以テ之ヲ組織ス要スルニ元老院議員ハ人民ノ間接選舉ニ係ルモノナリ又北米合衆國元老院議員ハ各邦ノ立法機關ニ於テ選舉セラレ白耳義ノ元老院議員ハ國民ノ直選ニ係ルモノナリ之ニ反シテ第一種ノ上院即チ貴族院ノ組織ハ左ノ者ヨリ組織セラル、ヲ常トナセリ

- 一 家系ニ依リ議員トナルヲ得ル者
- 二 勳勞學識アル者ニシテ勅選セラレタル者
- 三 特別ノ種族ヨリ選出セラレタル者
- 四 特別ノ地位身分ヲ有スルカ爲メ議員トナルコトヲ得ル者

我邦ノ貴族院ハ其組織ヲ貴族院令ヲ以テ定メ其議員ハ左ノ者ヨリ組織セラル、

モノナリ

一 法令ノ結果トシテ議員タルコトヲ得ル者

(イ) 出生ニ因ルモノ 即チ當然貴族院議員ニ就職スルコトヲ得ルモノニシテ成年ノ皇族及ヒ二十五歳以上ノ公侯爵ハ此部類ニ屬スルモノナリ

(ロ) 選舉ニ因ルモノ 即チ同爵者ノ互選ニ因リ議員タルコトヲ得ル者ニシテ二十五歳以上ノ伯子男爵ノ議員ハ此部類ニ屬スルモノナリ

選舉ニ因ルモノハ其數ニ制限アリテ伯子男爵總數ノ五分一ヲ超ユルコトヲ得ス而シテ其任期ハ七年ナリ二十五歳以上ノ伯子男爵ニシテ選舉權、被選舉權ヲ有セサル者ハ瘋癲、白痴、刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ノ者、身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ果サ、ル者等ニシテ神官僧侶其他諸宗ノ教師ノ如キハ選舉人タルヲ得ルモ被選人タルコトヲ得サルモノナリ

二 勅命ニ依リ議員タル者 勅選ニ依リ議員タルモノニ左ノ二種類アリ而シテ其總數(一)ニ述ヘタル議員ノ數ニ超過スルコトヲ得サルモノナリ

(イ) 直接ニ勅選セラル、者 即チ國家ニ勳勞アリ學識アルカ爲メ年齢滿三十

才以上ノ者カ勅選セラレタルモノニシテ終身議員タルモノナリ
 (ロ) 同資格者ノ互選ヲ以テ勅任セラレタル者 即チ各府縣ニ於テ三十才以上
 ノ男子ニシテ且土地又ハ商工業ニ付キ最多額ノ直接國稅ヲ納ムル者十五人
 中ヨリ互選セラレ且勅任セラレタル者ニテ七年ヲ以テ任期トナスモノナリ
 多額納稅者ノ互選人タルヲ得サルモノハ軍人、瘋癲、白痴者其他法ノ規定ニ從
 ヒ犯罪ノ關係ヲ有スル者ナリ

我貴族院ハ右ノ四者ヲ以テ組織スルモノニシテ若シ貴族院議員ニシテ禁錮以上
 ノ刑ニ處セラレ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケシ者ハ勅命ヲ以テ除名セラレ又貴族院
 ニ於テ懲罰ノ爲メ除名セラレヘキ者ハ議長ヨリ上奏シ勅裁ヲ經タル後之ヲ爲ス
 コトヲ得ルモノナリ而シテ除名セラレタル議員ハ更ニ勅許アルニアラサレハ再
 ヒ議員ト爲ルコトヲ得サルモノナリ
 貴族院ニ關シ一ノ疑問アルハ有爵者ニシテ多額納稅者ノ資格ヲ有スルトキ其有
 爵者ハ多額納稅議員トシテ互選セラル、コトヲ得ルヤ否ヤノ問題はナリ之ニ關
 シテハ何等ノ明文ヲ有セス華族ニシテ衆議院議員タルヲ許サ、ルハ明文ヲ以テ

之ヲ規定スルニ依リ疑ナシト雖モ此場合ハ明文ナキニ依リ却テ伯子男爵ニシテ
 其同爵者間ヨリ互選セラレサル者多額納稅議員トシテ互選セラル、コトヲ得ル
 ヤノ疑アリ然レトモ性質上有爵者ハ多額納稅議員トナルコトヲ得スト斷定セサ
 ルヘカラス何トナレハ貴族院ノ組織ハ伯子男爵及ヒ多額納稅者ヨリ各其階級ニ
 屬スル者ヲ互選セシムルノ趣意ニシテ若シ一ノ階級ノ者ニシテ他ノ階級ノ議員
 タルコトヲ得トナストキハ此等ノ種族ヲ判然區別シテ其各族ヨリ議員ヲ選出セ
 シメントスルノ精神ニ反スレハナリ

第四款 衆議院

衆議院

衆議院ハ憲法第三十五條ニ依リ公選セラレタル議員ヲ以テ組織セラル、モノナ
 リ公選トハ伯子男爵又ハ多額納稅者ト云フカ如キ狹キ範圍内ヨリ選出セラル、
 ニアラス廣ク一般ニ定メラレタル資格者カ選舉ヲ爲シ選舉セラル、ヲ謂フナリ
 衆議院即チ下院ノ議員ノ選舉ハ公選ニ依ルヲ各國一般ノ通則トナスト雖モ選舉
 者及ヒ被選舉者ノ資格並ニ選舉ノ方法ハ各國一ナラサルモノアリ今選舉ノ方法
 ニ付キ異ナル制度ヲ略述スレハ左ノ如シ

第一 連名投票及ヒ單名投票(連記投票)

連名投票トハ一ノ選舉人カ選舉區内ノ議員ノ數ニ應シ投票スルコトヲ得ルモノニテ單名投票トハ之ニ反シ選舉區内ノ議員ノ定數ノ如何ニ拘ハラス一人一票ニテ一人ノ選舉人ハ必ス一人ノミヲ投票スルコトヲ得ルノ制ナリ
今連名投票ノ非ナル點ヲ舉クレハ

(イ) 連名投票ハ不公平ナリ 何トナレハ多數ノ議員ヲ出ス選舉區内ノ選舉人ハ多數ノ議員ヲ投票スルノ權ヲ有シ少數ノ議員ヲ出ス選舉區ニテハ少數ノ議員ヲ投票スルノ權ヲ有スルニ止マレハナリ

(ロ) 連名投票ハ多數ノ壓制ニ傾キ易シ 此制ニ依ルトキハ僅カニ一名ノ多數ヲ占ムル黨派モ全議員ヲ自黨ヨリ出スコトヲ得其結果多數壓制ノ弊ヲ生セシメ人材アルモ多數黨ニ屬セサルカ爲メ議員ニ舉ケラレサルノ非難アルナリ

(ハ) 連名投票ノ制ハ無効投票ノ數ヲ多カラシム 蓋シ(ロ)ノ結果ニ出ツルモノナリ

(ニ) 連名投票ハ選舉ノ競争ヲ激烈ナラシム
之ニ反シテ單名投票ハ

(イ) 公平ナリ

(ロ) 多數ノ壓制ヲ防ク

(ハ) 人材ヲ舉クルコトヲ得セシム

(ニ) 無効投票ヲ減ス

等ノ利アルニ依リ佛ニ於テハ一千八百八十九年、伊ニ於テハ一千八百九十一年連名投票ヲ廢シテ單名投票ニ改メ我國ニ於テモ現行ノ選舉法ハ連名投票ヲ改メテ單名投票ヲ採用スルコト、ナレリ
單名投票ニ對スル一ノ批難ハ若シ投票一人ニ集マルトキハ定數ノ議員ヲ得ルコト能ハスト云フニアリト雖モ斯ノ如キハ一ノ空想ニ屬シ實際ニ表ハル、コトナキニ依リ弊害トシテ舉クルコトヲ要セサルナリ

第二 記名投票及ヒ無記名投票

記名投票トハ投票紙ニ選舉人ノ名ヲ記スルヲ謂ヒ無記名投票トハ投票紙ニ選

舉人ノ名ヲ記載セサルヲ謂フ記名投票ヲ主張スル者ハ(一)選舉人ノ責任ヲ重セシム(二)記名投票ノ制ヲ採ル國ニ於テハ一ノ無効投票ヲ發見スルコトアルモ全部ノ投票ヲ無効トスルヲ要セス(三)記名投票制ヲ採ルニ於テハ無記名投票ニ於ケルカ如ク不徳義ナル行爲ヲ法律ニ於テ保護スルコトナシ等ノ利アルコトヲ唱フルモ今日ノ如ク未タ選舉人ハ獨立ニ其良心ニ從ヒ其意見ヲ發表スルノ程度ニ達セス選舉人ノ多數ハ種々ノ事情ニ因リ良心ニ背キテ投票ヲ爲スコトアル時代ニ於テハ記名投票ハ選舉ノ骨子タル選舉人ノ意思ヲ自由ニ發表スルコトヲ妨クルニ依リ之ヲ採用スルコトヲ得サルモノナリ

之ニ反シテ無記名投票ノ制度ノ利益ハ(一)良心ニ從フテ投票スルコトヲ得セシム(二)賄賂脅迫ヲ無効ニ歸セシム(三)記名投票ニ比スルトキハ無効投票ノ數ヲ少ナクセシムル等ノ利アルニ依リ我現行ノ選舉法ニ於テモ記名投票ノ制ヲ改メテ無記名投票ノ制トナシタリ或ハ無記名投票ニ對シテ監理者ノ不正ヲ生シ易シ又無記名投票ニ於テハ賄賂ヲ二重ニ取ル者ニ對シ制裁ヲ加フル途ナキニ依リ不徳義ノ行爲ヲ獎勵スルノ結果ヲ生ス等ノ批難ヲ爲ス者アリト雖モ此等ハ

特別ノ方法ヲ以テ其害ヲ少ナカラシムルコトヲ得サルニアラス而モ選舉ニ必要ナル良心ニ從ヒテ投票セシムルコトハ此制度ノ要點タルカ故ニ縱令此等ノ害アリトスルモ之ヲ以テ彼ニ代フルヲ得サルナリ

第三 大選舉區制及ヒ小選舉區制

大選舉區ノ極端ハ一國ヲ以テ選舉區トナスモノナレトモ小國ハ之ヲ措キ大國ニ至リテハ斯ノ如キハ到底實行スルコトヲ得サルニ依リ今日一般ニ行ハル、所ノ大選舉區ナルモノハ比較的ノ大選舉區タルニ過キササルナリ今小選舉區制ノ弊ヲ舉クレハ

一 一小區域内ノ名望家ヲ議員ニ舉クルコトヲ得ルモノ一國ノ人材ヲ舉クルコトヲ得ス

二 賄賂脅迫行ハレ易シ

三 府縣内ニ於テ多數ヲ有スルモノ小選舉區ニ分タル、カ爲メ却テ小數ノ議員ヲ出シ小數黨却テ多數ノ議員ヲ出スコトヲ得

四 同府縣内ニ於テ一方ノ選舉區内ニテハ小數ノ投票ヲ以テ選舉セラル、ヲ

得他區ニ於テハ多數ノ投票ヲ得ルニアラサレハ當選スルコトヲ得サルノ不
 公平アリ
 佛ニ於テハ大選舉區ヨリ小選舉區ニ更ニ小選舉區ヨリ大選舉區ニ改ムル等幾
 度ノ變遷ヲ經タル後遂ニ今日ニ於テハ小選舉區制ヲ採レリ然レトモ其原因ハ
 同國ニ於テハ大選舉區ト連名投票トヲ常ニ併セ用ヰタルニ因リ其弊ニ堪ヘス
 シテ小選舉區ニ遷リタルモノナリ而シテ小選舉區制ハ前述ノ批難アルニ依リ
 我國ニ於テハ選舉法改正ノトキ小選舉區ノ制ヲ更メテ大選舉區ノ制トナシタ
 リ尤モ大選舉區ノ制ト雖モ或ハ補缺選舉ヲ煩雜ナラシメ或ハ選舉ヲシテ激烈
 ナラシムル所ノ害ナキニアラサルナリ唯小選舉區ノ制ニ比シ其害少ナキノミ
 第四 直接選舉及ヒ間接選舉
 直接選舉トハ選舉人カ直チニ議員ヲ選舉スルヲ謂ヒ間接選舉トハ人民カ先ツ
 議員ヲ選舉スル所ノ選舉人ヲ選ヒ而シテ其選ハレタル所ノ選舉人カ議員ヲ選
 舉スルコトヲ謂フ或ハ便法トシテ特ニ其選舉人ヲ選舉スルコトナク當選ノ議
 員ヲ以テ組織シタル或機關若クハ或特別ノ地位ヲ有スルモノヲ以テ議員ヲ選

二

舉セシムルコトアリ是レ亦間接選舉ノ一方法ナリ
 今直接選舉ト間接選舉トノ利害ヲ稽フルニ間接選舉ノ利益トセラル、所ハ
 一 比較的智識アル者ヲシテ選舉ノ任ニ當ラシム
 二 時トシテ選舉權ヲ擴張スルノ方法トナル
 三 第二ノ間接選舉ノ方法ヲ採ルトキハ選舉費ヲ省キ又人民ヲシテ選舉ノ爲
 一々奔走セシムルノ勞ヲ減ス
 四 選舉ニ競争スルノ結果ハ選舉人相互ノ間ニ相敵視スルノ狀況ニ陥ルコト
 アルヲ免カレサルモ間接選舉ニ於テハ幾分力之ヲ減スルコトヲ得
 之ニ反シテ間接選舉ノ害トセラル、點ハ
 一 人民ヲシテ公共事務ニ冷淡ナラシム
 二 勸誘脅迫選舉人ノ間ニ行ハレ易シ
 三 二重ニ選舉ノ勞ヲ生セシム
 四 當選セラル、所ノ議員ハ人民ノ意思ニ適合セサルコトアルヲ免カレス
 要スルニ兩制トモ利害相半スルモ間接選舉ノ害トシテ列舉セラル、所ノ諸點

三

中最後ノ點ハ選舉ノ性質ニ背クモノナルニ依リ我國ニ於テハ嘗テ府縣制郡制ニ間接選舉ヲ採用シタルニ拘ハラヌ今日之ヲ廢シ又衆議院議員ノ選舉ニ間接選舉ヲ採用セザリシナリ

第五 普通選舉及ヒ制限選舉

普通選舉トハ教育財産及ヒ納稅ノ額ヲ以テ選舉權ノ要件トナサヌ男子ニシテ或年齡ニ達シタルモノニハ凡テ均一ニ選舉權ヲ與フルノ制度ナリ此制度ハ獨逸ノ帝國議會ニ於テ採用セラレ佛國ニ於テモ行ハルハモノナリト雖モ其缺點ヲ指示セハ
一 誘惑及ヒ脅迫選舉人間ニ行ハレ易シ
二 廣ク一般ノ者ニ選舉權ヲ與フルトキハ多數ノ者ハ議員候補者ニ對スル鑑識力ヲ有セサルカ故ニ當選者其人ヲ得サルノ虞ナキニアラス
三 財産アリ及ヒ教育アル少數者ヲ多數者ニテ壓制スルノ弊ヲ生ス
故ニ一般ノ教育ノ程度尙ホ一層進歩シタルトキニ於テハ普通選舉ノ制可ナラサルニアラスト雖モ我國今日ニ於テハ之ヲ採用スルコト早キモノナルコトヲ

信ス

制限選舉ハ今日尙ホ廣ク行ハル、モノニシテ之ヲ區別スルトキハ左ノ二者ニ分ル、モノナリ

甲 等級選舉 等級選舉トハ納稅ノ多寡ニ從ヒ選舉人ヲ數級ニ分チ各級ノ選

舉人ヲシテ其級數ニ分タレタル同數ノ議員ヲ選舉セシムルモノナリ此制度ハ我市町村制ニ於テ採用スル所ナリト雖モ富者壓制ノ弊ヲ導キ賄賂行ハレ易カラシムルノ缺點アリ且選舉區ヲ設クル所ニ於テハ各選舉區間ニ於テ選舉人ノ權利ニ等差ヲ生スルノ不公平ナキニアラサルナリ

乙 複數投票 複數投票ノ制ハ財産及ヒ納稅ノ多寡及ヒ教育ノ程度ニ從ヒ一ノ選舉人ニ二人以上ノ人ヲ選舉スルノ權ヲ與フルモノナリ此制度ハ其投票ノ數ニ財産額及ヒ教育ノ程度ヲ比例セシムルノ標準ヲ見出スコト困難ナラサルニアラス

丙 普通制限選舉 普通制限選舉トハ通常納稅ノ額ヲ選舉人ノ資格要件トナスノ制度ナレトモ時トシテ納稅額ノ外ニ教育上ノ程度ヲ以テ選舉權行使ノ

要件トナスモノナキニアラサルナリ而シテ我國現行衆議院議員選舉法ニ於テ採用スル所ノモノモ又其前者ノ制ニシテ即チ或納稅ノ額ヲ以テ選舉人ノ資格要件トナスモノナリ

第六、多數代表法及ヒ少數代表法

從來行ハレタル選舉制度及ヒ現時行ハル、所ノ多クノ選舉制度ハ多數代表法ニ依ルモノナレトモ多數代表法ヲ採用スルトキハ多數ヲ以テ少數ヲ壓スルノ弊ナキニアラサルカ故ニ十九世紀ノ後半ニ至リ少數代表法ヲ研究スル者漸次増加シ今日試験的ニ之ヲ採用スル國少ナカラスニシテ勝リタルモノナキニアラサルヨリ少數ノ代表者モ之ヲ議員ニ選出セシメントスルニアルモノナリ而シテ此主旨ニ基ク選舉ノ方法ニ數種アリ今其主ナルモノヲ擧タレハ
甲、有限投票法 此方法ニ於テハ選舉區内ノ議員ノ定數ヨリ減セラレタル人員ヲ選舉スルノ權ヲ選舉人ニ與ヘントスルモノナリ然レトモ此制度ハ二種以上ノ黨派アルトキ十分其效ヲ奏セサルノミナラス選舉區議員ノ定數ノ多

寡ニ應シ其定數ヨリ何名減スヘキヤヲ定ムルノ困難ヲ有スルノ缺點アリ

乙、積聚投票法 此制度ニ於テハ選舉人ヲシテ選舉區内ノ議員ノ定數ヲ投票

セシムルモ其投票紙ニ必スシモ定數ノ異ナリタル候補者ヲ書スルヲ要セス一人ノ候補者ヲ議員ノ定數程書スルコトヲモ得ルモノナリ此制ノ缺點ハ選舉ノ結果ハ殆ト天運ニ因リテ定マリ議員ノ種別黨派ノ大小ニ應セサルコト多キコト、ナルナリ

丙、議決權等差投票法 此制度ニ於テハ議員タルヘキ投票數ノ最下點ヲ定メ其投票ノ多寡ニ應シ議決權ニ等差ヲ付スルナリ乍併根本ニ於テ其法理ヲ失ヘリ

丁、團體代表投票法 國內ノ各種ノ團體ヨリ代表者ヲ出サシムルノ方法ナリ然レトモ此制度ハ團體ノ數無數ナルトキハ之ヲ實行スルコト難ク又議會ナルモノハ團體ノ利害ヲ決スルモノニアラサルニ依リ理論宜シキヲ得タルモノニアラサルナリ

戊、比例分配投票法 此方法ハ黨員ノ多寡ニ應シ其數ニ比例シテ議員ヲ各派

又ヨリ出サシメントスルモノナリ而シテ此方法ニ數種アリ

(イ) 比例分配單記投票法 此方法ハ選舉人ヲシテ單名投票ヲ行ハシムルモノニシテ且此方法ニテハ先ツ議員ノ總數ニテ選舉シタル人員ノ總數ヲ除シ其得タル數ヲ以テ一人ノ議員ヲ出スニ足ルノ定數トナシ此定數ノ投票ヲ得タル者ヲ以テ當選者トナスモノナリ然レトモ此方法ニ依ルトキハ單記ナルカ爲メ若シ一人ノ候補者ニ凡テノ投票集合スルトキハ定數ノ議員其ヲ得ルコト能ハサルニ依リ左ノ二方法ヲ生シタリ

(A) 讓與法 此方法ニテハ或候補者ニシテ其得タル投票數右ニ述ヘタル定數ニ超過シタルトキハ其超過シタル分ヲ自己ノ指名シタル他ノ候補者ニ讓與スルコトヲ得ルモノナリ此方法ノ缺點ハ人民ノ意思ニ適合セサル者議員トナルコトアルニアリ

(B) 副記法 此方法ニテハ選舉人ヲシテ其希望スル候補者ヲ一名記スル外尙ホ數多ノ候補者ヲ副記セシメ右ノ定數ニ超過シタル投票ハ之ヲ副記ノ候補者ニ與フルノ方法ナリ

此副記法ノ比例分配投票制ハ丁抹ニテ行フ所ノモノナリ此方法ノ利益トシテ舉ケラル、點ハ賄賂ノ效力ヲ尠少ナラシムルト名望高キ者ヲ議院議員ニ出スコトヲ得ルノ點ニアリ

(ロ) 比例分配名簿投票法 此方法ノ目的モ亦前述セシモノト相同シト雖モ唯投票ノ手續ニ異ナル所アルハ名簿ニ投票セシムルニアリ又此方法ヲ用ヰル國ニ於テハ選舉人ヲシテ選舉前ニ或定數ノ連署アル以上ハ候補者ノ名簿ヲ得セシムルモノナリ而シテ此方法ニ二種アリ

(A) 限定名簿投票法 此制度ニ依レハ必ス何レカノ名簿ニ投票セサルハカラサルモノニシテ自由ニ甲ノ名簿ヨリ一名乙ノ名簿ヨリ數名ヲ選舉スルカ如キコトヲ爲スヲ得ス

(B) 自由名簿投票法 此方法ニテハ名簿ニ拘泥スルコトナク名簿中ノ人ヲ選舉スル以上ハ數多ノ名簿中ヨリ隨意ニ選擇シテ定數ノ議員ヲ投票スルコトヲ得セシムルモノナリ

總テ此名簿投票法ニ於テ利益アル點ハ若シ名簿ニ記載スル所ノ候補者ノ

數ニシテ議員ノ定數ト相同シキトキハ特別ニ選舉ノ手續ヲ採ルコトナク直チニ其候補者ヲ以テ議員トナスノ便法ヲ用井得ルニアリ而シテ此限定名簿投票法ハ白耳義ニ於テ採用セラル、所ノモノナリ

右甲以下ノ制度ハ凡テ少數代表ノ趣意ヲ貫徹スルカ爲メ案出セラレタル方法ニシテ近時各國漸ク之ヲ採用スルノ傾向アルニ拘ハラヌ我國明治三十三年ノ選舉法改正ニ當リ此等ノ方法ヲ採用セス唯其中有限投票法ヲ參照シ其極端ナル單記投票ノ制ヲ採リタルハ此等ノ中ニ於テ最モ完全ナリト稱セラル、比例代表法ハ其方法複雑ニシテ未タ我選舉人ノ智識ノ程度ニ適合セストナシタルカ爲メナリ

我國ニテ採用シタル大選舉區單記投票ノ方法ハ幾分カ多數壓制ノ弊ヲ防キ黨派ノ所屬ニ拘ハラヌ廣ク議員トシテノ適材ヲ舉クルヲ得ルノ利アリト雖モ其缺點ハ補缺選舉ノ場合ニ在リ我現行ノ選舉法ハ大選舉區ノ制ヲ採リタルカ爲メ一人ノ議員缺ケタル場合ニ於テモ凡テ其選舉區内ノ選舉人ヲ勞セシメ且一人ノ議員ヲ選舉スル場合ハ必ス多數ノ黨派ニ屬スル者勝ヲ制スヘク若シ補缺選舉ニシテ

再三繼續シタルトキハ一選舉區内ノ凡テノ議員ハ悉ク多數ノ黨派ニ屬スル者ニ依リ獨占セラル、ニ至ルヘシ此等ノ弊ヲ防クカ爲メ選舉法ハ一ノ便法ヲ設ケ一今年間ハ補缺選舉ヲ行ハス次點者ヲ採ルノ制ヲ立テタルモ是レ亦選舉人ノ意思ニ適合セサルノ結果ヲ生スルノ缺點ヲ有スルモノナリ

明治三十三年三月法律第七十三號ヲ以テ公布セラレタル現行改正選舉法ニ依レハ選舉人ノ資格要件左ノ如シ

- 一 日本帝國臣民タル男子ニシテ選舉人名簿調製ノ日ヨリ起算シ年齢滿二十五年以上ナルコト
- 二 選舉人名簿調製ノ期日前滿一年以上其選舉區内ニ住所ヲ有シ尙ホ引續キ有スル者ナルコト
- 三 少ナクトモ選舉人名簿調製ノ期日前滿一年地租納稅額十圓以上又ハ少ナクトモ滿二年地租以外ノ直接國稅十圓以上若クハ地租ト他ノ直接國稅トヲ合シテ十圓以上ヲ納メ尙ホ引續キ納ムル者ナルコト
- 四 左ノ事情ノ下ニ在ラサルコト

(イ) 禁治産者準禁治産者、身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ了ヘサル者及ヒ家
資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ其確定シタル時ヨリ復權ノ決定確定スルニ
至ラサル者

(ロ) 剝奪公權者、停止公權者又ハ禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル時ヨリ其裁判
確定スルニ至ルマテノ者

(ハ) 華族ノ戸主

(ニ) 陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者及ヒ戰時若クハ事變ニ際シ召集中ノ者

(ホ) 官立、公立、私立學校ノ學生、生徒

(ヘ) 選舉ニ關スル犯罪ニ依リ刑ニ處セラレ裁判所ノ宣告ニ因リ選舉人及ヒ被
選舉人タルコトヲ禁セラレタル者

又我選舉法ニ依ル被選人タルノ資格要件ハ

- 一 帝國臣民タル男子ニシテ選舉期日ヨリ起算シテ年齡滿三十年以上ナルコト
- 二 左ノ事情ノ下ニ立タサル者

(イ) 選舉人ノ資格要件ノ四ノ(イ)ヨリ(ヘ)ニ該當スル者

(ロ) 政府ノ爲メニ請負ヲ爲ス者又ハ政府ノ爲メ請負ヲ爲ス法人ノ役員

(ハ) 神官、僧侶其他諸宗ノ教師、小學校教員

(ニ) 選舉事務ニ關係アル官吏(其選舉區内ニ於テ)

(ホ) 宮内官、判事、檢事、行政裁判所長官及ヒ評定官、會計検査官、收稅官及ヒ警察官

(ヘ) 歸化人、歸化人ノ子ニシテ日本ノ臣民籍ヲ得タル者及ヒ日本人ノ養子又ハ

入夫トナリタル者(或年
限間)

此他議員ノ被選舉資格ヲ有スルモ議員タルコトヲ得サルモノアリ即チ議員ニ當
選セラル、コトヲ得ルモ議員ト爲ルニハ或要件ヲ必要トス其場合左ノ如シ

一 前ニ掲ケタル以外ノ官吏

官吏ニシテ當選ヲ承諾スルコトヲ得ルハ處理ニ支障ヲ來サ、ルトキニ限ルモ
ノナリ

二 府縣會議員及ヒ貴族院議員

此等ノ者ニシテ議員ノ當選ヲ承諾セントスルトキハ先ツ現議員ヲ辭スルコト
ヲ要ス

帝國議會
ノ法律上
ノ地位

或ハ多額納稅者ハ衆議院議員タルノ被選資格ナシト説ク者アレトモ選舉法ニハ之ヲ制限シタルノ明文ナク且多額納稅者規則第四條ニ衆議院議員ノ選舉ニ係ル犯罪ニ因リ被選權停止中ノ者ヲ以テ互選人タルヲ得スト規定セラル、ヲ以テ多額納稅者ノ互選人モ衆議院議員ノ選舉權ヲ有スルモノト斷定シテ誤ナシト信ス

第四節 帝國議會ノ法律上ノ地位

議會ノ法律上ノ地位ニ付テハ種々ノ學說アリ或ハ曰ク議會ハ立法權ノ主體ナリト或ハ曰ク統治權ノ主體ナリト又或ハ曰ク統治權ノ客體ナリト然レトモ我帝國議會ハ法律上天皇ニ隸屬スル一ノ機關ニ過キササルナリ今上ニ掲ケタル學說ニ對シ聊カ批評ヲ試ミンカ先ツ第一ノ議會ハ立法權ノ主體ナリトノ説ハ夫ノ三權分立説ニ其根據ヲ置クモノナルカ故ニ既ニ三權分立説ニシテ謬妄ナル以上ハ此説ノ誤リナルコトハ言ヲ俟タスシテ明カナリ次ニ第二、第三ノ説ハ共ニ議會ハ國民ヲ代表スルモノナリトノ説ニ基クモノナリ然レトモ國民代表説ノ誤レルコトハ第一其議會ヲ組織スル議員ノ選舉ノ方法ニ因リテ之ヲ知ルコトヲ得ヘシ即チ若シ議會カ國民ヲ代表スルモノナリトセハ國民ナル一ノ團體ト議員トノ間ニ代表

關係ヲ生スヘキ密接ノ關係ナカルヘカラス然ルニ議會ヲ組織スル所ノ議員ハ或ハ世襲ニ出テ或ハ勅選ニ依リ又議員中選舉ニ係ル者ト雖モ國民全般ノ投票ヲ以テ選出セラル、モノニアラスシテ或ハ特別ノ階級ヨリ、或ハ特別ノ資格ヲ有スル者ヨリ選出セラル、ナリ第二ニ之ヲ別ニシテ考ヘ若シ選舉人カ國民全體ニ代ハリテ議員ヲ選舉スルモノトセハ或ハ代表ノ原理ヲ以テ説明スルコトヲ得ヘシト雖モ國民ナルモノハ素ト國家ヲ離レテ特別ナル一ノ法人ヲ成スモノニアラス從テ選舉人ハ國民ヲ代表シテ其國民ノ代表者ヲ選出シタルモノト云フコトヲ得ス殊ニ選舉人ハ一人モ棄權スルコトナク總テ投票スルヲ期スルコトヲ得ス又選舉人ハ落選者ニ投票スルコトアルヘキハ固ヨリナルヲ以テ假リニ選舉人ニシテ國民ヲ代表スルモノナリトスルモ尙ホ其被選人即チ議員ハ選舉人ノ全體カ之ヲ選出シタルニアラスシテ其一部ノ選出ニ過キササルナリ故ニ議會ヲ以テ國民ノ代表者ナリト説明スルハ到底誤謬タルヲ免カレス從テ國民ヲシテ權力ノ主體ナリトスルモ議會ハ統治權ノ主體ニアラス又國民ハ被治者ナリトスルモ議會ハ統治權ノ客體タルモノニアラサルナリ

或ハ又議會ヲ以テ君主ト共同シテ立法權ヲ行フ所ノ機關ナリト説ク者アリ此説ハ歐洲二三ノ國ノ憲法ノ明文ニ起因スルモノナルヘキモ我國ニ於テハ憲法ノ規定上立法權ヲ行フ者ハ君主ニシテ議會ハ君主ノ立法行為ニ協賛スルニ過キス故ニ議會ハ君主ト併立ノ地位ヲ有スルモノニアラスシテ君主ノ下位ニ存在スル機關ナリ君主ト同等ニ國務ヲ處理スルニアラスシテ君主ノ命令ニ依リテ定マリタル職務ヲ執行スル機關ナリト云フヘシ

國家ノ機關中人格ヲ有スルモノト有セサルモノトアリ帝國議會ハ人格ヲ有セサル機關ノ一ニ屬ス唯特別ノ場合ニ於テ人格ヲ有スルト同様ノ行為ヲ爲スコトヲ認メラレタルニ過キサレナリ(明治二十二年法律第二十八號)

帝國議會ノ權限

第五節 帝國議會ノ權限

帝國議會ノ權限ハ主トシテ憲法ニ依リテ定マレリト雖モ憲法ハ帝國議會ノ權限ニ屬スル事項ヲ統治權ヨリ分割シテ之ヲ議會ニ付與シタルモノトハ考フヘカラス何トナレハ統治權ハ不可分ナレハナリ故ニ帝國議會ノ權限ノ憲法ニ依リテ定マルコト、君主カ統治權ヲ總攬スルコト、ハ決シテ相牴觸スルモノニアラス又

帝國議會ハ其權限ニ屬スル所ノ行為ヲ以テ君主ノ行為ヲ制限スルモノト考フルコトヲ得ス何トナレハ帝國議會ノ權限ナルモノハ君主ノ命令ノ一ナル憲法ニ依リテ定マレルモノナレハナリ

帝國議會ノ權限ニ屬スル事項ヲ左ニ列擧スヘシ

第一 國政ニ參與スルコト

一 憲法及ヒ法律制定ニ參與スルコト

(イ) 憲法改正案ヲ議スルコト

(ロ) 法律案ニ協賛ヲ與フルコト

(ハ) 緊急勅令ニ承諾ヲ與フルコト

民主國ニ於テハ法律ハ議會ノ議決ヲ以テ成立シ裁可ヲ必要トセサルモノトナカラス例ヘハ佛國大統領ノ如キハ議會ノ議決ニ對シテ唯再議ヲ要求スルノ權ヲ有スルノミ然レトモ我國ノ如キ君主國ニ於テハ裁可權ハ君主ニ專屬シ而シテ法律ハ裁可ニ因リテ成立シ議會ハ唯事前ニ於テ法律ノ制定ニ協賛ヲ與フルカ或ハ事後ニ於テ之ニ代ハルヘキ勅令ニ承諾ヲ與フルノ權ヲ有ス

ルニ過キサレナリ(憲法八)

二 財政ニ參與スルコト

(イ) 新税ノ賦課及ヒ税率ノ變更ニ協賛ヲ與フルコト

(ロ) 國債ヲ起シ國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スニ付キ協賛ヲ與フルコト

(ハ) 豫算ニ協賛ヲ與フルコト

(ニ) 豫算超過又ハ豫算外ノ支出ニ對シ承諾ヲ與フルコト

(ホ) 緊急財政處分ニ承諾ヲ與フルコト

(ヘ) 決算ヲ審査スルコト(以上憲法六二、六四、七)

(ト) 毎年度大藏省債券發行最高額ヲ決定スルコト(會計法九)

右ノ外條約案ニ協賛スルノ權ヲ議會ニ與ヘタル國ナキニアラサルモ我邦ニ於テハ議會ニ斯ル權限ヲ與フルコトナシ

第二 國政ニ關シ意見ヲ述ヘ及ヒ議會自身ヲ保護スルコト

一 上奏スルコト

國事ニ關シテハ如何ナル事項ニ付キ上奏スルモ可ナリ即チ過去ノ事項タル

ト將來ノ事項タルト或ハ時ノ政府ノ施政ノ方針ヲ批難スルト或ハ立法上行政上改良ノ希望ヲ陳述スルトヲ問ハス議會ハ自由ニ上奏ヲ爲スコトヲ得ルモノナリ我邦ニ於テハ貴衆兩院ハ各上奏ヲ爲スヲ以テ通例トスルモ英國ニ於テハ兩院共同シテ上奏ヲ爲スコト稀ナラス(議院法五)

二 建議スルコト

我憲法第四十條ハ君主ニ上奏スルノ外政府ニ建議スルノ權ヲ帝國議會ノ各院ニ認メタリ建議ハ君主ニ提出スルモノニアラスシテ政府ニ爲スモノナリ而シテ其建議スル事項ニ付テハ別ニ制限ナキモ建議ハ上奏ト異ナリ主トシテ將來ニ對スル希望ヲ述フルニ止マルモノナリ立法事項ニ付テハ議會ハ建議スル權ヲ有スルト共ニ又發案權ヲ有スルヲ以テ其何レノ方法ニ依ルモ目的ヲ達スルコトヲ得ヘシト雖モ建議スル場合ハ政府ヲシテ發案セシメントスルニアルヲ以テ議會自ラ發案スルノ勞ヲ省クコトヲ得然レトモ政府ハ又必スシモ議會ノ建議ヲ容レテ發案セサルヘカラサルモノニアラサルヲ以テ必スシモ議會ノ希望ノ如ク法律案ヲ提出スルコトヲ期スルコトヲ得ス要ス

ルニ此兩方法ハ一得一失ヲ有スルモノニシテ畢竟議院ハ機宜ニ應シテ其方法ヲ選擇スヘキモノナリ
建議ヲ爲スニ付キ必要ナル條件ハ採用セラレサリシ建議ヲ同會期中ニ再ヒ提出スルコトヲ得サルコト是ナリ又建議上奏ニ共通ノ條件ヲ舉クレハ左ノ如シ

- (イ) 上奏及ヒ建議ハ必ス文書ヲ以テセサルヘカラス
- (ロ) 議院ニ於ケル上奏及ヒ建議ノ動議ハ必ス三十名以上ノ賛成アルコトヲ要ス

三 請願ヲ受クルコト

憲法第五十條ハ兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クルコトヲ得ト規定シ各院別々ニ請願ヲ受クルノ權アルコトヲ明カニセリ而シテ第三十條ハ臣民ニ請願權アルコトヲ認メタルヲ以テ各議院ハ請願アリタルトキハ必ス之ヲ受理スルノ義務アルモノナリ(議院法六二七)然レトモ之ヲ受理シテ審査委員ニ付スル以上ハ之ヲ政府ニ廻送スルト否トハ議院ノ自由ナリ

或國ニ於テハ議院ニ直接ニ請願書ヲ呈出スルコトヲ禁シ又或ハ請願ハ必ス下院ニ呈出スヘキモノト定ムル國ナキニアラスト雖モ我邦ニ於テハ左ノ要件ヲ具備スル以上ハ臣民ハ各議院ニ請願書ヲ呈出スルコトヲ得ルモノナリ

- (イ) 議員ノ紹介アルコト
- (ロ) 請願ノ方式ニ依ルコト
- (ハ) 憲法變更及ヒ司法行政ノ裁判ニ關セサルコト
- (ニ) 皇室ニ對シテ不敬ノ語ヲ用井或ハ政府、議院其他ニ對シ侮辱ノ言語ヲ用井サルコト(議院法六二七)

四 議員ノ逮捕ニ付キ承諾ヲ與フルコト

兩議院ノ議員ヲ會期中ニ逮捕セントスルトキハ憲法第五十三條ニ依リ現行犯罪又ハ内亂外患ニ關スル罪ヲ除クノ外其院ノ許諾ヲ經ヘキモノトス此點ニ關シ一個ノ疑問アリ即チ會期前既ニ逮捕セラレ拘留中ノ議員ヲ引續キ拘留セントスルトキハ議院ノ許諾ヲ要スヘキモノナルヤ否ヤトノコト是ナリ伊太利ニ於テハ此場合ニ更ニ許諾ヲ求ムヘキノ明文アルモ我邦ニ於テハ斯

ル特別ノ規定ナキヲ以テ會期中ニ逮捕スル場合ニ於テノミ議院ノ許諾ヲ要スルモ本問ノ如キ場合ニハ其許諾ヲ要セスシテ拘留ヲ繼續スルコトヲ得ルモノト解セサルヘカラス又獨逸ニ於テハ開會ノ當時既ニ審問セラレ若クハ拘留中ナルトキハ議院ハ政府ニ對シテ其開放若クハ審問ノ中止ヲ請求スルコトヲ得ルノ規定アルモ我邦ニ於テハ何等ノ明文ナキニ依リ議院ハ亦斯ノ如キ權ヲ有セスト云ハサルヘカラス

五 法律案、豫算案其他議會ノ議案ニ關スル事項ニ付キ直接ニ調査ヲ爲スコト「英吉利及ヒ佛蘭西ニ於テハ議院カ調査ノ爲メ特別ノ委員ヲ選任シ其委員ハ官廳ト直接往復ヲ爲シ或ハ證人ヲ召喚シテ其陳述ヲ聽キ以テ種々ノ調査ヲ爲スコトヲ得ルモノトシ又普漏西ノ憲法ニ於テモ各議院ハ事實審査ノ爲メ委員ヲ命スルコトヲ得ト明定セリ然レトモ我邦ニ於テハ議院ニ對シテ斯ル權限ヲ付與スルコトナキノミナラス議院法第七十二條ニハ「各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルコトヲ得ス」第七十三條ハ「各議院ハ審査ノ爲メニ人民ヲ召喚シ及ヒ議員ヲ派出スルコトヲ得ス」第七十五條ニ於テ「各議院ハ國務大臣及

ヒ政府委員ノ外他ノ官廳及ヒ地方議會ニ向テ照會往復スルコトヲ得ス」ト明定シ議會ハ直接ニ人民官廳又ハ地方議會ト交渉スルコトヲ禁止セリ唯議院法第七十四條ニ「各議院ヨリ審査ノ爲メ政府ニ向テ必要ナル報告又ハ文書ヲ求ムルトキハ政府ハ祕密ニ涉ルモノヲ除ク外其求ニ應スヘシ」ト規定シ以テ頗ル狹少ナル範圍ニ於テ調査權ヲ認メタルニ過キサリナリ

六 起訴スルコト

英吉利、佛蘭西、普漏西其他議院ノ彈劾權ヲ認ムル國ニ於テハ議院ハ彈劾權ヲ有スルモ我邦ニ於テハ議院ニ對シ斯ノ如キ權ヲ認メス唯議院カ誹毀侮辱ヲ受ケタル場合ニ於テ之ヲ起訴スルコトヲ得ルノ權ヲ認メタルノミ

第三

一 議會ノ内部ニ關スル事務ヲ行フコト
一 院内ノ組織ヲ定メ竝ニ院内ヲ整理スルコト
(イ) 議長、副議長ヲ選舉スルコト
多數ノ國ニ於テハ議長、副議長ハ議會ニ於テ直チニ選任シ(葡、牙ニテハ兩院議長トモ勅任)
加之議會ニ附屬スル職員モ亦併セテ之ヲ選任スルナリ然レトモ我邦ニ於

ナハ議會ノ職員ハ總テ官吏ヲ以テ之ニ充テ議會ニ於テ之ヲ選任スルコト
 ナク議長、副議長ニ付テモ唯衆議院ニ於テノミ其議長、副議長ノ候補者三名
 宛ヲ推薦シ其中ヨリ勅任セラル、ヲ俟ツニ過キス(議院法三七八)貴族院ノ議長、副
 議長ハ七年ノ任期ヲ以テ直チニ議員中ヨリ勅任セラル、(伊太利、奧地利及
 上院議長勅任モノナリ(貴院一)尙ホ副議長ノ數ニ關シテハ二名或ハ四名ヲ設クル
 長勅任)ノ國ナキニアラサルモ我邦ニ於テハ一名ナリ又我邦ニ於テハ議長、副議長
 ノ勅任セラル、マテハ書記官長其職ヲ行フモノトセラル、モ(議院法三末項)年長
 ノ議員ヲ以テ之ニ充ツル國亦尠ナカラサルナリ

(ロ) 内部ノ整理ニ必要ナル規則ヲ定ムルコト

憲法第五十一條ハ兩議院ハ此憲法及ヒ議院法ニ掲クルモノ、外内部ノ整
 理ニ必要ナル諸規則ヲ定ムルコトヲ得ト規定ス之ニ依リテ定メラレタル
 規則ハ院内ニ於ケル總テノ者ニ對シテ效力ヲ有シ議員、傍聽人ノミナラス
 政府委員並ニ國務大臣ニ對シテモ其拘束力ヲ及ホスモノトス但外部ニ對
 シテハ全ク效力ナシ

(ハ) 院内ノ秩序ヲ保ツコト

議場内ニ於テ秩序ヲ亂ス者アルトキハ之ヲ制止シ若シ肯カサルトキハ退
 場セシメ或ハ警察官ニ引渡シ尙ホ囂騒ナルトキハ當日ノ議會ヲ中止若ク
 ハ閉會スルコトヲ得ルナリ(議院法一七衆議院規則一二)

二 議員ニ關スル職務ヲ行フコト

(イ) 議員ノ資格ヲ審査スルコト

普漏西ニ於テハ議員ノ資格ヲ審査スルコトハ總テ兩院ニ專屬スルモ我邦
 ニ於テハ此點ニ關シテ兩院ノ權限ニ差異アリ即チ貴族院ニ於テハ議員ノ
 資格及ヒ選舉ノ效力ヲ專ラ判決スルコトヲ得ルモ(貴族院令九)衆議院ニ於テハ
 資格審査ノ權ヲ行フコトヲ得ルノミニシテ選舉ノ效力ヲ判定スルコトハ
 全ク司法裁判所ノ管轄ニ屬ス而モ其審理中ハ衆議院ニ於テ同一議員ニ對
 スル資格ノ審査ヲ中止セサルヘカラサルナリ

(ロ) 議員ヲ懲戒スルコト

議院法第九十四條ハ各議院ハ其議員ニ對シ懲罰權ヲ有スト規定ス而シテ

其懲罰ノ種類ハ(一)公開シタル議場ニ於テ譴責スルコト(二)公開シタル議場ニ於テ謝辭ヲ陳ヘシムルコト(三)一定時間出席ヲ停止スルコト(四)除名スルコト等ナリ(議院法九六)

議院ノ懲罰權ハ國務大臣ニ及フヤ否ヤニ付テハ議論ナキニアラス然レトモ我邦ノ憲法ニ於テハ及ハサルモノト解スルヲ正當トス蓋シ國務大臣ハ憲法第五十四條ニ依リ出席發言ノ權ヲ有スルヲ以テ縱令議院ニ於テ懲罰スヘキ原因アリト認ムルモ其出席發言ノ權ハ之ヲ防止スルコトヲ得サレハナリ

(ハ) 議員ノ請暇及ヒ辭職ヲ許可スルコト

請暇トハ闕席ヲ請求スルヲ謂フ英吉利ニ於テハ議員ノ闕席ハ總テ議院ノ許可ヲ要スルモ我邦ニ於テハ一週間ヲ超過セサル請暇ハ議長ニ於テ之カ許可ヲ爲スコトヲ得ルモノトセリ故ニ一週間以上ノ請暇ハ必ス議院ノ許可ヲ要ス(議院法八一、八二、衆議院規則第十一節)獨逸、奧地利、普漏西ノ諸國ハ八日以内ノ請暇ニ付テハ議長之ヲ許可スルコトヲ得ルモノトセリ又我邦ニ

於テハ休會中ノ請暇モ議長ニ於テ之ヲ許可スルコトヲ得ルモノトナセリ

議員ノ辭職ニ付テハ衆議院議員ニアリテハ議院法第八十三條ニ依リ議院ニ於テ之ヲ許可スルモ貴族院議員ニアリテハ公侯爵議員ハ其資格ヲ失ヒ勅選議員ハ勅許ヲ得ルニアラサレハ其職ヲ辭スルコトヲ得サルモノナリ

第六節 議事ノ手續

第一 定足數ノ議員ノ出席ヲ要ス

定足數ニ付テハ各國ノ制度一ナラス或ハ英國ノ如ク六百四十八ノ議員中四十人ノ出席ヲ以テ定足數トナスアリ或ハ佛國、獨國ノ如ク過半數ノ出席ヲ以テ議事ヲ開クニ必要ナル定足數トナスアリ我邦ニ於テハ憲法第四十六條ヲ以テ總議員ノ三分ノ一ノ出席ヲ以テ議事ヲ開クコトヲ得ヘキ定數トナセリ之カ例外ハ憲法第七十三條第二項ノ場合ニシテ即チ憲法改正案ヲ議スルニハ三分ノ二以上ノ出席ヲ要スルモノトセリ

第二 議決スルニハ出席議員定數ノ同意アルコトヲ要ス

多數ノ國ニ於テハ出席議員ノ過半數ノ同意ヲ以テ議決ニ必要ナルモノトナシ

我國ニ於テモ亦憲法第四十七條ニ依リ兩議院ノ議事ハ過半數ヲ以テ決スヘキモノト定メタリ而シテ可同數ナルトキハ我邦ニ於テハ議長ノ決スル所ニ任スルモ獨、普、佛、白其他多數ノ國ニ於テハ議長ノ決裁權ハ之ヲ認メス余モ立法論トシテハ議長ニ決裁權ヲ與フルヲ非トスルモノナリ蓋シ元來過半數決ナルコトカーノ便宜ニ出テタル例外規定ナリ然ルニ議長ニ決裁權ヲ與フルハ便法ニ便法ヲ重ヌルモノニシテ理論上宜シキヲ得ス且此制ハ議長ヲシテ專斷ノ弊ニ陷ラシムルノミナラス元來議長ノ地位ハ公平ヲ主旨トセサルヘカラサルニ可否ノ意見ヲ表示セシメ其意見ノミニ因リテ議決ヲ左右スルコトヲ得セシムルハ議長ヲシテ偏頗ニ陷ラシムルノ虞アレハナリ我邦ニ於テハ管ニ帝國議會ノ議決ノミナラス府縣會、郡市町村會等ニ於テモ總テ可同數ナルトキニ議長ノ決裁權ヲ認メタリ

右ニ述ヘタル過半數決ノ例外ハ憲法第七十三條ノ場合ニシテ即チ憲法改正案ヲ議決スルニハ出席議員三分ノ二以上ノ多數決ニ依ラサルヘカラサルナリ

第三 議事ハ公開スルコトヲ要ス

獨逸憲法第二十二條ニ於テハ議事ハ公開スト規定スルニ止マリ秘密會ニ關スル規定存セサルヲ以テ秘密會ト爲スコトヲ得ルヤ否ヤニ付キ學者間ニ議論アルモ我憲法第四十八條ニハ兩議院ノ會議ハ公開ス但シ政府ノ要求又ハ其院ノ決議ニ依リ秘密會ト爲スコトヲ得ト規定シ明文ヲ以テ前示二個ノ場合ニ限り秘密會ト爲スコトヲ得ルコト、セリ佛蘭西ニ於テハ法定ノ議員ノ要求アリタルトキハ其院ノ決議ヲ要セスシテ秘密會ト爲スコトヲ得ルモノナリ

第七節 議員

第一款 議員ノ特權

第一 質問權

議員ハ三十人以上ノ賛成者アルトキハ議院法第四十八條乃至第五十條ニ依リ政府ニ對シ質問ヲ爲スコトヲ得而シテ政府ハ此質問ニ對シテハ必ス答辯スヘク若シ答辯セサルトキハ其理由ヲ明示スヘキモノナリ或ハ質問ヲ以テ一種ノ彈劾ト考フル者ナキニアラサルモ我邦ニ於テハ之ニ彈劾ノ性質ナシ質問ハ普通ノ意義ニ同シク不明瞭ナル事項ニ付キ唯其説明ヲ求ムルニ過キス

第二 發言表決ノ自由權

憲法第五十二條ニハ兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付院外ニ於テ責ヲ負フコトナシ但シ議員自ラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキハ一般ノ法律ニ依リ處分セラルヘシト規定シ以テ議員發言表決ノ自由權ヲ認メタリ此規定ハ基礎ヲ英國憲法ニ汲ムモノニシテ今日ニ於テハ各國ノ憲法殆ト之ヲ認メサルモノナク其規定ノ精神ハ議員ヲシテ政府ノ干涉ヲ受クルコトナク獨立自由ニ其職務ヲ行ハシメントスルニアルナリ故ニ此規定ハ議員トシテ其職務ヲ行フ場合ニ限り適用セラル、モノニシテ議員カ院外即チ選舉區ニ於テ發表シタル言論又ハ不法ニ即チ議長ノ許可ヲ得スシテ發言シタル場合ノ如キハ適用セラレサルナリ又此規定ハ院外ニ於ケル責任ヲ免除スルニ止マルモノナルヲ以テ院內ニ於テノ言論カ議事規則ニ背キ又ハ皇室ニ對シテ不敬ナルトキ或ハ又他ノ議員ニ對シテ無禮ナルトキハ之ニ對シテ一定ノ制裁ヲ受ケサルヘカラサルハ勿論ナリトス(議院法九一、九二)而シテ憲法第五十二條ノ規定ニ付テハ尙ホ左ノ疑問アリ

一 「意見」ナル文字中ニハ事實ノ陳述ヲモ包含スルヤ 之ヲ包含スト主張スル論者ハ曰ク意見ノ陳述ト事實ノ陳述トハ之ヲ區別スルコト難キモノナルヲ以テ寧ロ意見ナル文字ヲ廣義ニ解シ事實ノ陳述ヲ包含スルモノト解スルヲ正當トスト然レトモ區別困難ナリトノ理由ヲ以テ區別ヲ存セサルモノトスルハ非理ナリ意見トハ思考力ノ結果ニシテ事實トハ實際ノ存在ヲ謂フ即チ此兩者ハ明カニ文字ノ意義ヲ異ニスルノミナラス既ニ普國ノ憲法第八十四條ニ關シテモ頗ル議論アリタルニ拘ハラズ尙ホ我憲法カ意見ナル文字ヲ採用シタルヲ以テ見レハ事實ノ陳述ハ之ヲ含マシメサルノ法意ト解スルコトヲ至當ナリト信スルナリ

二 「發言」ナル文字中ニハ文書ヲ以テ意見ヲ發表シタル場合ヲモ包含スルヤ 此場合ニハ廣義ニ解釋シ發言トハ言語ヲ以テ意見ヲ發表スル場合ト文書ヲ以テ意見ヲ發表スル場合トヲ含ムモノトスヘキナリ蓋シ單ニ言語ヲ以テスル場合ノミト解釋スルトキハ第五十二條ヲ設ケタル精神ヲ貫徹スルコト能ハサルノ結果ヲ生スレハナリ

三 官吏カ議員ヲ兼ヌル場合ニ於テモ議員トシテ尙ホ此特權ヲ有スルヤ 官吏ニシテ議員タル者ハ一方ニ於テ官吏タリト雖モ亦一方ニ於テハ議員トシテ獨立ノ地位ヲ有スルモノナルヲ以テ縱令官吏ニシテ議員ヲ兼ヌル者ナルモ其議員トシテ發言シタル場合ニ於テハ第五十二條ノ適用ヲ受クルモノト云ハサルヘカラス或ハ法文責ヲ負フコトナシトアルヲ以テ單ニ刑事上ノ責任ヲ負ハサルノミニテ院內ノ發言ノ爲メ懲戒上ノ責任ヲ負フ如キハ此限ニアラスト説ク者アリト雖モ斯ノ如ク責任ノ範圍ニ制限ナキハ一見明瞭ナルヲ以テ獨リ刑事上ノ責任ノミナラス懲戒上ノ責任ヲモ包含スルモノト論結セサルヘカラス從テ官吏カ議員ヲ兼ヌル場合ニ於テハ憲法第五十二條ノ規定以外ニ於テ官吏ハ其發言ニ對シ刑事上ノ責任ノミナラス懲戒上ノ責任ヲ負ハサルモノナリ

四 憲法第五十二條ノ適用ハ本會議ノ發言ノミニ關スルモノナリヤ或ハ委員會ニ於ケル意見ノ陳述ニ付テモ適用セラル、モノナリヤ 元來此規定ハ議員カ其職務上意見ヲ發表スル場合ニ於テ適用セラル、モノナルヲ以テ其本會議ノ議事ナルト委員會ノ議事ナルトハ毫モ之ヲ問フコトヲ要セス總テノ場合ニ於テ適用セラル、モノナリ

第三 會期中特別ノ場合ノ外議院ノ許諾ナクシテ逮捕セラレサルノ權

之ニ關シテハ既ニ議會ノ權限ノ下ニ於テ説明セシヲ以テ茲ニ之ヲ再ヒセス(第二章第五節三ノ四參照)

第四 歳費及ヒ旅費ヲ受クルノ權

我邦ノ如ク歳費ヲ給スルノ例ハ北米合衆國、佛蘭西、和蘭等ニシテ全ク之ヲ給セサルハ伊太利、西班牙及ヒ獨逸ナリ又歳費トシテ給セス日當トシテ之ヲ給スルハ英吉利、普漏西、匈牙利、丁抹、諾威、瑞西ノ諸國ニシテ歳費日當ト稱セス單ニ手當ノ名義ヲ以テ一定ノ金額ヲ給スルハ白耳義、葡萄牙及ヒ瑞典ナリ又右ニ述ヘタル中ニ於テ下院議員ニノミ給與シ上院議員ニハ之ヲ給セサルモノアリ例ヘハ英吉利、白耳義、瑞西及ヒ瑞典ノ如キ即チ是ナリ 右ニ述ヘタル如ク獨逸ニ於テハ議員ニ對シテ全ク無報酬ノ主義ヲ採リ今日ニ至ルマテ毫モ報酬ヲ與ヘタルコトナシ乍併獨逸ノ帝國議會ニ於ケル自由黨ハ

之ヲ受ケンコトヲ欲シ之ニ關スル議案ヲ提出シ且議決シタルコト屢ナリシモ
聯邦議會ニ於テ毎ニ之ヲ拒絕シ以テ今日ニ至レリ獨逸聯邦議會ハ何故ニ議員
ニ歳費日當ヲ給與スル議案ヲ拒絕シタルヤト云フニ歳費日當ヲ與ヘサルトキ
ハ政事ヲ職業トスル無資無産ノ徒ノ議員トナルカ如キ弊害ヲ防クコトヲ得ヘ
シト信シタルニ外ナラサルナリ
普漏西ニ於テハ歳費ハ之ヲ辭スルコトヲ得ストシ官吏ノ俸給ト其性質ヲ同ウ
セシメタリト雖モ我國ニ於テハ之ヲ辭スルコトヲ得トセリ

第五 起訴權

議員ハ其職務ヲ執行スルニ際リ誹毀侮辱妨害若クハ強迫ヲ爲シタル者ニ對シ
テ訴ヲ提起スルコトヲ得(明治二十二年法律第二十八號)又議院法ノ規定ニ依レハ議員ハ議場
又ハ委員會ニ於テ誹毀侮辱ヲ受ケタルトキハ議院ニ之ヲ訴ヘテ相當ノ處分ヲ
求ムルコトヲ得ルモノトセラレタリ

議員ノ義務

第二款 議員ノ義務

第一 議員ハ自ラ議場ニ出席シテ討議議決ニ參與スヘク代人ヲ使用スルコトヲ

得ス

中世以後ノ獨逸ニ於テ多ク其類例ヲ見タル階級代表會ノ如キハ代人ヲシテ議
事ニ參與スルコトヲ許シタルモ現今ニ於ケル立憲國ノ議會ニ於テハ原則トシ
テ代理人ヲ使用スルコトヲ許サズバイエルンノ憲法ハ明文ヲ以テ代人ヲ使用
スルヲ得スト定メタルモ是レ性質上當然ノコトニシテ斯ル規定ヲ存セサル國
ニ於テモ固ヨリ之ヲ許スヘキモノニアラサルナリ英國ノ上院ニ於テハ從來代
人ノ使用ヲ許シ來リシモ千八百六十八年以後ハ之ヲ許サ、ルコト、セリ
第二 議員ハ選舉人ノ委囑ヲ受クルコトヲ得ス
蓋シ議員ハ獨立シテ自己ノ意見ヲ發表スルヲ其職務トスルモノナレハナリ

第三款 議員ノ資格ノ消滅

- 議員ノ資格ハ左ノ原因ニ因リテ消滅ス
- 第一 死亡
- 第二 除名(貴族院令一〇、議院法九六、九八參照)
- 第三 被選舉資格ノ喪失

議員ノ資格ノ消滅

第四 解散

第五 辭職(議院法八)

第六 任期滿限

議員ノ任期ニ付テハ各國ノ規定一ナラスト雖モ概シテ上院議員ノ任期(任期ヲ有スル者ノ)ハ下院議員ノ任期ヨリ長キモノトス上院議員ノ任期ニ付テハ佛蘭西、和蘭、瑞典ハ九年、白耳義、丁抹ハ八年、我邦ハ七年、北米合衆國ハ之ヲ六年トシ下院議員ノ任期ハ英吉利ハ七年、普漏西、伊太利、西班牙ハ五年、佛蘭西及ヒ我邦ハ四年、丁抹、瑞典及ヒ瑞西等ハ之ヲ三年トシ其最モ短キハ北米合衆國ノ二年ナリトス

以上掲ケタル六個ノ事由ハ我邦ニ於ケル議員資格消滅ノ原因ナルモ普漏西其他二三ノ國ニ於テハ議員ニシテ官ニ就キ又ハ官吏ニシテ議員ヲ兼ヌル者カ昇等昇給セラレタルトキハ當然其議員タルノ地位ヲ失フモノトナセリ蓋シ選舉人ノ意思ニ反ストノ理由ニ出ツルモノナリ

第二章 國務大臣

國務大臣

國務大臣トハ君主ノ親裁ニ出ツル國務ヲ執行スルニ際シ之ヲ補弼スルノ責務ヲ負フ者ナリ而シテ立憲國ニ於テハ君主カ國務大臣ノ補弼上ノ意見ヲ採用スルト否トニ拘ハラズ君主ノ大權行爲ニ付キ必ス國務大臣ノ補弼ヲ必要トセリ今國務大臣ノ性質ヲ分解スレハ凡ソ左ノ如シ

第一 國務大臣ハ君主ヲ補弼スル者ナリ

補弼トハ君主ニ對スル内部ノ行爲ニシテ此點ニ於テ外部ニ對シ君主ノ名ニ於テ其大權ヲ行使シ或ハ司法權ヲ行フ所ノ攝政又ハ裁判所等ト其性質ヲ異ニスルモノナリ

第二 政務ヲ親裁スル君主ヲ補弼スル者ナリ

即チ國務大臣ハ天皇ノ大權行使ニ參與スルモノナリ

國務大臣ノ資格

第一節 國務大臣ノ資格

國務大臣ハ通常一方ニ於テ行政事務ヲ擔任スト雖モ必スシモ國務大臣ト行政長官トハ一致スルモノニアラス即チ行政長官タルコトハ國務大臣タルノ資格要件ニアラス是レ内閣官制第十條ニ各省大臣ノ外特旨ニ依リ國務大臣トシテ内閣員

憲法

統治機關 國務大臣 國務大臣ノ資格

ニ列セシメラル、コトアルヘシトノ規定ニ依リテ明カナリ而シテ無定職ノ國務大臣ノ存在スルコトハ必スシモ我邦ニ於ケルノミナラス他國ニ於テモ亦其例ノ存スル所ナリ又我邦ニ於テハ大臣ノ名稱ヲ有スル者ハ總テ國務大臣ナリト考フル能ハス例ヘハ宮内大臣ハ大臣ノ名稱ヲ有スルモ國務大臣タラサルカ如シ

第二節 國務大臣ノ副署

天皇ヲ補弼スルハ國務大臣ノ權限ニシテ副署ハ國務大臣カ君主ノ行爲ニ參與シタルコトヲ公證スルモノナリ而シテ副署ハ君主ノ君主タル行爲ノ形式ニ必要ナルモノニシテ此副署ナキトキハ國法上君主ノ行爲ハ君主トシテノ行爲ニアラスシテ一私人トシテノ君主ノ行爲ニ外ナラス即チ副署ハ統治權ノ主體タル君主ノ行爲ト一私人タル君主ノ行爲トヲ判別スル一ノ形式タルナリ故ニ立憲國ノ憲法ニハ君主ノ行爲ヲシテ有效ナラシムルカ爲メニ國務大臣ノ副署ヲ要スルコトヲ規定スルヲ一般トシ我憲法第五十五條第二項モ亦此趣旨ニ依リテ規定セラレタルモノニ外ナラサルナリ或ハ副署トハ法令ノ憲法ニ違反セサルヤ否ヤヲ審査シタルノ結果其違憲ニアラサルコトヲ保證スル行爲ヲ指スモノナリト言ヒ或ハ副署トハ君主ノ行爲ニ對シ國務大臣ノ同意ヲ與フルコトヲ示スモノナリト説ク者アリト雖モ此等ノ説ハ君主國ニ於ケル副署ノ性質ヲ明カニスルモノニアラサルナリ

副署ハ上ニ述ヘタルカ如ク君主ノ行爲ノ形式トシテ必要ナルモノナルヲ以テ特別ノ明文ナキ限りハ各國務大臣總テノ副署ヲ必要トセス又總理大臣若クハ主任大臣ノ副署ヲ要スルモノニアラス唯一人ノ國務大臣ノ副署アレハ足ルモノナリ或二三ノ國ノ憲法ニ於テ尠ナクトモ一人ノ國務大臣ノ副署ヲ要スト規定シタルハ此趣旨ヲ明カニセンカ爲メ特ニ明文ヲ以テシタルニ外ナラス尤モ我明治十九年勅令第一號公文式第三條及ヒ內閣官制第四條ニ法律及ヒ一般ノ行政ニ係ル勅令ニハ內閣總理大臣、主任大臣共ニ之ニ副署シ各省專任ノ事務ニ關スル勅令ニハ主任大臣之ニ副署スヘキコトヲ規定シ高等官々等俸給令第二條ニ親任官ノ辭令書ハ內閣總理大臣又ハ首座ノ大臣之ニ副署スト規定シタル副署ニ關スル特別ノ規定アリ又緊急勅令ニ付テハ普漏西、バイエルン、ウエルテンベルヒ等ノ憲法ニ於テハ內閣總員ノ副署ヲ要スルコトヲ規定セリト雖モ我邦ニ於テハ斯ノ如キ規定ナ

キヲ以テ緊急勅令ニ付テモ他ノ法令ト同一ノ副署ノ原則ニ依ルモノナリ又此國
 務大臣ノ副署ハ憲法第五十五條第二項ニアル如ク法律勅令並ニ國務ニ關スル詔
 勅ニ對スルモノ、ミニ止マルカ故ニ皇族ノ婚嫁ノ許可ニ關スル宮内大臣ノ副署
 ノ如キハ之ト混同スヘカラサルナリ(皇室典 範四一)
 國務大臣ノ任命ニ副署ヲ要スルヤ否ヤハ獨逸學者間ニ一疑問トナリタルモノニ
 シテアルンド其他副署ノ不必要ヲ主張スル者ハ曰ク若シ此場合ニ於テモ絶對的
 ニ副署ヲ要スルモノトセハ内閣總辭職ノ場合ニ退任スル國務大臣カ新任スル國
 務大臣ノ任命ニ副署ヲ拒ミタルトキハ如何ニスヘキヤ固ヨリ一人ニテモ國務大
 臣カ留任スル場合ニ於テハ副署ヲ爲ス者ニ缺乏ヲ告クルコトナシト雖モ總辭職
 ヲ爲セル場合ニ於テハ大臣ヲ新任スルコト能ハサルノ結果ヲ生スルニ至ルヘシ
 故ニ國務大臣ノ任命ニハ總テ副署ヲ必要トセスト之ニ反シテマイヤ一其他副署
 ヲ必要トスト唱フル者ハ曰ク内閣總辭職ノ場合ニ於テハ新ニ任命セラルヘキ者
 カ其新任ノ辭令ニ副署スヘキノミ或ハ斯ル場合ニハ違憲ノ行爲生スルコトナキ
 ヲ以テ副署ヲ要セスト論スル者ナキニアラサルモ或ハ國務大臣トナルノ資格ナ

キ者ヲ(例ヘハ歸化人ノ如キ)任命スルコトナキニアラサルヲ以テ國務大臣ノ任命
 ニハ必ス副署ヲ要スルモノナリト此第二說ニ於ケル副署ヲ要スト云フノ點ハ可
 ナルモ新任大臣自ラ副署ストノ點ハ否ナリ何トナレハ任命セラル、者ハ任命ニ
 因リテ始メテ國務大臣トナルヘキモノナルヲ以テ自己ヲ任命スル辭令ニ副署ヲ
 爲スハ國務大臣トナラサル以前ニ於テ副署ヲ爲スモノナレハナリ而シテ第一說
 モ亦當ヲ得ス何トナレハ國務大臣ハ君主ノ命ニ依リ副署スルモノニシテ之ヲ拒
 ムコトヲ得ヘキニアラス故ニ第一論者ノ想像スルカ如キ場合生スルコトナケレ
 ハナリ(明治二十五年勅令第九十六號 高等官々等俸給令第二條)然レトモ國務大臣總テ死亡シタルカ爲メ事實
 上副署ノ不能ナル場合ニハ副署ヲ缺クモ已ムヲ得サルノ結果ナリ副署ヲ全ク要
 セサル場合ハ天皇カ大元帥トシテ軍事上ノ命令ヲ發スル場合ナリ然レトモ大元
 帥トシテノ命令ニ限リ副署ヲ要セサルモノナルニ依リ軍事上ノ法律及ヒ軍事行
 政上ノ命令ニ關シテハ固ヨリ副署ヲ必要トスルモノナリ(内閣官制七、海軍々令部
 條例三、陸軍參謀本部條
 三例)
 獨逸ニ於テハ君主カ爵位勳章其他榮典ヲ授與スル場合ニ於テハ副署ヲ要セサル

モノナリト唱フル學者ナキニアラス然レトモ榮典授與モ亦國務ニ關スル行爲ニ外ナラサルヲ以テ其副署ヲ必要トスルコトハ疑ナキ所ナリ

國務大臣ハ副署ヲ拒ムコトヲ得ルヤ否ヤ是レ亦一個ノ疑問ニシテ副署ヲ拒ムコトヲ得ト主張スル論者ハ曰ク違法ナル行爲ハ君主ノ真正ナル行爲ト認ムルコトヲ得ス故ニ此場合ニハ國務大臣ハ副署ヲ拒ムコトヲ得サルヘカラス何トナレハ國務大臣ハ君主ヲ補弼シ其過失ヲ矯正スルモノナレハナリト之ニ反對スル論者ハ曰ク副署ハ君主ノ行爲ニ對スル認可ニアラスシテ君主ノ命令ニ基ク行爲ニ外ナラス故ニ縱令君主ノ命令行爲ニシテ違法違憲ナリト信スルモ國務大臣ハ之ヲ爭フノ職權ヲ有セス若シ之ヲ拒ムコトヲ得トセハ實際上ノ權力ハ君主ノ手ヲ離レテ國務大臣ニ歸屬スルノ結果ヲ生スルニ至ルヘシト余ハ第二說ヲ以テ正鵠ヲ得タルモノト信ス何トナレハ君主ハ法ニ關シ最高ノ解釋權ヲ有スル者ナルヲ以テ國務大臣ハ君主ニ對シテハ違法違憲ヲ主張スルノ權ナキヲ以テナリ

國務大臣ノ責任

第二節 國務大臣ノ責任

國務大臣ノ法律上ノ責任ヲ民事上ノ責任、刑事上ノ責任、官吏懲戒上ノ責任及ヒ憲

法上ノ責任ニ分ツ者アリト雖モ余カ茲ニ論スルハ唯憲法上ノ責任ニ止マリ他ノ責任ニ付テハ説明スルノ限リニアラス

國務大臣ノ責任ノ基礎ニ付テハ種々ノ學說アリ左ニ之ニ關スル重要ナルモノヲ舉クレハ

第一說 此說ニ依レハ君主ハ侵スヘカラス故ニ君主ニ代ハリテ國務大臣カ其責ニ任スルナリト此說ノ基ク所ハ多クノ國ノ憲法ニ於テ君主不可侵ノ規定ト國務大臣ハ其責ニ任ストノ規定トカ相關聯スル如ク規定セラレタルニ由ルモノナリ例ヘハ普漏西憲法ハ其第四十三條ニ於テ國王ノ侵スヘカラサルコトヲ規定シ第四十四條ニ於テ國務大臣ハ其責ニ任スト規定スルカ如ク又和蘭、西班牙ノ如ク同條ノ中ニ此二者ヲ規定スルカ如シ然レトモ此說ニ依ルトキハ他人ノ行爲ニ對シテ其行爲ニ關係ナキ者カ其責ニ任スルノ不條理ナル結果ヲ生スルモノナリ

第二說 君主ハ統治スルモ政治ヲ爲サス政務ハ國務大臣之ヲ執ルモノナルヲ以テ國務大臣カ其責ニ任スルハ當然ナリト此說ハコンスタン氏ノ說ニ基クモノ

ニシテ氏ハ國權ヲ立法權、司法權及ヒ行政權ノ三個ニ分チ立法權ハ議會之ヲ行
 使シ司法權ハ裁判所之ヲ行ヒ行政權ハ國務大臣之ヲ行フモノトシ而シテ君主
 ハ其上ニ立テ此三權ヲ節制調和スルノ權ヲ有シ其結果國務大臣ノ任免、議會ノ
 解散等ハ君主ニ專屬スルモノトナス而シテ行政ヲ爲スハ國務大臣ニ於テ之ヲ
 擔任スルニ依リ國務大臣ハ即チ其責ニ任スヘキナリト言ヘリ葡萄牙ノ憲法亦
 此主義ニ基キテ定メラレタルモノナリト雖モ君主ニシテ國務大臣ノ任免、國會
 ノ解散其他節制權ヲ有スル以上ハ君主ノ行爲ニ關シ過失ナキコトヲ保證スル
 ヲ得ス故ニ此說ヲ採ルモ國務大臣責任ノ根據ヲ明カニシタルモノト云フヲ得
 サルナリ

第三說 此說ヲ唱フル者ハ曰ク國務大臣ハ單純ナル君主ノ補弼者ニアラスシテ
 憲法上君主ノ一切ノ行爲ニ參與スル權ヲ有シ君主ノ命令ト雖モ法律ニ背キ又
 國家ノ利益ヲ害スルモノト認ムルトキハ之ニ對シ同意ヲ拒ムノ義務ヲ有ス
 然ルニ國務大臣カ違法ナル行爲ニ對シ同意シタルトキハ其違法ナル行爲ヲシ
 テ法律上ノ效力ヲ有セシムルノ結果ヲ生セシムルニ依リ之ニ對シ國務大臣其

責任ヲ負フハ當然ナリト然レトモ此說ノ根據ハ國務大臣ハ副署ヲ拒ムコトヲ
 得トスルニアルヲ以テ之ヲ採用スルコトヲ得ス

第四說 君主ニ不法ノ行爲アルハ國務大臣其補弼ノ責ヲ全ウセサルニ由ルモノ
 ニシテ國務大臣ハ其自己ノ過失ニ對シテ責ヲ負フモノナリト此說ニ於テ國務
 大臣ハ自己ノ過失ニ對シ其責ヲ負フトスルノ點ハ正當ナルモ君主ノ行爲ニ不
 法アルハ國務大臣其補弼ノ責ヲ竭サ、ルモノナリト斷定スルハ不當ナリ何ト
 ナレハ君主ハ國務大臣ノ意思ニ反シテ不法ナル行爲ヲ爲スコトアルヘケレハ
 ナリ

然ラハ國務大臣責任ノ根據何レニアルヤト云フニ國務大臣ノ憲法上ノ職責ヲ盡
 サ、ルニ基クコト當然ニシテ此點ハ第四說ト同シト雖モ君主ノ不法行爲ト補弼
 ノ責ヲ盡サ、ルコト、同一ニ見ルノ點ニ於テ第四說ト見解ヲ異ニスルモノナリ
 故ニ君主ノ行爲ニシテ適法ナルトキニテモ國務大臣其職責ヲ盡サスト認ムルト
 キハ之ヲシテ責ニ任セシムルヲ得ルナリ
 又國務大臣ハ何人ニ對シテ責ヲ負フモノナリヤニ付テモ異說アリ即チ

第一說 國務大臣ノ責任ハ輿論ニ對スルモノナリ即チ國務大臣ハ國民ニ對シテ其責ヲ負フモノナリト此說ハ國權國民ニ存在スト云フ民主國ニ於テハ當ヲ得タルモノナルヘシト雖モ君主國ニ於テハ國民權力ノ源ニアラスシテ統治權ノ主體ハ君主ナルヲ以テ此說ハ採用スルコト能ハス

第二說 國務大臣ハ議會ニ對シテ責ヲ負フモノナリト佛國憲法第六條ニハ國務大臣ハ兩院ニ對シ其責ニ任スト明定セラレタルヲ以テ同國ニ於テハ國務大臣ハ議會ニ對シテ其責ヲ負フヘキハ疑ナシト雖モ君主國ニ於テハ元來議會ハ一ノ機關ニ過キササルヲ以テ明文ナキ以上ハ國務大臣カ議會ニ對シテ其責ニ任スルノ理由ハ之ヲ發見スルコトヲ得ス

以上二說皆非ナリ君主國ニ於テハ國務大臣ハ君主ニ對シテ其責ヲ負フモノト云ハサルヘカラス蓋シ君主ハ統治權ノ主體ニシテ明文ヲ以テ特別ニ規定セサル以上ハ統治機關ナルモノハ其統治權ノ主體ニ對シ其責ヲ負フヘキコト自明ノ理ナレハナリ

我憲法ニ於テ國務大臣ノ責任ヲ規定シタル條項ハ第五十五條ナリ同條ニ曰ク國

二〇

二二

務大臣ハ天皇ヲ補弼シ其責ニ任スト而シテ憲法上國務大臣ノ責任ノ根據ハ其職責ヲ盡サ、ルニアルコト前ニ述ヘタル如ク又職務上ノ責任ヲ負フヘキハ總テノ官吏ニ通シテ當然ノコトナルニ依リ何故ニ憲法第五十五條ニ特ニ其責ニ任スト云フ規定ヲ設ケタルヤニ付キ疑問ヲ生ス此點ニ付テハ學者ノ見解區々タリ今左ニ其重ナルモノヲ擧クレハ

第一說 憲法第五十五條ニ於テ國務大臣ノ責任ノ規定ヲ設ケタルハ特ニ帝國議會ニ對スルノ責任ヲ規定シタルナリト此說ノ我君主國ニ於テ相容レサルコトハ既ニ述ヘタル所ニ依リ明カナリ
第二說 本條ハ政治上ノ責任ヲ定ムルカ爲メニ設ケタルモノナリト然レトモ若シ此說ノ如ク政治上ノ責任ヲ定ムルノ精神ナラハ憲法ノ明文ニ於テ特ニ之ヲ記載スルノ必要ナカルヘシ

第三說 我憲法第五十五條ニハ國務各大臣ハ其責ニ任スト規定シ連帶責任ナラサルコトヲ示ス爲メ特ニ責任ノ規定ヲ設ケタルモノナリト憲法第五十五條ノ責任ノ連帶責任ニアラスシテ單純責任ノ主旨ナルコト論者ノ言ノ如シト雖モ

全ク之カ爲メ責任ノ規定ヲ設ケタルモノト信スルヲ得サルナリ
 第四說 本條ハ國務大臣カ其任免權ヲ有スル者ニ對シ其責ニ任スルコトヲ規定シタルナリト然レトモ此說ニ從フトキハ憲法第十條ノ外ニ特ニ第五十五條ヲ設クルノ必要ナカルヘシ

第五說 此說ハ本條ハ國務大臣ノ責任ノ主觀的ノ側面ヲ規定シタルモノナリト說クモノニテ此說ヲ主張スル者ハ曰ク憲法第五十五條ノ責任ノ規定ハ君主ニ對スルノ責任ナリヤ或ハ議會ニ對スルノ責任ナリヤヲ定ムルノ趣旨ニアラス即チ如何ナル機關ニ於テ大臣ノ責任ヲ糺スカハ客觀的ノ側面ニシテ此條文ノ問題外ナリ而シテ憲法カ特ニ大臣責任ノ主觀的側面ヲ規定スルノ必要アリタルハ一般官吏ハ形式上適法ナル上官ノ命令ヲ受ケタルトキハ其命令ノ實質ニシテ違法ナルモ之ヲ實行セサルヘカラス又之ヲ執行スルモ其責ハ上官ニ歸シ之ヲ執行シタル者ニ於テ其責ヲ受クルコトナキモ國務大臣ハ之ト異ナリ元首ノ命令違法ナルトキハ之ニ副署ヲ拒ミ又元首ノ命令ハ之ヲ審査シ違法ト認ムルトキハ之ヲ執行スヘキモノニアラス然ルニ國務大臣ニシテ元首ノ命令カ違

法ナルニ拘ハラヌ之ヲ執行シタルトキハ自ラ其責ニ任セサルヘカラサルモノニシテ上官ノ命令ヲ執行スル場合ニ其責ニ任セサル一般官吏ト國務大臣トハ此點ニ於テ責任ノ原則ヲ異ニスルヲ以テ特ニ憲法ニ於テ規定シタルモノナリト然レトモ此說ハ國務大臣カ副署ヲ拒ムコトヲ得ルヲ以テ前提トナスモノナルカ故ニ採用スルコトヲ得ス

以上ノ五說共ニ其當ヲ得ス從テ憲法第五十五條ニ國務大臣ノ責任ノ規定ヲ設ケタルノ趣旨ハ之ヲ他ニ求メサルヘカラス余ノ信スル所ニ依レハ左ノ五ノ理由ニ基クモノナリ

- 第一 各國ノ憲法ニ概ネ其規定アリ故ニ我憲法ニ於テモ亦之ニ倣ヒタルモノナリ
- 第二 補弼ハ外部ニ對スル命令行爲ニアラスシテ君主ニ對スル内部ノ行爲ナリ故ニ責任ノ有無ニ付キ疑ヲ生セサルヲ保セサルニ依リ補弼ノ職責ニ付テモ責任アルコトヲ示シタルモノナリ
- 第三 他國ノ憲法ニハ或ハ國務大臣ハ副署ニ對シテ責ヲ負ヒ或ハ君主ハ神聖ニ

シテ不可侵ナリ故ニ國務大臣之ニ代ハリテ其責ニ任ス等ノ規定ヲ設ケ或ハ漠然責ニ任スト規定シ何ニ對シテ何ノ爲メ責ニ任スルヤヲ明カニセサルカ爲メ學者ヲシテ其解釋ニ迷ハシムルモノ少ナカラサルニ依リ我憲法第五十五條第一項ニ於テ天皇ヲ補弼シ其責ニ任スト規定シ天皇ニ對シ補弼ノ職務ニ付キ責任アルコトヲ明カニシタルモノナリ

第四 副署ハ國務大臣ニ於テ拒ムコトヲ得サルモ補弼ハ君主ニ對シ政務上ノ意見ヲ進ムルコトナレハ唯君主ニ對シ唯々諾々其命ヲ贊襄スルヲ以テ其任務ヲ盡シタリト云フヘカラス是ニ於テ白耳義憲法第八十九條葡萄牙憲法第三百三條ニ於テハ「言論ヲ以テスルト文章ヲ以テスルトヲ問ハス何レノ場合ニ於テモ君主ノ命令ハ國務大臣ヲシテ其責ヲ免カレシムルコトヲ得ス」ト規定シ以テ唯諾奉命ノミ責ヲ免カルヘキニアラス國務大臣ノ職責ヲ盡サ、ルニ於テ責任アルコトヲ明カニセリ我憲法第五十五條ノ責任ノ規定モ亦此趣旨ヲ意味スルモノナリ

第五 國務大臣ハ多ク行政長官ヲ兼ネ最高ノ地位ヲ占ムルニ依リ或ハ責任ナキ

第四章 政府

ヤヲ疑フ者ナキニアラサルヲ以テ其責任アルコトヲ明カニシタルモノナリ
或ハ政府ヲ指シテ最高行政ノ官府ナリト稱スル者アリト雖モ憲法ニ於ケル政府ナル語ハ行政官府ヲ意味スルモノニアラスシテ君主ノ大權行使ニ參與シ及ヒ君主ノ大權作用ニ關スル命令ヲ執行スルノ機關ヲ謂フナリ故ニ政府ト國務大臣トハ異名同物ナリ或ハ憲法第八條第七十條及ヒ第七十一條ノ政府ナル文字ニ就テハ寧ロ君主ヲ指スカ如キ疑ナキニアラサルモ政府ハ君主ノ大權行爲ヲ其命ヲ奉シ執行スル任ニ當ルヲ以テ政府ナル文字ヲ玆ニ使用シタルナリ乍併此意味ニ於テモ尙ホ解釋スルコトヲ得サル一ノ場合アリ即チ憲法第六十七條ノ「……又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歳出云々」トアル政府ノ文字是ナリ此場合ニ於ケル政府ナル文字ハ會計法第十八條ニ謂フ「政府ノ負債」ノ政府ト同一意義ニシテ規定ノ精神ヨリ推究セハ國庫ヲ意味スルコト疑ナシ然ラハ何故ニ本條ニ國庫ノ代ハリニ政府ナル文字ヲ使用シタルヤト云フニ政府即チ國務大臣ハ會計法第十三條ニ依リ國庫ニ對シ支拂命令ヲ發スルノ職責ヲ有スルモノナルカ故ニ國庫ノ義務即チ

政府ノ義務ト規定シタルモノナリ
第五章 樞密顧問

樞密顧問トハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ナル國務ヲ審議スル所ノ機關ナリ(憲法五六)今樞

密顧問ノ性質ヲ分解シテ記述スレハ左ノ如シ

第一 樞密顧問ハ合議機關ナリ

第二 樞密顧問ハ天皇ノ諮詢ニ應ヘ或ハ重要ナル國務ヲ議決スル機關ナリ

第三 樞密顧問ハ國民ニ對シ命令權ヲ行ハス且直接政治ニ干與セサル機關ナリ

(樞密院官制參照)

樞密顧問ハ右ノ如キ性質ヲ有スルモノナルヲ以テ内閣及ヒ各省大臣ト公務上交渉スルノ外他ノ官署帝國議會又ハ臣民トノ間ニ文書ノ往復其他直接ノ交渉ヲ爲スコトヲ得ス故ニ樞密院ニ對スル請願上書其他ノ通信ノ如キハ之ヲ受理スルコトヲ得サルモノナリ(樞密院事務規程二三)

樞密院ハ議長副議長ノ外二十五名ノ樞密顧問官ヲ以テ組織セラレ而シテ議事ヲ開クニハ十名以上ノ出席ヲ必要トスルモノナリ又顧問官ヲ其資格上ヨリ觀ルト

キハ二種アリ即チ四十歳以上ニシテ國務ニ練達シタル者ヨリ親任セラレタルモノト職權上ヨリ顧問官タルモノ例ヘハ各大臣ノ如キモノト是ナリ

樞密顧問官ノ職權ヲ舉クレハ左ノ如シ

第一 天皇ノ諮詢ニ應フルコト

諮詢事項ニハ制度上必ス諮詢セサルヘカラサルモノト諮詢スルト否トハ天皇

ノ自由ニ屬スルモノトノ二アリ

一 諮詢セサルヘカラサルモノ

(イ) 憲法ノ條項又ハ憲法附屬ノ法律勅令ノ草案及ヒ疑義ニ關スルコト

(ロ) 憲法第十四條ノ戒嚴宣告同第八條及ヒ第七十條ノ勅令及ヒ其他罰則ノ

規定アル勅令ニ關スルコト

(ハ) 列國交渉ノ條約及ヒ約束ニ關スルコト

(ニ) 樞密院官制及ヒ事務規定ノ改正ニ關スコト

(ホ) 皇室典範ニ於テ樞密院ノ諮詢ニ付スヘキコトヲ規定セラレタル左ノ事

項ニ關スルコト

甲 皇位繼承順序ノ變更(皇室典範九)

乙 遺命ヲ以テ大傅ヲ任セザリシ場合ニ其選任ニ關スルコト(皇室典範二七)

丙 大傅ノ退職ニ關スルコト(皇室典範二九)

丁 土地物件ヲ皇室ノ御料ニ編入スルコト(皇室典範四六)

戊 皇室典範ノ改正ニ關スルコト(皇室典範六二)

二 諮詢ト否トカ天皇ノ自由ニ屬スルモノ

天皇ノ隨意ニ諮詢スヘキ範圍ニ付テハ何等ノ規定ナキヲ以テ天皇ノ必要ト

認ムルトキハ如何ナル事項ニ付キ諮詢スルモ全ク其隨意ニ屬スルモノナリ

第二 議決ヲ爲スコト

一 天皇久シキニ亘ルノ故障ニ因リ大政ヲ親ラスルコト能ハサル場合ニ攝政

ヲ置クヘキヤ否ヤニ關スルトキ(皇室典範一九)

二 攝政及ヒ攝政タルヘキ者ノ順序變更ノ要否ヲ決スルトキ(皇室典範二五)

第三 判決ヲ爲スコト

行政裁判法第四十五條ニ依リ權限裁判所ヲ設置スルマテハ樞密院ヲ以テ權限

裁判所ニ充ツルモノトス然レトモ今日ニ至ルマテ權限爭議ノ提起及ヒ審理ニ關シ其手續法ヲ規定セラレサルヲ以テ實際ニ於テ未タ此職權ヲ行ヒタルコトナシ

第六章 會計検査院

會計検査院ハ憲法第七十二條ニ依リ決算ヲ審査確定スルノ機關即チ財政監督ノ機關ナリ財政監督ノ機關ナルカ故ニ内閣ニ隸屬スル所ノ者ヲ以テ之ニ當ラシムルトキハ監督ノ實ヲ擧クルコト能ハサルヲ以テ會計検査院ノ組織權限ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘキモノトナシ而シテ其法律即チ會計検査院法ニ依レハ會計検査院ハ天皇ニ直隸シ國務大臣ニ對シテ獨立ノ地位ヲ有スルモノトセラレタリ憲法發布以前ニ於テモ明治十三年第十八號達ヲ以テ設ケラレタル會計検査院ナルモノナキニアラサリシモ此ハ内閣ニ隸屬シタルモノニシテ今日ノ會計検査院トハ全ク其地位ヲ異ニシタルモノナリ
會計検査院ノ權限ヲ述フレハ左ノ如シ
第一 決算ヲ検査確定スルコト

其検査ヲ要スル事項ハ左ノ如シ

一 總豫算

二 官廳及ヒ官有諸營造ノ收支及ヒ官有物ニ關ル決算

三 政府ヨリ補助金又ハ特約保證ヲ與フル團體及ヒ公私立諸營造ノ收支ニ關ル決算

四 法律勅令ニ依リ特ニ會計検査院ノ検査ニ屬セラレタル決算

第二 報告ヲ調製スルコト

報告ハ検査確定ト同時ニ之ヲ調製シ一旦政府ニ提出シタル後更ニ帝國議會ニ廻付スヘキモノナリ

第三 上奏スルコト

各年度毎ニ會計検査ノ成績ヲ上奏シ且其成績ニ關聯シ法律又ハ行政上ノ改正ヲ要スト認ムルトキハ併セテ其意見ヲ上奏スルコトヲ得ルナリ

第四 判決ヲ爲スコト

出納官吏ノ計算書及ヒ證據書類ヲ正當ナリト判決セハ認可狀ヲ付與シ而シテ

此認可狀ノ效果ハ會計官吏ノ責任ヲ解除スルナリ之ニ反シテ之ヲ不當ナリト判決シタルトキハ會計検査院ハ本屬長官ニ通知シテ其官吏ヲ處分セシムヘキ

第七章 司法裁判所

以上説明シタル會計検査院ノ權限ハ總テ國家ノ財政ニ關スル部分ニ限ラル、モノナルニ依リ皇室經費ノ如キ國家財政ノ範圍ニ屬セサルモノハ會計検査院ノ關スル所ニアラサルナリ

司法裁判所トハ司法權ヲ行使スル機關ヲ謂フ而シテ司法權トハ民事刑事ヲ裁判スルノ權ヲ謂フナリ又憲法上司法裁判ハ總テ裁判所ノ行フヘキモノナレトモ裁判所ハ司法裁判ヲ行フヘシト規定セラレサルニ依リ司法裁判所ニ於テ例ヘハ登記事務ノ如キ司法以外ノ事務ヲ處理セシムルモ違憲ニアラサルナリ三權分立説論者ハ統治權ヲ司法權行政權及ヒ立法權ノ三個ニ分チ裁判所ヲ以テ司法權ノ主體トナスモノナレトモ此説ノ誤レルコトハ茲ニ辯スルヲ須タス且司法權ト

ハ統治權ヲ其一作用タル司法行爲ノ一面ヨリ見タルノ名稱ニ過キサレモノナルヲ以テ司法權ノ主體ハ統治權ノ主體ト同一ナルコト固ヨリナリ故ニ我邦ニ於テハ天皇ハ即チ司法權ノ主體ニシテ憲法第五十七條ニ依リ裁判所ハ唯司法權ヲ行使スルノミ是レ同條カ特ニ天皇ノ名ニ於テ司法權ヲ行フト規定セシ所以ナリ司法裁判所ノ構成ハ憲法第五十七條第二項ニ依リ法律ヲ以テ定ムヘキモノトセラレ而シテ其法律ノ主タルモノハ即チ裁判所構成法ナリ今權限上ヨリ總テノ裁判所ヲ分類スルトキハ普通裁判所及ヒ特別裁判所ノ二トナスコトヲ得普通裁判所トハ普通一般ノ民事刑事ヲ裁判スル所ヲ指シ特別裁判所トハ特種ノ司法事項又ハ特別ノ人ニ對スル民事刑事ヲ裁判スル所ヲ謂フ例ハ領事裁判所又ハ軍法會議ノ如シ而シテ裁判所構成法ハ其普通裁判所ノ組織及ヒ權限ヲ定メタル法律ニシテ其定ムル所ニ依レハ普通裁判所ハ之ヲ區裁判所、地方裁判所、控訴院及ヒ大審院ノ四トナシ其各裁判所ハ上下ノ階級ヲ成シ判事ノ數モ其階級ニ從ヒテ之ヲ異ニス又判事ニ任セラレタル者ハ憲法第五十八條ニ依リ刑法ノ宣告又ハ法律ニ定メタル懲戒處分ニ由ルノ外其職ヲ免セラル、コトナク又其懲戒ニ關スル規定

ハ法律ニ依ルヘキモノナリ(裁判所構成法第二章參照)然ルニ領事裁判ヲ爲ス領事ノ資格ニ付テハ法律ヲ以テ何等定ムル所ナク又其懲戒ニ關スル規定モ法律ヲ以テ定メラレサルヲ以テ斯ル者カ司法裁判ヲ爲スハ或ハ憲法第五十七條ニ違反セサルヤノ疑ヲ生スルナリ(明治三十二年法律第七十號)領事ノ身分資格ニ付テハ明治二十六年勅令第百八十七號及ヒ第百八十八號ヲ參照セラル、ニ因リテ明カナルヘシ裁判ノ手續ニ付テハ憲法第五十七條ニ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フトアルヲ以テ訴訟手續ハ凡テ法律ヲ以テ之ヲ定メサルヘカラス或ハ此法律ニ依リノ文字ヲ以テ裁判所ハ法律ノミヲ適用スルモノナリトノ意ヲ明示シタルモノナリト解釋スル者アリト雖モ法律モ命令モ共ニ統治權者ノ命令ニ外ナラサル以上ハ裁判所ハ共ニ之ヲ適用スヘキモノニシテ法律ノミヲ適用スヘキモノナリトノ說ハ之ヲ是認スルコトヲ得サルナリ

又裁判ハ憲法第五十九條ニ依リ總テ之ヲ公開スルヲ原則トシ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキニ限り法律ノ規定ニ基キ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ公開ヲ停ムルコトヲ得ルモノナリ

裁判所ノ權限ニ付テハ民事刑事ヲ裁判スルニアルコト既ニ述ヘタルカ如クナリト雖モ其裁判ヲ爲スニ當リ裁判官ハ法律命令カ形式上並ニ實質上違憲違法ニアラサルヤ否ヤヲ審査スルコトヲ得ルヤ否ヤニ付テハ疑ノ存スル所ナリ左ニ場合ヲ分チテ之ヲ説明スヘシ

第一 裁判所ハ裁可又ハ公布ノ式ナキ法律ヲ適用スヘキ義務アルヤ
凡ソ法律ハ裁可ニ因リテ完成シ公布ニ因リテ遵由ノ效力ヲ生スルモノナルヲ以テ裁可及ヒ公布ナキ法律ハ法律トシテ裁判所ハ之ヲ適用スルコトヲ得サルハ明カナリ

第二 國務大臣ノ副署ナキ法律ト雖モ裁判所ハ之ヲ適用スヘキ義務アルヤ
法律ハ憲法第五十五條ニ基キ總テ國務大臣ノ副署ヲ必要トスルモノナルヲ以テ副署ナキ法律ハ之ヲ法律ト認ムルコトヲ得ス即チ統治者ノ命令ト考フルコトヲ得サルヲ以テ裁判所ハ之ヲ適用スヘキモノニアラス

第三 議會ノ協賛ナキ法律ト雖モ裁判所ハ之ヲ適用スヘキ義務アルヤ
第一第二ノ點ニ付テハ殆ト反對說ナキモ此場合ニ關シテハ異說ヲ立ツル者尠

ナカラスラバント氏ハ曰ク獨逸皇帝ハ法律ヲ審署スルモノナリ而シテ審署ハ法律ノ適法ニ成立シタルコトヲ證明スルモノナルヲ以テ縱令議會ノ協賛ナキ場合ニ於テモ裁判所ハ先ツ適法ノモノトシテ之ヲ適用セサルヲ得サルモノナリト然レトモ我憲法上ニ於テハ審署ナル行爲ヲ認メサルヲ以テ氏ノ議論ハ我邦ニ於テハ之ヲ採用スルコトヲ得ス或ハ曰ク君主ハ立法權ヲ行使シ議會ハ單ニ協賛スルニ止マリ臣民ニ對シテ命令スルモノニアラス其議會ノ協賛ハ君主ニ對スル行爲ニ止マリ他ヲ羈束スル效力ヲ有スルモノニアラス法律トシテ效力ヲ有スルハ議會ノ協賛ニ因ルモノニアラスシテ君主ノ裁可ニ因ルモノナリ故ニ協賛ナキモ毫モ法律タルニ妨ケナク裁判官ハ正當ナル統治者ノ命令トシテ之ヲ適用セサルヘカラスト然レトモ此說モ我邦ニ於テハ採用スルコトヲ得ス何トナレハ憲法第五條ハ「天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フ」ト規定シ亦同第三十七條ニハ「凡テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス」トアルヲ以テ協賛ハ法律成立ノ要件ナリト認ムヘク協賛ナキ場合ニ於テハ君主ハ立法權ヲ行ヒタルモノト認ムルコトヲ得サレハナリ或ハ裁判所ハ或法律カ議會ノ協賛

ヲ經タルヤ否ヤヲ審査スルノ權ナシトノ說ヲ辯護スル者アリテ曰ク若シ反對
 說ノ如ク協賛ノ有無ヲ審査スルノ權アリトナストキハ議員ノ資格議員選舉ノ
 效力又ハ其議院議決ノ正否即チ議決シタルトキ定足數ノ議員出席シタルヤ否
 ヤ又其議決ハ過半數ノ同意ヲ以テ決セラレタルモノナリヤ否ヤニ關スル問題
 マテヲ審査セサルヘカラサルニ至リ從テ裁判官カ立法機關ヲ監督スルノ不當
 ナル結果ニ陷ルヘシト然レトモ協賛ノ有無ヲ審査スルト議決ノ當否又ハ議院
 ノ組織等ヲ審査スルトハ全ク別問題ナリ協賛ノ有無ヲ審査スルノ權アリトス
 ルモ必スシモ議會ノ組織議決ノ當否マテモ之ヲ審査スルノ權ヲ與ヘサルヘカ
 ラサルモノニアラス裁判所カ議院ノ組織議員若クハ議決ノ正當ナリヤ否ヤヲ
 審査スルハ是レ裁判所ヲシテ議會ヲ監督セシムルモノニシテ其不當ナルコト
 勿論ナリト雖モ協賛ハ法律ノ要件ナルヲ以テ其要件ノ有無ヲ審査スルハ是レ
 即チ眞ノ法律ナリヤ否ヤヲ審査スルモノニ外ナラス故ニ裁判官ニシテ眞ノ法
 律ヲ適用スヘキモノナリトセハ裁判官ヲシテ協賛ノ有無ヲ審査スルノ權ヲ有
 セシメサルヘカラサルハ當然ノコト、云ハサルヘカラス故ニ余ハ裁判官カ協

賛ノ有無ヲ審査スルコトヲ得トノ說ヲ以テ當ヲ得タルモノト信ス
 第四 裁判官ハ法律ノ實質ノ違憲ナリヤ否ヤヲ審査スルコトヲ得ルヤ
 輿地利憲法第七條ニハ「裁判官ハ正當ニ公布シタル法律ノ效力ヲ審査スルノ權
 ヲ有セス」ト規定セラレタルヲ以テ同國ニ於テハ此問題ニ關シ疑ヲ容ル、ノ餘
 地ナシト雖モ我國ノ如キ斯ル明文ナキ國ニ於テハ如何ニ之ヲ決定スヘキヤ今
 先ツ裁判官ハ法律ノ實質的審査ヲ爲スコトヲ得ストノ論者ノ唱フル所ヲ見ル
 ニ其根據一ナラスシテ大體ニ於テ左ノ三說ニ之ヲ分ツコトヲ得ルナリ
 第一說 裁判官ハ法律ニ依リ羈束セラル、モノナルヲ以テ更ニ進テ法律自體
 ヲ審査スルノ力ナシト謂フニアリテ此說ハ普漏西憲法第八十六條ノ司法權
 ハ國王ノ名ニ於テ法律、外他、ハ權カニ服從セサル、不羈獨立ノ裁判所之ヲ行
 フトノ明文ニ基クモノナルモ本問題ノ要點ハ正當ナル法律ナリヤ否ヤヲ決
 スルコトヲ得ルヤ否ヤニアリ而シテ正當ナル法律ナリヤ否ヤハ解釋權ノ所
 在ニ依リテ定マルモノナルカ故ニ更ニ第二說ヲ生スルニ至レリ
 第二說 憲法ノ解釋權ハ君主ニアリテ裁判官ニ屬セス故ニ裁判官ハ法律ノ違

憲ナリヤ否ヤヲ審査スルコトヲ得スト云フニアリ此論者ノ如ク憲法ノ最高
 解釋權ハ君主ニ在リトスルモ之カ爲メ他ノ機關ハ總テ憲法及ヒ法律ニ關ス
 ル解釋ノ權能ナシト云フヘカラス且裁判官カ或法律ノ違憲ナルコトヲ唱フ
 ルハ決シテ其法律ノ無效ヲ一般ニ公布セシメントスルカ爲メニアラス唯或
 特別ノ事件ニ法律ヲ適用スルニ當リ真正ノ法律ナリヤ否ヤヲ審査スルカ爲
 メノミ而シテ職務執行ノ爲メ真正ナル法律ナリヤ否ヤヲ審査スルノ權ハ何
 人モ有スル所ニシテ殊ニ裁判官ノ如キ法律ノ解釋適用ヲ職務トスル者ニア
 リテハ適用スヘキ法律ヲ適用セス又ハ適用スヘカラサル法律ヲ適用スルト
 キハ共ニ責任ヲ免カレサル所ナレハ法律ノ憲法ニ牴觸セサルヤ否ヤ即チ法
 律ハ真正ノモノナリヤ否ヤヲ審査スル權アルモノト云フヘシ然レトモ最高
 ノ解釋權ハ君主ニ屬スルハ勿論ナルヲ以テ裁判官ハ君主ニ對シテ異ナリタ
 ル解釋ヲ主張スルコトヲ得ス故ニ裁判官ノ違憲ナリトノ解釋ヲ君主ニ於テ
 不當ナリト認ムルトキハ其裁判官ヲ職務上懲戒處分ニ付スヘキモノナリ乍
 併裁判官ニ於テ此懲戒處分ヲ受クルノ危險アルヲ理由トシテ本問題ノ裁判

官ノ審査權ヲ否認スルヲ得サルナリ

第三說 法律ノ實質ヲ裁判官ニ於テ審査スルコトヲ得トセハ裁判官ハ法律ヲ
 適用スルニアラスシテ立法ヲ監督スルモノナリト云フニアリ然レトモ裁判
 所ハ真正ナル法律ヲ適用スルノ任務ヲ帶フルヲ以テ其正當ナル法律ナリヤ
 否ヤヲ審査スルモノニシテ之ヲ以テ立法權ニ干涉スルモノト云フコトヲ得
 ス

右述ヘタル三說ハ凡テ之ヲ採用スルコトヲ得サルヲ以テ此問題ニ對シテハ裁
 判官ハ法律ノ實質ニ對シテモ審査權ヲ有スルモノト論結セサルヘカラス蓋シ
 實質上ノ審査ハ真正ノ法律ナリヤ否ヤヲ見ルニ外ナラサレハナリ又既ニ多數
 學者ノ如ク形式ニ於テ審査スルコトヲ認ムル以上ハ形式ト實質トノ間ニ區別
 ヲ立テ形式ハ審査シ得ルモ實質ハ審査スルコトヲ得スト說クハ余輩ハ其根據
 ヲ發見スルニ苦ムモノナリ蓋シ苟モ或法律カ違憲タル以上ハ其形式上タルト
 實質上タルトハ其效果ニ於テ毫モ異ナルコトナケレハナリ

第五 裁判官ハ命令ノ審査ヲ爲スコトヲ得ルヤ

普漏西憲法第六條ニ於テハ法律ニ從ヒ公布シタル勅令ノ遵奉スヘキヤ否ヤヲ審査スルノ權ハ官廳ニ屬セスシテ兩議院ニ屬ス下規定シタルヲ以テ普國ノ裁判官ハ勅令ニ關シ違憲違法ナリヤ否ヤノ點ヲ審査スルコトヲ得スト雖モ我邦ニ於テハ斯ノ如キ明文ナキヲ以テ法律ト等シク總テ之ヲ審査スルコトヲ得ルモノト云ハサルヘカラス

統治權ノ作用

第四編 統治權ノ作用

統治權ノ作用トハ統治權ノ外部ニ行使セラル、形式ヲ謂フモノニシテ其形式ノ異ナルニ從ヒ種々ニ之ヲ分チテ説明スルコトヲ得然レトモ三權分立說ノ學者ノ唱フルカ如ク統治權ノ作用ハ各獨立ノ權力タルモノニアラス統治權ハ前ニ述ヘタルカ如ク絶對且不可分ノモノニシテ唯其作用ノ形式ノ異ナルニ從ヒ之ヲ立法司法及ヒ行政ノ三種ニ分稱シ得ルノミ

立法

第一章 立法

憲法第五條及ヒ第三十七條ノ規定ニ依リ我憲法上立法ナル文字ハ人民ノ權義ヲ規定スル法規ヲ制定スルノ行爲ヲ指スモノニアラスシテ法律ナルモノヲ制定ス

立法權

第一節 立法權

立法權トハ立法行爲ヲ爲ス一方面ヨリ統治權ヲ觀察シタル名稱ニ過キササルヲ以テ立法權ノ主體ハ統治權ノ主體タルコト勿論ナリ故ニ我國ニ於テハ立法權ノ主體ハ議會ニアラスシテ統治權ノ主體タル天皇ナリ司法權ハ憲法第五十七條ニ依リ天皇ノ名ニ於テ裁判所之ヲ行フモノナリト雖モ立法權ハ憲法第五條ニ依リ其

憲法 統治權ノ作用 立法 立法權

主體タル天皇親ヲ行フモノナリ唯之ヲ行フノ條件トシテ議會ノ協賛ヲ要スルノ

法律ノ意

第二節 法律ノ意義

法律ヲ實質的ノ意義ニ解スル者ハ法律トハ法規ニシテ即チ人民ノ權利義務ニ關スル規定ナリト説クモ我國ノ憲法ニ於テハ其第九條ニ基キ命令ヲ以テ法規ヲ定ムルコトヲ許スヲ以テ此説ハ之ヲ採用スルコトヲ得ス是ニ於テ憲法中ノ法律ナル文字ヲ同一ニ解釋セシテ或場合殊ニ第五條及ヒ第三十七條等ノ場合ニ於テハ之ヲ實質的ノ意義ニ解シ他ノ場合ニ於テハ形式的ノ意義ニ解スル者生シタリ然レトモ同一文字ヲ二様ニ解釋スルハ當ヲ得タルモノニアラス故ニ余ハ憲法中ノ法律ナル文字ハ之ヲ形式ノ意義ニ解スルヲ相當ト信ス即チ法律トハ法律ノ名稱ヲ有シ帝國議會ノ協賛ヲ經テ天皇ノ裁定セラレタル命令ナリト言ハント欲ス故ニ若シ法律ナル名稱ヲ有セス又ハ帝國議會ノ協賛ナキ場合ニ於テハ所謂法律ナルモノハ存在セス或ハ法律ナル文字ヲ形式的ニ解スルノ説ニ反對スル者ハ曰ク若シ憲法第三十七條ヲ論者ノ如ク解釋スルトキハ總テ帝國議會ノ協賛ヲ經タ

四

五

ル命令ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ストノ無意義ノ條文トナリ了ルヘシ故ニ法律ナル文字ハ形式及ヒ實質ノ意義以外ニ於テ之ヲ解釋セサルヘカラス而シテ憲法發布以前ニ如何ナル意義ニ於テ使用セラレタルヤヲ見ルニ明治十九年勅令第一號公文式ニ依レハ法律ハ最強ノ效力ヲ有スル國家ノ命令ヲ指スモノナリ去レハ憲法發布後ニ於テモ特別ノ明文ナキ限りハ此意義ニ解セサルヘカラス蓋シ特ニ規定セサル場合ニ於テハ憲法發布前ニ於ケル法律ニ對スル觀念ハ其後ニ於テモ亦繼續スルモノト認ムヘキモノナレハナリト然レトモ既ニ第一編ニ於テ述ヘタルカ如ク憲法發布前ニ於テ法律ト命令トノ間ニ效力上ノ差異アリシモノト認ムルコトヲ得サルヲ以テ憲法發布後ニ於テモ亦效力ヲ以テ法律ト命令トヲ區別スヘキモノニアラス憲法第九條末文ニ於テ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ストアルモ是レ憲法第九條ノ命令ト法律トノ關係ニ止マリ一般ノ命令ト法律トノ區別ノ標準トナルヘキモノニアラス又此論者ハ法律ナル文字ヲ形式的ノ意義ニ解スルトキハ憲法第三十七條ハ空文ニ歸スヘシト唱フルモ憲法第三十七條ハ法律ノ定義ヲ與ヘタルモノナルニ依リ其條文ニ自ラ與ヘタル定義ヲ嵌入シテ讀

憲法

統治權ノ作用 立法 法律ノ意義

二六三

ムトキハ無意義ノ條項トナルコト勿論ノコトナリ

第三節 立法手續

第一款 發案

憲法第三十八條ニ依リ法律ノ發案權ハ政府及ヒ貴衆兩院ニ屬ス而シテ茲ニ政府ト云フモ發案權ヲ政府固有ノ權限トナスモノニアラスシテ君主ノ命ヲ受ケテ發案權ヲ行フコトヲ指スモノナリ即チ憲法第三十八條ノ意義ハ法律ノ發案權ハ君主及ヒ貴衆兩院ニ屬スルコトヲ規定シタルモノト解スヘキモノトス普漏西憲法第六十四條、白耳義憲法第二十七條ノ如キハ明カニ法律ノ發案權ハ國王及ヒ兩院ニ屬スト規定セリ我憲法第三十八條モ亦此意味ニ外ナラス又法律ノ發案權ハ君主獨リ之ヲ有セシ時代アリシモ今日多數ノ國ニ於テハ議院ニモ亦之ヲ與フルニ至レルモノナリ

議院ニ於テ法律ヲ發案スル手續ヲ云ヘハ或議員カ其所屬ノ議院ニ法律案ヲ提出シ議院ニ於テ之ヲ議事日程ニ編入シ一定ノ手續ヲ以テ其可否ヲ決シ而シテ其可決シタル場合ニ於テ始メテ議院ノ發案トナルモノナリ憲法改正案ハ法律案ニア

ラサルヲ以テ議院ニ於テ發案スルコトヲ得サルヤ勿論ニシテ殊ニ憲法第七十三條ハ議院ニ於テ其權限ナキコトヲ明カニセリ

發案者ノ政府ナルト兩院ナルトヲ問ハス發案權ニ對スル唯一ノ制限ハ同一ノ會期中一旦否決セラレタル法律案ヲ再ヒ發案スルコトヲ得サルコト是ナリ是レ蓋シ立法作用ノ澁滯ヲ防クカ爲メニ外ナラス之ニ關聯シテ議會カ可決シタル後未タ裁可ナキ法律案ヲ同一會期中ニ更ニ議院ニ提出スルコトヲ得ルヤ否ヤノ問題アリ或ハ此場合ハ否決セラレタルモノニアラサルヲ以テ憲法第三十九條ノ制限ヲ受クヘキモノニアラス故ニ同一會期中一旦兩院ヲ通過シタル法律案モ直チニ裁可ナキトキハ之ヲ再ヒ發案スルコトヲ得ルモノナリト唱フル者アリト雖モ這ハ誤謬ノ見解タルヲ免カレサルヘシ何トナレハ裁可ノ時期ニ付テハ我憲法上何等ノ規定ヲ設ケサルヲ以テ議會ノ可決後直チニ裁可セラレサルモ議案ハ不裁可ニ因リ消滅シタルモノト認ムルコトヲ得サレハナリ然レトモ法律ノ發案ト建議トハ異ナルコト勿論ナルヲ以テ一旦否決セラレタル法律案ニ付キ議院ヨリ政府ニ對シ建議ヲ爲スモ憲法第三十九條ニ抵觸スルモノニアラス又第四十條ノ但書

ニモ違反スルモノニアラサルナリ又前ニ述ヘタルカ如ク議院ニ於ケル發案ハ其院ニ於テ可決シタル時ニアルヲ以テ或議員カ提出シタル法律案否決セラレタルモ更ニ議院ニ於テ其法律ヲ發案スルコトハ固ヨリ妨ケナキ所ナリ尙ホ一個ノ問題ハ法律案ノ撤回權ハ發案權ヲ有スル者總テ之ヲ有スルヤ或ハ政府ノ專有ニ屬スヘキモノナリヤ否ヤノコト是ナリ兩院ノ發案ナルモノハ既ニ屢ニ說述シタルカ如ク其院ニ於テ可決シタル時ニアルヲ以テ發案後之ヲ撤回スルコトヲ得ルモノトナストキハ其議決ヲ取消スノ結果トナルヘシ而シテ議決ノ取消ハ容易ナラサルモノナルヲ以テ妄リニ之ヲ許スヘキモノニアラス是ヲ以テ議院法第三十條ニ於テモ政府ハ何時タリトモ既ニ提出シタル議案ヲ修正シ又ハ撤回スルコトヲ得ト規定シタルモ兩院ノ法律案撤回ニ付テハ何等ノ規定ヲ設ケス以テ間接ニ兩院ニ其撤回權ナキコトヲ認メタリ而シテ政府カ法律案ヲ撤回スルノ時期ハ議案ノ未タ決定セサル間ニ於ケルコト勿論ニシテ既ニ兩院ニ於テ可決シ若クハ一院ニ於テ否決シタル後ニ於テハ其案ヲ撤回スルコトヲ得ス

議會ノ協贊

第二款 議會ノ協贊

憲法第五條ニ天皇ハ議會ノ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フトアルヲ以テ協贊ノ立法作用ニ必要ナルハ言フ俟タス然ルニ協贊ノ性質ニ付テハ種々ノ學說アリテ未タ一定セス或ハ議會ハ協贊ヲ以テ立法權ヲ行フモノナリト言ヒ或ハ議會ハ協贊ヲ以テ君主ト共同シテ立法權ヲ行フモノナリト説キ或ハ議會ノ協贊ニ依リテ法律完成スルモノナリト唱フル者アリト雖モ此等ハ皆我憲法上ノ協贊ノ性質ヲ説明スルモノニアラス今協贊ノ性質ヲ説ク前ニ先ツ法律ナルモノ、要素ヲ考フルニ法律ハ命令ト内容トノ二要素ニ因リテ成立スルモノニシテ即チ人民ヲ羈束スル效力ヲ有スル命令ノ部分ト人民ヲ羈束スル法則即チ條文トヲ要素トナスモノナリ其條文ニ對シテ命令ノ效力ヲ附スルハ立法者ノ行爲ニシテ即チ我國ニ於テハ裁可權ヲ有スル天皇ノ職權内ニ屬スルモノナリ而シテ他ノ要素タル内容ヲ確定スルモノハ即チ議會ニシテ議會ハ其議決ヲ以テ法律ノ内容ヲ確定スルニアリ而シテ其行爲ハ即チ憲法上所謂協贊ト稱スルモノ是ナリ

裁可

第三款 裁可

前項ニ於テ述ヘタルカ如ク法律ハ二個ノ要素ヨリ成立シ而シテ其一ノ要素タル

憲法 統治權ノ作用 立法 立法手續

實質ハ議會ノ協賛ニ依リテ確定スルモノナリト雖モ他ノ要素タル命令ノ效力ハ裁可ニ依リテ生スルモノトス我憲法第五條ニハ天皇ハ法律ヲ裁可シトアルヲ以テ法律ノ裁可ハ天皇ノ大權ニ屬シ即チ天皇ハ法律ノ實質ニ對シ命令ノ效力ヲ付與スルモノナリ其法律ノ二要素中法律ノ法律タル主要ノ部分ハ命令ニ存スルヲ以テ其法律ニ裁可ヲ與ヘラレタル時即チ命令ノ力ヲ付セラレタル時ニ於テ法律ハ完成スルモノト云フヘシ或ハ法律ハ公布ニ因テ完成シ或ハ施行期限ノ到來スル時ヲ以テ完成スルモノナリト説ク者アリト雖モ公布及ヒ施行期限ハ後ニ述フルカ如ク完成シタル法律ヲ執行スルニ導クノ手續ニ過キサレハ其時ヲ以テ完成スルモノト稱スルハ當ヲ得ス又或ハ之ト反對ニ裁可前既ニ法律ハ完成シ裁可ハ唯完成シタル法律ヲ完成シタルモノトシテ表示スルノ作用ニ過キスト説ク者アリト雖モ若シ裁可ヲ以テ法律ハ成立セス其以前ニ成立スルモノトナストキハ如何ナル時ヲ以テ成立ノ時ト看做スヘキヤ我國ニ於テハ裁可ト議會ノ議決トノ間ニ何等ノ段階存セサルヲ以テ裁可前ニ法律ノ完成スルモノトナストキハ議決ノ時ヲ以テ成立ノ時期ト看ルノ外ナカルヘシ若シ果シテ然ラハ議會ハ立法者トナ

リ憲法第五條ノ明文ニ牴觸スルモノト云ハサルヘカラス又或ハ裁可ヲ以テ君主ノ心中ニ於ケル決意ニ過キスト説ク者アリト雖モ若シ此説ヲ正當トスレハ裁可ハ法律上ノ研究ノ目的ト爲ルモノニアラス尙ホ裁可ヲ以テ拒否(Veto)ト同一ニ看做ス者アリト雖モ拒否ノ意義ハ他ヲ監督シ其監督セラル、者ノ行爲不當ナル場合ニ其行爲ノ成立ヲ妨クルノ意義ヲ有スルモノニシテ裁可トハ全ク其性質ヲ異ニスルモノナリ即チ裁可トハ法律ヲ成立セシムルコトニシテ拒否ヲ行フ者ハ拒否ニ因リテ法律ヲ成立セシムルモノニアラス他ノ者カ法律ヲ制定スル場合ニ之ニ對シ監督權ノ作用ヲ以テ妨クルニアリ從テ裁可權ヲ行フ者ハ立法者ナルモ拒否權ヲ行フ者ハ立法者以外ニ存在スルモノナリ故ニ此二者ハ混同スヘキモノニアラス

裁可ノ時期ニ付テハハイエルンノ憲法ニ於テハ國王ハ遅クトモ國會閉會ノ前ニ裁可ヲ與フルカ又ハ之ヲ拒マサルヘカラスト規定シ又葡萄牙ノ憲法ハ一个月間ニ裁可ヲ爲サルヘカラストセリ然ルニ我邦ノ憲法ニ於テハ之ニ關スル規定ナク唯議院法第三十二條ニ議案ニシテ裁可セラル、モノハ次ノ會期マテニ公布セ

ラルヘシトアルヲ以テ間接ニ裁可ハ次ノ會期マテニ之ヲ爲サ、ルヘカラス若シ之ヲ爲サ、ルトキハ議案不繼續ノ原則ニ依リ議會ノ議決ヲ經タルト否トヲ問ハス議案ハ總テ消滅ニ歸スヘキモノナリト唱フル者アリト雖モ總テ不議了ノ議案ハ議案不繼續ノ原則ニ依リ閉會ト共ニ消滅スヘキモノナリト雖モ兩院ノ議決ヲ經タル議案ニ付テハ此原則適用ノ以外ナルヲ以テ閉會若クハ次ノ開期ニ入ルカ爲メ當然消滅スヘキモノニアラサルナリ故ニ明文ナキトキハ裁可ハ議決後數年ヲ經テ之ヲ與フルモ無効ニアラスト云ハサルヘカラス唯我邦ノ議院法第三十二條ノ解釋トシテ我邦ニ於テハ次ノ會期マテヲ以テ裁可ノ時期ト論定スルノミ又或ハ兩議院ノ議決ヲ經タル後之ヲ裁可スル前ニ議會ノ解散若クハ議員ノ總選舉アリタルトキハ其決議ハ消滅スルモノナリト唱フル者アレトモ既ニ議會カ國家ノ機關トシテ決議ヲ爲シタル以上ハ縱令其組織スル内部ノ分子カ變更スルモ之カ爲メニ決議ノ效力ヲ失フヘキモノニアラサルナリ

法律ノ公布前ニ於テハ一旦與ヘタル裁可ヲ取消スコトヲ得ルヤ否ヤト云フニ或ハ之ニ關シ裁可ハ國家ノ意思ヲ決定シタルノミニシテ未タ之ヲ發表シタルモノ

ニアラサレハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得ト唱フル者アリ然レトモ既ニ述ヘタルカ如ク法律ハ裁可ニ依リテ完成スルモノトナストキハ其後ニ至リ之ヲ取消サントスルニハ更ニ法律制定ノ手續即チ一般ノ立法手續ヲ經サルヘカラサルモノナリ

第四款 公布

公布トハ既ニ完成シタル法律ヲ一般人民ニ對シ發表スルコトニシテ之ニ因リテ人民ニ對シ拘束力ヲ生ス蓋シ發表セサルモノヲ以テ人民ヲ拘束セントスルハ事實ニ於テ不當ナルコトナレハナリ而シテ我邦ニ於テ公布ヲ命スルハ天皇ノ大權ニ屬シ政府ハ唯其命令ヲ受ケテ公布ノ手續ヲ爲スニ過キス又公布ノ方式ハ多數ノ國ノ例ニ倣ヒ我邦ニ於テモ官報ニ掲載スルコト、セリ(公文式)故ニ單ニ新聞紙ニ掲載スルモ憲法上ノ公布ニアラス

法律公布ノ時期ハ佛國ニ於テハ一个月以内ニ之ヲ公布スヘク若シ兩院ノ議決ヲ以テ緊急ヲ要スルモノト定メラレタルモノハ三日以内ニ公布スヘシト規定スルモ我邦ノ憲法ニ於テハ之ニ關スル明文ナク唯前述シタルカ如ク議院法第三十二

條ノ規定ニ依リ間接ニ次ノ會期マテヲ以テ公布ノ時期ト推定セシムルニ過キサ
ルナリ
前ニ述ヘタルカ如ク我公布式ハ官報ニ掲載スルモノナルモ其官報ニ誤植アリタ
ルトキハ如何ナル結果ヲ生スヘキヤト云フニ此場合ニ於テハ其誤植アリタル條
項ハ固ヨリ法律タルノ效力ヲ有スルモノニアラス而シテ訂正セラレタル正當ナ
ル條文ハ公布ノ當時ニ遡リテ拘束力ヲ有スルモノニアラサルヲ以テ其訂正ノ時
ヨリ一定ノ施行期限ヲ經テ其拘束力ヲ生スルモノトス又官報ノ誤植ヲ訂正スル
職責ヲ有スル者ハ固ヨリ公布ノ責ヲ有スル政府ナリ故ニ政府以外ノ者ニシテ官
報ニ訂正ノ旨ヲ掲載スルモ眞ノ訂正ノ效力ヲ生スルモノニアラス乍併之ト區別
スヘキハ天皇ノ裁可ノ原文カ議會ノ決議ト異ナリタルトキ或ハ議會ノ決議其レ
自身カ誤リナルトキ是ナリ此等ノ場合ニ於テハ裁可ヲ訂正シ或ハ更ニ決議ヲ爲
スヘキモノニシテ單ニ官報ノ訂正ヲ以テ此等ノ誤謬ヲ救正スルコトヲ得サルハ
勿論ナリ

施行期限

第五款 施行期限

法律ハ公布ニ依リテ人民ニ對スル遵奉力ヲ生スルヲ原則トナスモ或ハ施行期限
ノ制アルニ依リ法律ハ公布ニ依リテ拘束力ヲ生スルモノニアラスト唱フル者ナ
キニアラス然レトモ法律ハ公布セラレ、モ人民ハ直チニ之ヲ知り得ルモノニア
ラス而モ直チニ之ヲ拘束スルハ酷ナルニ依リ實際ノ便宜上公布ノ效果發生ノ時
期ヲ定メタルモノ即チ施行期限ナリ而シテ一定ノ期日經過後ニ至リ實際ニ人民
ニ對シテ法律ノ拘束力ヲ生スルモ是レ畢竟公布ノ效果ニ過キササルヲ以テ法律ハ
施行期限ニ至リテ遵奉力ヲ生スルモノト云フコトヲ得サルナリ施行期限ハ法律
ニ特別ニ之ヲ明記シタルモノト各別ノ法律ニ之ヲ規定スルノ煩ヲ避ケ普通ノ場
合ニ一般ニ適用スヘク規定セラレタルモノトアリ又其特別ニ施行期限ヲ定ムル
場合ニハ其期限區々ニシテ或ハ即日ニ之ヲ施行スルコトヲ定ムルモノト或ハ數
年ノ後ヲ期シテ之ヲ施行スルコトヲ定ムルモノアリ或ハ又施行期限ヲ日ヲ以テ
定メスシテ事實ヲ以テ定ムルコトアリ例ハ現行ノ選舉法ニ於テ本法ハ次ノ總
選舉ヨリ之ヲ施行スルコトヲ定メタルカ如シ又或ハ日ヲ以テ定メス又事實ヲ以テ定メ
スシテ單ニ法律ノ性質及ヒ前後ノ關係ヨリ其施行期限ヲ推測セシムルコトアル

ナリ而シテ又一般法律ニ適用スル施行期限ヲ定ムルニ二個ノ方法アリ全國一般ニ同時ニ法律ヲ施行スルヲ原則トナスモノト土地ノ遠近ニ因リテ各府縣ニ對スル施行期限ヲ異ニスルモノトアリ明治十九年公文式第十條ニハ官報カ各府縣到達日數ノ後七日ヲ以テ施行ノ期限トナス但官報到達日數ハ明治十六年五月二十六日第十四號布達ニ依ルト規定シ後ノ主義ヲ採用シタリシモ明治三十一年法律第十號法例第一條ニハ前ノ主義ヲ採リ法令ハ公布ノ日ヨリ起算シ滿二十日ヲ經テ之ヲ施行スヘキモノト定メタリ而シテ施行期限ノ到達シタル以上ハ人民ハ之ヲ知ルト否トヲ問ハス總テ之ヲ知ルモノトノ推定ヲ受ケ之ニ拘束セラル、モノナリ

尙ホ施行期限ニ關シ在外ノ臣民ニ對シテ遵由ノ效力アル法律ニシテ施行期限明記セラレサルトキハ何レノ日ヲ以テ施行期限トナスヘキヤノ問題アリ之ニ關シテハ左ノ三說アリ

第一說 其在外ノ臣民カ法令ヲ知リ又ハ知リ得ヘキ時ヲ以テ施行期限トナスヘシ

第二說 外國ニ官報到達シタル後二十日ヲ以テ施行期限トナスヘシ

第三說 法令ノ公布後二十日ヲ以テ施行期限トナスノ原則ヲ此場合ニモ絶對ニ適用スヘシ

右ノ三說中實際上ニ於テハ第二說ヲ以テ當ヲ得タルモノトナスモ我現行法ノ解釋トシテハ第三說ヲ採ラサルヲ得サルナリ

立法事項ノ範圍

第四節 立法事項ノ範圍

第一 憲法ニ明カニ法律ヲ以テ規定スヘシト定メタル場合(憲法一四、一八、二〇乃至七三)

第二 法律ヲ以テスルモ命令ヲ以テスルモ自由ナル事項即チ法令共同區域ニ屬スル事項 乍併此事項ニ付テハ憲法第九條末文ノ結果トシテ其法律ト命令ノ間ニ效力上ノ差異存在シ此共同事項ヲ法律ヲ以テ定メタルトキハ命令ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ得サルヲ以テ此事項ノ範圍ナルモノハ法律ノ規定ノ生スルニ從ヒ漸次立法事項ト變シ共同事項ノ範圍ハ縮少セラル、モノナリ

右ニ述ヘタル事項ハ法律ヲ以テ規定スヘク又規定シ得ヘキモノナリト雖モ法

律ヲ制定スルニ當リテハ左ニ記載シタル法則ニ牴觸スルヲ得サルコトニ注意スヘキモノナリ

一 憲法

憲法ニ牴觸スルヲ得サルコトハ特別ノ明文ヲ有セスト雖モ元來立法ナル行爲ハ憲法ニ依リテ定マルモノニシテ其憲法ノ結果トシテ爲ス行爲ヲ以テ其根據ノ規定ヲ變更スルコトヲ得サルヤ勿論ナリ且憲法第七十三條ニ於テ特ニ憲法ヲ改正スルニ立法手續ト異ナリ鄭重ナル方法ヲ以テスヘシト定メタル規定ノ精神ヨリ考フルモ法律ヲ以テ憲法ニ規定シタル事項ヲ規定スルヲ得サルコトハ明カナリ

二 皇室典範

憲法第七十四條第二項ハ皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得スト規定シ皇室典範ハ憲法ヲ除クノ外他ノモノヲ以テ變更スルコトヲ得サルノ精神ヲ間接ニ示シタルヲ以テ法律ヲ以テ皇室典範ニ牴觸シタル規定ヲ設クルコトヲ得サルモノト認ムヘキナリ

三 貴族院令

憲法第三十四條ハ貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及ヒ勅任セラレタル議員ヲ以テ組織スト規定シ貴族院令ハ憲法ノ委任ヲ受ケテ貴族院ノ組織ヲ制定スルモノナルヲ以テ他ノ法令ヲ以テ之ヲ侵スコトヲ得サルヤ勿論ナリ又貴族院令ハ之ヲ變更スルニ普通ノ勅令ト異ナリ貴族院ノ議ヲ經ルヲ要スト雖モ議會全體ノ議ヲ經ルモノニアラサルヲ以テ法律ト同一視スヘキモノニアラサルハ言ヲ俟タス

四 大權命令

憲法上ノ大權事項ハ特ニ天皇ノ親裁シテ之ヲ行ヒ議會ノ協賛ヲ經ヘキモノニアラストナセルヲ以テ此事項ヲ規定シタル命令ハ法律ヲ以テ之ヲ規定スルコトヲ得ス唯憲法第十條ノ但書ニ但此憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各其條項ニ依ルト規定シ憲法上ノ大權事項ト定メタル官制ノ制定文武官ノ俸給ノ確定及ヒ文武官ノ任免ニ關シテハ法律ヲ以テ自由ニ之ヲ定ムルコトヲ得ルカ如キ疑アルモ此但書ノ意味ハ大權命令ヲ以テ未タ定メサ

憲法

統治權ノ作用 立法 立法事項ノ範圍

ル場合ニ法律ヲ以テ同條ニ掲ケタル事項ヲ規定スルコトヲ得ルノ趣旨ニ止マリ既ニ此等ノ事項ヲ大權命令ヲ以テ規定シタル場合ニ於テモ尙ホ法律ヲ以テ之ニ牴觸シタル規定ヲ設クルコトヲ許スノ意味ニアラサルナリ

第五節 法律ノ廢止及ヒ法律ノ停止並ニ免除

第一款 法律ノ廢止

第一 他働的ニ法律廢止ノ效果ヲ生スル場合

一 憲法ヲ以テ廢止セラレタルトキ

此場合ニ法律廢止ノ效果ヲ生スルハ憲法ハ最高ノ效力ヲ有スル天皇ノ命令ナルカ故ナリ

二 他ノ法律ヲ以テ廢止セラレタルトキ

法律ノ效力トシテ法律ニアラサレハ法律ヲ廢止變更スルコトヲ得サルヲ原則トスルモノナルヲ以テ他ノ法律ヲ以テ廢止シタル場合ニ廢止ノ效力ヲ生スルハ勿論ナリ乍併法律ヲ以テ法律ヲ廢止スル場合ニハ必スシモ廢止スルコトヲ明言スルモノ、ミニ限ラス時トシテハ後ノ法律ヲ以テ前法ニ牴觸シ

タル規定ヲ設ケ以テ間接ニ前法廢止ノ結果ヲ生セシムルコトナキニアラスル
三 緊急勅令ヲ以テ廢止セラレタルトキ

緊急勅令ハ後ニ述フルカ如ク法律ニ代ハルヘキ勅令ニシテ即チ法律ト同一ノ效力ヲ有スル勅令ナリ故ニ法律ヲ以テ法律ヲ廢止スルト等シク緊急勅令ヲ以テ之ヲ廢止スルコトヲ得ルハ明カナリ然レトモ法律ヲ以テ廢止シタル場合ト緊急勅令ヲ以テ廢止シタル場合トハ其效果ニ於テ大ナル差異アルコトヲ注意スヘシ即チ法律ヲ以テ廢止シタル場合ハ其廢止ノ效果ハ永久確定ノモノナルモ緊急勅令ヲ以テ廢止シタル場合ハ永久的ノ效力ヲ有スルモノニアラス元來緊急勅令ハ次ノ議會ノ不承諾ヲ解除條件トシテ其效力ヲ有スルモノナルヲ以テ法律ヲ廢止スル場合ニ於テモ其效力ハ解除條件附ナリ其結果トシテ法律ヲ廢止シタル緊急勅令カ議會ノ不承諾ニ依リテ其效力ヲ失フニ至リタルトキハ其勅令ニ依リテ廢止セラレタル前ノ法律ハ其效力ヲ回復スルモノナリ之ニ反シテ法律ヲ以テ法律ヲ廢止シタル場合ニ於テ後ノ法律カ更ニ廢止セラレ、モ前ノ法律ハ其效力ヲ回復スルモノニアラス

以上ノ外慣習ヲ以テ法律ヲ廢止スルコトヲ得ト唱フル者アルモ既ニ第一編ニ於テ述ヘタルカ如ク慣習法ハ明文ノ範圍ニ於テ其效力ヲ有スルニ止マルヲ以テ之ヲ以テ成文ノ法律ヲ廢止スルコトヲ得ス

第二 他働的ニ法律ノ廢止セラル、場合

一 目的物ノ消滅

法律ヲ以テ規定シタル目的カ絶對ニ消滅スルトキハ其根據ヲ失フヲ以テ其法律モ亦效力ヲ失フハ當然ノ結果ナリ

二 廢止期限ノ到達

三 解除條件ノ成就

四 法律ヲ命令ニ委任シタル場合ニ於テ其委任命令ニ依リ廢止セラル、場合

法律カ命令ニ其廢止ヲ委任スルコトヲ得ルヤ否ヤハ一ノ疑問ニ屬スルモ此事ニ關シテハ後ニ委任命令ノ説明ヲ爲スニ由リ明瞭ナルヲ得ヘシ
右ニ列舉シタル外法律ヲ適用セサルコトニ因リテ法律カ其效力ヲ失フモノナルコトヲ唱フル者アリト雖モ法律ハ單ニ其不適用ニ因リテ其效力ヲ失フモノ

法律ノ適用停止並ニ免除

第二款 法律ノ適用停止並ニ免除

法律ノ適用停止並ニ免除

第一 法律ノ適用停止

法律適用ノ停止トハ一定ノ區域ヲ限リ或ハ一定ノ時期ヲ限リテ其適用ヲ停止スルヲ謂フ或ハ法律適用ノ停止ニ付テハ法律ノ執行ヲ命スルハ天皇ノ大權ニ屬スルヲ以テ法律ノ適用ヲ停止スルモ亦天皇ノ權内ニ屬スルモノナリト唱フル者ナキニアラス然レトモ或特別ノ明文アル場合即チ憲法第三十一條又ハ特ニ法律ニ規定スル場合即チ明治十五年戒嚴令ニ規定シタル場合ノ外法律ニ依ルニアラサレハ其適用ヲ停止スルコトヲ得サルモノトス

第二 法律ノ適用免除

法律ノ適用免除トハ一人又ハ數人ノ爲メニ法律ノ適用ヲ廢止スルヲ謂フ此免除モ憲法ニ明文アル場合ノ外凡テ法律ニ依ルニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス災害ノ地租ヲ免除スルカ爲メ緊急ノ場合ニ法律ヲ發布スルノ必要アルハ之

憲法 統治權ノ作用 立法 法律ノ廢止及ヒ法律ノ停止並ニ免除

カ爲メナリ唯二ノ例外トシテ憲法第十六條ニ大赦、特赦、減刑等ノ行爲ヲ天皇ニ許シ以テ天皇ノ大權作用ヲ以テ制裁ノ免除ヲ爲スコトヲ得セシメタリ(憲法一會計檢査)或ハ此君主ノ恩赦權ヨリ推及シテ租稅ノ免除權モ亦君主ニ屬スルモ(憲法二)ノナリト唱フル者ナキニアラサルモ我憲法第十六條ニ納稅義務ノ免除ヲ包含スルモノトハ解スルコト能ハサルヲ以テ此說ハ之ヲ採用スルコトヲ得サルナリ

大權事項

第二章 大權事項

我大權作用ナルモノハ歐洲諸國ニ於ケル政府行爲(Regierungsgait)ニ當リ殆ト其性質ヲ同ウスルモノナリ今歐洲ニ於テ政府行爲トハ如何ナル意味ヲ有スルヤヲ考フルニ國權ノ作用中ヨリ立法及ヒ司法ヲ除キタル憲法上ノ作用ヲ政府行爲ト稱スルモノニシテ其行爲ノ範圍ハ民主國ト君主國トニ於テ異ナルモノナリ民主國ニ於テハ國權ハ人民ニ存在ストナシ權力活動ノ中心ハ議會ニアリトナスニ依リ凡テ法則ヲ定ムルニハ必ス議會ノ議ヲ要スヘキモノトナスヲ以テ政府行爲ナルモノハ單ニ法律ノ執行ニ止マルモノナリ之ニ反シテ君主國ニ於テハ憲法上法律ヲ

以テ定ムヘキ事項ヲ除クノ外法規ヲ制定スルモ亦政府行爲ノ範圍ニ屬スルモノトナシ所謂獨立命令ナルモノハ政府行爲ノ作用トシテ現ハル、モノナリ尙ホ又其範圍ニ付キ憲法上制限セラレサル事項ハ總テ政府行爲ニ屬スルモノトナスモノト又政府行爲ノ範圍ハ憲法ニ於テ積極的ニ認めラレタル範圍ニ止マルモノト解釋スルモノトアリ而シテ概シテ今日君主ヲ以テ統治權ノ主體トナス論者ハ政府行爲ノ範圍ハ反對ノ規定アラサル限りハ總テニ及フモノナリトノ說ヲ主張シ又國家ヲ以テ統治權ノ主體トナス論者ハ政府行爲ハ憲法ノ明文ヲ以テ積極的ニ認めタル限界ニ止マルトナセリ其何レノ說ヲ採ルモ歐洲ニアリテハ立法權ノ作用ハ政府行爲ノ中ニ屬セサルヤ明カナリ然ルニ我國ニ於テハ憲法第十七條ニ於テ攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フモノト規定セラレタルニ依リ大權中ニ立法權カ包含セラル、ヤ否ヤハ一ノ疑問ニ屬スルモノナリ包含セストスル論者ハ憲法第三十一條及ヒ第六十七條ヲ引キ若シ大權中ニ立法權ヲ包含スルモノトセハ第三十一條及ヒ第六十七條ハ之ヲ解スルコトヲ得ス何トナレハ第三十一條中ニハ戒嚴ノ場合ヲ包含シ而シテ戒嚴ノ要件及ヒ效力ハ法

律ヲ以テ定メラルトニ依リ此條ニ於テ大權ト立法權トハ重複スルコトナリ又
 憲法第六十七條ニ憲法上ノ大權ニ基ケル既定ノ歲出ト法律ノ結果ニ依リ又ハ法
 律上政府ノ義務ニ屬スル歲出トヲ別個ニ規定シタルニ依リ大權ト立法權トヲ相
 重サナルモノト解スルトキハ此條文ヲ明カニ解釋スルコトヲ得サルノ結果ニ陷
 ルモノナレハナリト然レトモ憲法第十七條ノ大權中ニ立法權ヲ包含セストナス
 トキハ攝政ハ其在任中法律ヲ規定スルコトヲ得サルヤノ疑ヲ生スルニ依リ我國
 多數ノ說ハ大權中ニ立法權ヲ包含スルモノト解セリ而シテ此解釋ニ從フトキハ
 我大權作用ナルモノハ歐洲ノ政府行爲ト立法行爲トヲ含蓄スルモノト云フヘシ
 或ハ又憲法第十七條第三十一條及ヒ第六十七條ノ三個條ニ於ケル大權ナル文字
 ヲ各異ナリタル意味ニ解釋シ憲法第十七條ノ大權ナル文字ハ統治權ト同一ニ之
 ヲ解スヘク第六十七條ノ大權ナル文字ハ立法權ヲ除キタルモノナリト説ク者ア
 リト雖モ同一ノ文字ヲ同一法文中ニ於テ異ナリタル意味ニ解釋スルハ當ヲ得タ
 ルモノニアラス然ラハ我國ニ於ケル大權ナル文字ハ如何ナル意義ニ之ヲ解スヘ
 キヤト云フニ大權作用トハ天皇ノ親裁ニ出ツル統治權ノ作用ヲ指稱スルモノニ

シテ大權事項トハ天皇ノ親裁ニ依ルヘク定メラルタル政務ノ範圍ヲ指スモノナ
 リ而シテ立法行爲ハ大權作用中ニ包含スヘキヤ否ヤト云フニ法律ヲ制定スル手
 續中主要ナル部分ニ屬スル法律ノ裁可或ハ法律ノ公布ヲ命スルカ如キハ天皇ノ
 親ヲ行フヘキ作用ナルカ故ニ大權作用ニ屬スルモノナリ然レトモ立法事項ナル
 モノハ天皇ノ親裁ニ依ルヘキ政務ノ範圍ニアラスシテ議會ノ協賛ヲ經テ定マル
 ヘキ政務ノ範圍ナルカ故ニ立法事項ハ大權事項ニアラサルナリ大權事項トハ例
 ヘハ官制ヲ制定スルコト文武官ヲ任免スルコト條約ヲ締結スルコト等ヲ指スモ
 ノナリ尙ホ大權ニ關シ一ノ疑問ニ屬スルモノハ所謂大權事項ナルモノヲ行政官
 廳ノ權限ノ範圍若クハ立法事項ニ之ヲ移スコトヲ得ルヤ否ヤノ問題ナリ憲法第
 九條ニ於テ天皇ハ執行命令ヲ發シ若クハ獨立命令ヲ發シ或ハ自ラ發セシテ行
 政官廳ニ委任シテ之ヲ發セシムルコトヲ得ルニ依リ此種ノ大權事項ニ付テハ委
 任ヲ爲シ得ルコト明カナリト雖モ明文ナキ場合ニ於テ斯ノ如キ委任ヲ爲シ得ル
 ヤ否ヤカ問題トナルモノナリ而シテ實際ノ例ヲ考フルニ文武官ヲ任免スルハ天
 皇ノ大權ニ屬スト雖モ判任官ノ任免ハ之ヲ行政官廳ニ委任シテ行ハシムルモノ

緊急勅令
的發布ノ目

ナリ此點ヨリ見ルトキハ大權事項ト雖モ行政官廳ノ權限ニ委任スルコト妨ケナ
キモノ、如シ然レトモ判任官ノ任免ヲ行政官廳ニ委任スルノ例ハ特別ノ例外ト
シテ之ヲ認ムヘク原則トシテハ憲法上大權事項ト定マリタルモノハ委任シテ他
ノ權限ノ範圍ニ屬セシムルコトヲ得サルモノト解スヘキナリ蓋シ然ラサルトキ
ハ憲法上統治權ノ作用ノ種類ニ從ヒ種々ノ形式ヲ定メタル精神ヲ滅却スレハナ
リ

第一節 緊急勅令

第一款 緊急勅令發布ノ目的

緊急勅令ノ發布ハ憲法ニ於テ立法事項ト天皇ノ大權事項トカ分界セラレタルヨ
リ來リタルモノニシテ立法手續ハ既ニ述ヘタルカ如ク議會ノ協賛ヲ必要トナシ
之ヲ變更スルニ當リテモ亦議會ノ協賛ヲ經サルヘカラサルニ依リ緊急ノ事件生
シタルトキ實際ノ必要ニ應スルコト能ハサルノ虞アリ是ニ於テ立法事項ト定メ
タルモノモ或特別ノ場合ニ於テハ大權事項ノ範圍ニ入ラシメ勅令ヲ以テ制定ス
ルコトヲ許スモノナリ即チ其勅令發布ノ必要ハ國家生活ノ變化ニ基クモノト云

緊急勅令
發布ノ要件

第二款 緊急勅令發布ノ要件

第一 議會閉會中ナルコト

閉會中トハ議會ノ會期以外ヲ指スモノニシテ即チ議會ノ閉會若クハ解散ヨリ
開會ニ至ルマテヲ謂フ故ニ議會ノ停會中ト雖モ閉會中ニアラサルニ依リ緊急
勅令ヲ發スルコトヲ得サルナリ或ハ停會中ハ議會ノ活動中止セラレ、モノナ
ルニ依リ緊急勅令ノ發布ヲ認ムヘキモノナリト説ク者アリト雖モ我國ニテハ
斯ノ如キ説ハ立法論ニシテ憲法ノ解釋論ニアラサルナリ又閉會中ナル以上ハ
緊急勅令ヲ發布スルコトヲ得ルモノナルニ依リ緊急勅令ヲ發布セントスル事
情アル爲メ他ノ理由ヲ口實トシテ議院ノ解散ヲ爲シ其翌日緊急勅令ヲ發布ス
ルモ此條件ヲ缺クモノト云フコトヲ得サルナリ又議員召集ニ應シテ未タ開會
ニ至ラサル間ト雖モ此要件ニ適スルモノト云フヘキナリ

第二 緊急勅令ヲ發布スルノ必要カ緊急ナリシコト
若シ勅令ニ規定スヘキ事項ニシテ次ノ議會ノ開會ヲ待ツコトヲ得若クハ新ニ

議會ヲ召集スルノ餘裕ヲ有スルコトヲ得ル場合ニ於テハ緊急勅令ヲ發布スルコトヲ得サルナリ憲法第七十條ニ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ云々トノ文字アリテ憲法第八條ニハ斯ノ如キ文字ナシト雖モ其結果同一ナリト云フヘシ

第三 公共ノ安全ヲ保持シ又ハ災厄ヲ除クノ必要アルコトヲ認メ緊急勅令ヲ發布スルハ公共ノ爲メニアラスシテ單ニ一人ノ災厄ヲ除クカ爲メニ緊急勅令ヲ發布スルハ許スヘキニアラサルナリ或ハ又他國ノ憲法中緊急勅令ノ規定ノ目的ヲ廣ク定メ單ニ公安ヲ維持シ若クハ災厄ヲ除ク等ノ消極的ノ目的ニ之ヲ限ラズ積極的ニ國家ノ利益ヲ進ムル場合ニ於テモ緊急勅令ヲ發布スルコトヲ認メタルモノアリト雖モ我憲法ノ解釋トシテハ其目的消極的ニ限ラレ縱令緊急勅令ヲ發スルカ爲メ再ヒ得ヘカラサル莫大ノ利益ヲ國家ニ收ムルコトアリト雖モ緊急勅令ヲ發スルコトヲ得ルモノニアラサルナリ

第四 公共ノ安全ヲ保持シ災厄ヲ除クカ爲メ緊急勅令ヲ發布スノ外他ノ方法存在セザリシコト

第三款 緊急勅令規定ノ範圍

緊急勅令規定ノ範圍ハ所謂立法事項ニシテ特別ノ制限ナキ限リハ法律ヲ以テ規定スヘキコトヲ規定セラレ又ハ法律ヲ以テ既ニ規定セラレタル事項ト雖モ緊急勅令ヲ以テ變更スルコトヲ得ヘキナリ歐洲ニ於テハ或ハ立法事項ノ中ニ付キ緊急勅令ヲ以テハ斯ノ如キ制限ナキニ依リ普通憲法ノ附屬法ト稱スル議院法、選舉法ト雖モ緊急勅令ヲ以テ之ヲ規定スルコトヲ得ルモノナリ或ハ緊急勅令ヲ以テ憲法ニ牴觸シタル規定ヲ設クルコトヲ得ストノ規定ナキ以上ハ緊急勅令ヲ以テ憲法ニ牴觸シタル事項ヲ定ムルコトヲ得ト説ク者アリト雖モ憲法中緊急勅令ヲ認メタル條項モ他ノ憲法ノ條項モ等シク憲法ノ規定ナル以上ハ對等ノモノニシテ其憲法ノ一條項ニ基ク緊急勅令ナルモノヲ以テ其根本法タル憲法ヲ侵スコトヲ得サルヤ言フ俟タス是レ性質上然ルモノニシテ明文ヲ俟テ後然ルモノニアラサルナリ

其他我國ニ於テ前キニ立法事項ノ制限ヲ述ヘタルト同一ノ原則ハ此場合ニ於テ

モ適用セラレ凡テ法律ヲ以テ定ムルコトヲ得サルモノハ又緊急勅令ヲ以テ規定スルコトヲ得サルナリ

緊急勅令ノ效力

第四款 緊急勅令ノ效力

我憲法第八條ニ於テハ緊急勅令ハ法律ト同一ノ效力ヲ有ストノ明文ナク又憲法第八條ノ末文ニ依リ緊急勅令ヲ廢止スルノ勅令ハ普通ノ勅令ヲ以テ公布セラルルニ依リ法律ト同一ノ效力ヲ有セスト唱フル者アリト雖モ前キニ法律ノ廢止ニ付キ述ヘタルカ如ク緊急勅令ハ法律ト同一ノ效力ヲ有シ之ヲ以テ既定ノ法律ヲ廢止變更スルコトヲ得ルモノナリ又緊急勅令ヲ以テ緊急勅令ヲ廢止スルコトモ固ヨリ爲シ得ルモノナリ乍併其效力タルヤ解除條件附ノ一時的ノモノニ止マルカ故ニ緊急勅令ヲ廢シタル緊急勅令カ效力ヲ失スルトキハ前ノ緊急勅令カ其效力ヲ回復スルハ前ニ述ヘタル法律カ其效力ヲ回復スルト同一ノ理由ニ出ツルモノナリ又緊急勅令ハ法律ト同一ノ效力ヲ有スルニ依リ之ヲ廢止スルニ緊急勅令ヲ以テセサルトキハ必スヤ法律ヲ以テセサルヘカラス緊急勅令ノ議會ノ承諾ヲ經ルノ前後ヲ問ハス普通ノ勅令ヲ以テ之ヲ廢止スルコトヲ得サルモノナリ

緊急勅令
發布ノ手
續

第五款 緊急勅令發布ノ手續

第一款 緊急勅令制定者

緊急勅令ハ議會ノ協賛ヲ得ヘキ事項即チ立法事項ヲ規定スルモノナルヲ以テ其制定者ハ性質上立法者タルヘキモノナリ故ニ議會カ立法上ノ權力ヲ有スル國ニ於テハ緊急勅令ノ發布ヲ認ムルコトナシ例ヘハ佛蘭西、白耳義等ノ如シ又英國ハ議會ト國王トヲ合シタルモノ即チ國會ヲ以テ立法權ヲ行フモノトスルカ故ニ議會ハ取モ直サス法律制定權ノ一部ヲ有スルモノナルヲ以テ此國ニ於テモ亦緊急勅令ヲ認ムルコトナシ蓋シ緊急勅令ハ議會ノ議決ヲ經ルコトナクシテ命令ヲ規定スルモノナルヲ以テ議會ヲ以テ立法權ノ重ナル要素ト爲ス國ニ於テハ性質上之ヲ認ムルコトヲ得サレハナリ我憲法第八條ハ明カニ天皇カ緊急勅令ヲ制定セラル、コトヲ規定シ以テ其制定者ノ何人ナルヤニ付キ疑ノ生スルコトヲ避ケタリ

第二款 副署

歐洲ノ憲法中或ハ總テノ國務大臣ノ副署ヲ以テ緊急勅令ヲ發スヘキコトヲ規

憲法 統治權ノ作用 大權事項 緊急勅令

定シタルモノアリト雖モ我國ニ於テハ緊急勅令ノ副署ニ關シ特別ノ規定ナキヲ以テ一般勅令ノ公布ノ方式ニ從ヒ發布スルコトヲ得ヘク必スシモ總國務大臣ノ副署ヲ要セス又縱令總國務大臣ノ副署ヲ要ストノ明文ナキモ緊急勅令ハ總國務大臣ノ責任ヲ以テ之ヲ發布スヘシト定メタル國ニ於テハ其責任ノ基ク所ハ副署ニアルヲ以テ總テ副署ヲ爲サ、ルヘカラスト論スルコトヲ得ヘキモ我憲法第八條ハ總國務大臣ノ責任ニ關スル規定モ之ヲ存セサルヲ以テ此說モ我國ニテハ適用スルヲ得サルナリ

第三 公布

緊急勅令モ亦官報ニ掲載スヘキコト一般公布ノ例ニ依ルヘキハ勿論ナリト雖モ實際ノ例トシテハ我國ノミナラス他國ニ於テモ皆之ヲ公布スル場合ニ其緊急勅令ノ基ク憲法ノ條項ヲ示スヲ常トス壞地利憲法ニ於テハ此憲法ノ條項ヲ示サ、ルトキハ其勅令ハ效力ヲ有セサルコトヲ規定スルヲ以テ同國ニ於テハ條項ノ明示ハ效力發生ノ要件ナルモ斯ル明文ヲ存セサル國ニ於テハ唯人民ノ便宜ノ爲メニ之ヲ記載スルニ止マリ之ヲ記載セサルモ其勅令ハ無効ト云フヘ

キニアラサルナリ又我國ニ於テハ樞密院官制ニ基キ緊急勅令ニ關シテハ樞密院ノ諮詢ヲ經ヘキモノナルヲ以テ其諮詢ヲ經タルコトヲ記載スルヲ常トス然レトモ是レ亦要件ニアラサルヲ以テ之ヲ記載セサルモ其效力ニ差異ナキコト憲法ノ條項ヲ指示セサルト同一ナリ

第六款 議會ノ承諾

第一 緊急勅令ノ提出

緊急勅令ヲ發布シタルトキハ次ノ會期ニ於テ之ヲ議會ニ提出スヘシトノ明文ヲ存セサルウルンベルヒ等ノ國ニ於テハ其提出スヘキヤ否ヤニ付キ疑アリト雖モ我國ニ於テハ斯ル疑ヲ生スルコトナシ唯緊急勅令ヲ以テ之ヲ廢止シタル場合ニ於テ其廢止セラレタル緊急勅令モ尙ホ之ヲ議會ニ提出スルコトヲ要スルヤ否ヤニ付キ議論アルノミ然レトモ後ニ述フルカ如ク憲法第八條ノ勅令ニ關スル議會ノ審査ハ將來ニ緊急勅令ノ效力ヲ有セシムヘキヤ否ヤヲ決スルモノナルヲ以テ既ニ廢止セラレタル緊急勅令ハ之ヲ提出スルノ必要ナキモノト論斷セサルヘカラスト而シテ其緊急勅令ヲ廢止シタル後ノ緊急勅令ハ議會ノ不

承諾ニ因リ其效力ヲ失ヒタルトキハ前ノ緊急勅令ハ其效力ヲ回復スルヲ以テ
此場合ニ於テハ一旦廢止セラレタル緊急勅令モ亦之ヲ提出セサルヘカラス然
レトモ憲法第七十條ノ緊急勅令ハ議會ニ提出前廢止セラル、モ之ニ對スル議
會審査ノ目的第八條ノ勅令ニ對スルト異ナルニ依リ必ス提出セサルヘカラザ
ルナリ

第二 次ノ會期ノ解釋

憲法第八條第二項ノ「次ノ會期」ナル文字ヲ狹義ニ解釋シ直接次ノ會期ノミニ止
マルモノトセハ其議會カ緊急勅令ニ對スル諾否ヲ決スルニ先チ閉會若クハ解
散トナリタルトキハ如何ナル結果ヲ生スヘキヤニ付キ疑ノ生スルコトヲ免カ
レス今其結果ニ付キ考フルニ結局將來ニ向テ效力ヲ有セシムルヤ否ヤノ二途
ニ出テス若シ將來ニ向テ其效力ヲ有セシムルモノト解スルトキハ緊急勅令發
布ノ濫用ヲ生スルノ虞ナシトセス之ニ反シテ其效力ヲ失ハシムルモノトセハ
憲法ノ規定ノ趣旨ニ背クノ嫌アリ故ニ次會期ナル文字ハ斯ノ如ク狹義ニ解セ
スシテ其直接スル次ノ會期ニ於テ諾否ヲ決定セサルトキハ其次ノ會期ニ提出

スヘク其會期ニ於テモ尙ホ決定セサルトキハ更ニ其次ノ會期ニ提出スルコト
ヲ得ルノ意味ヲ包含スルモノト解釋スルヲ正當トスヘシ我國ノ實例ニ於テモ
亦此解釋ヲ採用スルモノ、如シ

第三 提出ノ手續

緊急勅令ノ提出ニ付テハ或ハ法律案ノ提出ト異ナリ兩院ノ一ヲ擇ヒテ提出ス
ヘキモノニアラスシテ同時ニ兩院ニ提出スヘシト唱ヘ或ハ法律ノ協賛ト異ナ
リ兩院ニ之ヲ提出スルヲ要セス一院ニ提出スルノミヲ以テ足レリト論スル者
アリト雖モ我國ニ於テハ斯ノ如キ解釋ヲ許サス憲法第八條ニ於テ帝國議會ニ
提出スヘシトアルヲ以テ勿論兩院ニ之ヲ提出スヘク又之ヲ提出スルニ付テハ
他ノ法律案ト等シク議院法第五十三條ノ適用ヲ受クヘキモノナルヲ以テ必ス
孰レカノ一院ヲ擇ヒテ先ツ之ヲ提出スヘク同時ニ兩院ニ提出スルモノニアラ
ス

第四 提出ノ時期

奧地利ノ憲法ニ於テハ一週間内ニ之ヲ提出スヘキモノト規定シ又普漏西憲法

ハ直チニ次ノ議會ニ之ヲ提出スヘキモノトセルモ我憲法ニ於テハ斯ノ如キ明文ナキヲ以テ極端ニ論スレハ閉會ノ間際ニ至リ之ヲ提出スルモ違憲ニアラスト云フコトヲ得ヘシ

第五 議會ノ審査

議會ハ緊急勅令ノ如何ナル點ニ關シ審査スヘキヤニ付テハ二說アリ第一說ニ從ヘハ緊急勅令發布ノ當時ニ遡リ果シテ之ヲ發布スル必要アリシヤ否ヤヲ検査スヘク若シ其當時ニ於テ必要ナラザリシコトヲ認ムルトキハ不承諾ノ意思ヲ表示スヘク之ニ反シ其當時必要ナリシコトヲ認ムルトキハ之ニ承諾ヲ與フヘキモノナリト云フニアリ第二說ハ之ニ反シ緊急勅令ハ將來ニ向テ其效力ヲ有セシムルノ必要アルヤ否ヤヲ審査スヘキモノニシテ發布ノ當時ニ遡リ其要否ヲ稽ヘ以テ諾否ヲ決スヘキモノニアラスト主張セリ而シテボルンハック氏ハ此後說ノ重ナル論者ナルモ多數ノ學者ハ第一說ヲ贊成セリ蓋シ歐洲ノ憲法ニ於テハ我憲法第八條第二項若シ以下ノ明文ヲ缺クヲ以テ議論ノ生スルハ已ムヲ得サル所ナリト雖モ我憲法第八條第二項ニ於テハ若シ議會ニ於テ承諾セサ

ルトキハ政府ハ將來ニ向テ其效力ヲ失フコトヲ公布スヘシト規定シ承諾ト將來ヲ相關聯セシメ即チ將來ニ向テ效力ヲ失ハシムヘキヤ否ヤニ付キ承諾ノ有無ヲ定ムヘキモノナルコトヲ明カニセリ故ニ我憲法ノ解釋トシテハ第二說ヲ採ルヘキモノナルコト勿論ナリト是レ此承諾ナル文字ノ第六十四條ノ承諾ナル文字ト異ナル點ナリ然レトモ憲法第七十條ニハ斯ノ如キ規定ナキヲ以テ同條ノ緊急勅令ニ付テハ第一說ヲ採ラサルヲ得サルナリ

第六 承諾ノ效果

緊急勅令ハ承諾ニ依リテ法律ト爲ルヘキモノナリト唱フル者アルモ此說ヲ認ムルコト能ハサルハ言フ俟タス蓋シ承諾ハ協賛ニアラサレハナリ

第七 不承諾ノ效果

前述ノ如ク緊急勅令ハ議會ノ不承諾ヲ以テ解除條件トナスモノナルヲ以テ議會ノ不承諾ニ因リテ其效力ヲ失フモノナリ將來ニ向テ其廢止ヲ公布スルカ如キハ唯無効ニ歸シタルコトヲ發表スルニ過キサレノミ而シテ其不承諾ノ效果ハ將來ニ向テ效力ヲ發スルモノニシテ既往ニ遡ルモノニアラス是レ我憲法第

八條ノ明定スル所ナリ縱令斯ノ如キ明文ナキモ性質上當然ノコト、云ハサルヘカラス何トナレハ緊急勅令ハ不法ノ命令ニアラスシテ憲法ニ從ヒテ發シタル適法ノ命令ナレハナリ

緊急勅令
ノ承諾
違法ノ命
令發布ノ
責任解除

第七款 緊急勅令ノ承諾ト違法ノ命令發布ノ

責任解除

英國ニ於テハ前ニ述ヘタルカ如ク緊急勅令發布ノ權ヲ認メス若シ議會閉會中ニ緊急ノ事件發生シ命令ヲ發シテ臨機ノ處分ヲ爲スノ必要アルトキハ政府ノ責任ヲ以テ命令ヲ發布スルヲ常トシ而シテ次ノ議會ニ於テ違法行爲ニ對スル責任ノ解除ヲ求ムヘク議會ニ於テ其行爲ノ必要ナルコトヲ認ムルトキハ其責任ノ解除ヲ爲スヘキモノトナセリ此英國ニ於ケル責任解除ト我國ニ於ケル緊急勅令ノ承諾トハ同一視スヘキモノニアラス蓋シ責任解除ノ制度ハ違法行爲ヲ適法ナル行爲トナスモノナルモ緊急勅令ニ對スル承諾ハ初ヨリ適法ナル行爲ニ對スルモノナルヲ以テナリ

執行命令

第二節 執行命令

執行命令トハ法律ヲ執行スルカ爲メ其細目ヲ規定スルノ目的ヲ以テ發セラル、所ノ命令ナリ或ハ執行命令ナルモノハ法律ヲ完全ニ行ハシムルヲ目的トスルモノナルカ故ニ必要ナル場合ニハ其不備ナル點ヲ補充スルコトヲ得ト論スル者アリト雖モ是レ委任命令ヲ認メサル論者ノ唱フル說ニシテ法律ノ缺點ヲ補充スルハ執行命令ノ範圍ニアラサルナリ又獨逸ノ學者間ニ於テハ執行命令ヲ以テ臣民ノ權利義務ヲ増減伸縮スルコトヲ得ルヤ否ヤヲ以テ一ノ疑問トナシラバンド氏等ハ執行命令ハ其根本ノ法律ヲ執行スル爲メ必要ナル以上ハ臣民ノ權利義務ヲ定ムルコトヲ得ト說ケリケルハ氏等ハ之ト反對ニ執行命令ハ新ニ臣民ノ權利義務ヲ定ムルコトヲ得ルモノニアラス臣民ノ權利義務ハ凡テ法律ヲ以テ之ヲ定メ執行命令ハ其法律ニ依リテ定メラレタル臣民ノ權利義務ニ關シ規定ヲ設クルニ過キスト說キ白耳義國ニ於テシロン氏等モ後說ト同一ノ說ヲ唱ヘ執行命令ヲ以テ臣民ノ權利義務ヲ増減伸縮スルコトヲ得サルモノナリト主張シタリ乍併我國ニ於テハ之ニ付キテ論スルノ必要ナシ我國ニテハ執行命令ノ外ニ憲法第九條ニ於テ獨立命令ヲ認ムルニ依リ執行命令ヲ以テ臣民ノ權利義務ヲ増減伸縮スルコ

憲法 統治權ノ作用 大權事項 執行命令

トヲ得トスルモ又得ストナスモ實際上其效果ニ於テ差異ヲ生スルコトナク若シ第一説論者ノ如ク積極的ニ解釋スルトキハ固ヨリ其臣民ノ權利義務ヲ定メタルモノヲ執行命令ト認ムルニ於テ故障ナク又第二説ニ從ヒ執行命令ハ臣民ノ權利義務ヲ増減伸縮スルヲ得ストナスニ於テハ斯ノ如キ命令アリタルトキハ之ヲ獨立命令ト稱スレハ可ナレハナリ

第一款 執行命令ノ制定權

イェリネック氏曰ク執行命令ヲ發スルノ權ハ特別ノ法律ノ規定ニ基カス立憲政體ノ本則トシテ之ヲ發スルノ權ハ當然政府ニ屬スルモノナリ何トナレハ政府ノ重要ナル事務ノ一ハ法律ヲ執行スルニアレハナリト其他バトビー氏等モ執行命令ヲ制定スルノ權ハ行政權ノ固有スル所ニシテ君主ノ委任及ヒ法律ノ委任ヲ受ケサルモ政府ノ手中ニ固有ニ存在スルモノナリト唱へ而シテ多數ノ意見ハ皆之ト大同小異ニシテ法律ヲ執行スル命令ヲ發スルノ權ハ憲法若クハ法律ニ依リ規定セラレサルモ君主若クハ政府ニ於テ之ヲ有スルモノナルコトヲ認メタリ乍併我國ニ於テハ憲法第六條ニ於テ天皇ハ法律ノ執行ヲ命ス又第九條ニ於テ法律ヲ執

執行命令ノ制定權

行スル爲メ命令ヲ發シ又ハ發セシムトノ規定ヲ設ケ執行命令權ノ何人ノ手ニ存在スルヤハ憲法ノ規定ヲ以テ之ヲ明カニシタリ是レ委任命令ト異ナル所ニシテ委任命令ヲ制定スルノ權ハ法律ノ規定ニ基クモノナリ

第二款 執行命令規定ノ範圍

執行命令ハ法律ヲ執行スルモノナルカ故ニ其法律ノ規定スル範圍外ニ亘リ又ハ法律ノ根本ノ規定ニ牴觸スルコトヲ得サルナリ或ハ執行命令ニシテ現法律ノ範圍外ニ亘ルコトアルモ憲法上違反ノ責任ヲ生セス獨リ行政法上ノ責任ヲ生スルノミト説ク者アルモ現法律ノ規定ノ範圍外ニ亘ルトキハ執行命令ノ性質ニ反キ我國ニテハ憲法第九條ノ違反トナルモノナリ又單ニ法律ヲ執行スル爲メノ命令ナルカ故ニ法律ノ侵スコト能ハサル範圍例ヘハ憲法ノ規定ノ如キハ執行命令ヲ以テ動スコトヲ得サルヤ勿論ナリ

第三款 執行命令ノ效力

執行命令ハ法律ヲ執行スル爲メニ發セラレ、モノナルカ故ニ執行スヘキ現法律廢止セラレ、トキハ執行命令モ當然其效力ヲ失フ即チ執行命令ハ法律上ノ規定

執行命令ノ效力

執行命令規定ノ範圍

ト共ニ存在スルモノニシテ獨立ノ存在ヲ保ツモノニアラス是レ獨立命令ト異ナル點ナリ蓋シ命令ヲ發スルノ權ト命令ノ效力トハ之ヲ區別スヘキモノニシテ執行命令ヲ發スル權ハ憲法ヨリ來ルモ其效力ハ現法律ト存亡ヲ共ニス委任命令ハ之ニ反シ之ヲ發スルノ權法律ノ委任ニ屬シタルモ其效力ハ之ヲ委任スル法律ノ廢止ノ影響ヲ受ケス委任スル法律消滅スルモ委任命令ハ其效力ヲ失フモノニアラス此點ニ於テ兩者ノ區別ヲ明カニスレハナリ

終リニ注意スヘキハ前述シタルカ如ク執行命令ヲ發シ若クハ其委任ヲ受ケテ他ノ機關カ發スルコトヲ得ルノ權ハ法律ニ基クニアラスト雖モ時トシテ法律ヲ以テ執行命令ヲ定ムルコトヲ規定スルコトナキニアラス乍併此場合ト雖モ法律ニ依リテ執行命令制定權生スルモノト解スヘキモノニアラス唯其規定存スルカ爲メニ命令ヲ定ムルト否トノ自由ヲ有セス必ス之ヲ定メサルヘカラサルノ結果ヲ生スルノミ

委任命令

第三節 委任命令

委任命令トハ憲法上法律ヲ以テ規定スヘキ事項ヲ命令ヲ以テ規定シタルモノヲ

稱ス委任命令ニ關シテハ明文ヲ以テ憲法ニ之ヲ規定シタルモノ殆トナキカ故ニ委任命令ヲ發スルヲ得ルヤ否ヤハ國法上大疑問ニ屬スルモノナリ委任命令ヲ發スルコトヲ得スト論スル者ノ一說ニ曰ク憲法カ既ニ法律ヲ以テ定ムヘシト規定シタルニ拘ハラズ命令ヲ以テ之ヲ定メシムル法律ハ違憲ト云フヘシ唯歐洲諸國ニ於テ委任命令ヲ違憲ト稱セサルハ此等ノ國ノ憲法ハ執行命令以外ニ他ノ命令ヲ認メス而シテ實際執行命令以外ノ命令ヲ有セサルトキハ行政ノ活動ヲ妨クルニ依リ實地ノ必要ニ應スルカ爲メ強テ理由ヲ之ニ附シ以テ之ヲ認ムルモノナリト乍併憲法ハ法律ノ規定ヲ要スト定ムル場合ニ於テ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ定ムヘキカヲ規定シタルモノナシ法律ノ規定ノ方法ニ關シ特別ノ制限ナキ以上ハ如何ナル方法ヲ以テ之ヲ規定スルモ全ク法律ノ自由ナリト云フヘシ即チ法律ハ自ラ之ヲ規定スルモ或ハ命令ニ委任シテ之ヲ規定セシムルモ隨意ナリト稱スヘキナリ或ハ又之ニ對シテリヨンネ氏ノ如ク若シ委任命令ヲ許ストキハ立法機關ハ凡テ其權限ヲ他ノ機關ニ委任スルコトヲ得法律案議定ノ任務ヲ負フ議會ナルモノモ之ヲ存在セシムルノ必要ナキニ至ルヘシト唱フルモノアリト雖モ斯ノ如

キハ此問題以外ノ事項ナリ委任命令ヲ許スヘキヤ否ヤノ問題ハ法律ヲ制定スルコトニ關係スル機關カ其職務ヲ全ク放擲スヘキヲ許スヘキヤ否ヤニアラスシテ其職務ノ範圍内ニ於テ既定ノ方法ニ依リ制限ヲ受クルヤ否ヤニ關ス委任命令ヲ認ムル論者ト雖モ機關ノ其職務ヲ曠フスルヲ認メサルモノニシテ唯法律ヲ以テ規定スヘキ事項中或モノニ關シ命令ヲシテ之ヲ規定セシムルコトヲ得ルモノナリト唱フルニ過キサレナリ或ハ又アルント氏ノ如ク憲法中法律ヲ以テ定ムト規定シタルハ(例ハ憲法第十四條、第五十七條、第五十八條、第六十條參照ノ如シ)委任ヲ許サ、ルノ趣旨ニシテ憲法中法律ノ定ムル所ニ依ルト規定シタル場合ニ於テハ(例ハ憲法第七條、第二十一條、第二十二條、第二十三條、第二十四條、第二十五條ノ如シ)委任ヲ許スノ精神ナリト區別シテ説ク者アリト雖モ是レ文字ニ拘泥スルノ甚タシキモノト云フヘシ

委任命令
發布ノ目
的

第一款 委任命令發布ノ目的

法律ハ議會ノ協賛ヲ經テ定ムルモノナルニ依リ實際ノ狀況ニ應シ若クハ時勢ニ應シテ屢之ヲ變更スルコトヲ得サルモノナリ然ルニ社會ノ狀態ハ一日モ靜止スルモノニアラス時々刻々生活ノ實況ノ變動スルハ免カレサルニ依リ抽象的ノ法

委任命令
規定ノ範
圍

律ノ原則ノミヲ以テ之ヲ支配スルコトヲ得サルハ明カナリ是レ委任命令ヲ認ムルノ必要アル所以ナリ即チ命令ハ議會ノ協賛ヲ經サルモノナルカ故ニ實際ノ狀況ニ應シ之ヲ變更スルノ容易ナルハ法律ニ於ケルト比較スヘキニアラサレハナリ若シ委任命令ナルモノヲ凡テ許サ、ルモノトナストキハ國務上必要ナル行政ノ敏活及ヒ確實ハ到底望ムコトヲ得サルヘシ故ニ歐洲ニ於テハ實際ノ例及ヒ學者多數ノ説カ委任命令ノ發布ヲ認ムルノミナラス我國ニ於テモ憲法發布後其實例ヲ見ルコト少ナキニアラス例ハ明治二十三年法律第八十四號河川法第五十八條(明治二十九年法律砂防法第四十一條ノ如キ是ナリ)

第二款 委任命令規定ノ範圍

委任命令ノ規定ノ範圍ハ法律ノ委任ニ因リ定マルモノニシテ其實質ハ立法事項ニ屬スルモノナリ若シ立法事項以外ノモノナルトキハ法律ノ委任ヲ要セサルカ故ニ之ニ關シ委任命令發生スルコトナシ法律カ其立法事項ノ規定ヲ命令ニ委任スルニ當リテハ一定ノ限界ナク特別ノ明文ヲ以テ制限セサル以上ハ凡テ命令ニ委任シテ之ヲ定メシムルコトヲ得ルナリ例ハ憲法ニ法律ニ依ルニアラサレハ

憲法 統治權ノ作用 大權事項 委任命令

或ハ法律ニ依ルニアラスシテ或ハ法律ニ依リト書シタル場合ト雖モ之ヲ命令ニ委任スルコトヲ得ルモノナリ憲法第二十三條ニ法律ニ依ルニアラスシテ逮捕監禁、審問、處罰ヲ受クルコトナシト規定シ第五十七條ニ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フト定メラル、ニ依リ委任命令ヲ以テ裁判所カ裁判ヲ爲シ若クハ委任命令ニ依リ逮捕、監禁、審問、處罰ヲ爲スハ違憲ナリトノ說ナキニアラサルモ余ハ之ヲ採ラサルナリ或ハ此規定ノ範圍ニ關シ法律ヲ以テ許ス以上ハ委任命令ヲ以テ憲法ヲ改正スルコトヲ得ト唱フル者アリト雖モ法律ヲ以テ既ニ憲法ニ抵觸シタル規定ヲ設クルコトヲ得サルモノナルカ故ニ此說ヲ採ルコトヲ得ス

委任ノ方法

第三款 委任ノ方法

委任ノ方法ニ付テハ我國ニ於テハ何等ノ明文ナキヲ以テ如何ナル方法ニ依ルモ全ク法律ノ隨意ニ屬ス故ニ或ハ命令ノ發布ヲノミ委任シテ其廢止ヲ委任セサルコトアリ或ハ法律ノ廢止ノミヲ命令ニ委任スルコトアリ或ハ又法律ニ規定シタル事項ノ罰則ノミヲ命令ニ委任スルコトアリ又罰則ニ付テハ法律自ラ之ヲ定メ其罰則ニ付セラルヘキ事項ヲ規定スルコトヲ命令ニ委任スルコトアルナリ

委任命令ノ效力

第四款 委任命令ノ效力

執行命令ハ前ニ述ヘタルカ如ク執行スヘキ根本ノ法律ノ消滅スルト共ニ消滅スルモノナルモ委任命令ハ其委任シタル法律ノ消滅ト同時ニ當然其效力ヲ失フモノニアラス蓋シ法律ハ其命令ヲ發布スルノ權限ヲ委任スルニ止マリ其委任ノ法律ト之ニ結果スル所ノ委任命令トハ效力上何等ノ關係アラサレハナリ或ハ之ニ反對シテ委任命令ノ效力ハ其委任シタル法律ニ根源ヲ有スルモノナルヲ以テ委任法律ノ消滅ハ特別ノ規定ナキ限リハ委任命令ノ消滅ヲ來スヘキナリト唱フル者ナキニアラス然レトモ官廳ノ權限カ變更セラル、モ其官廳ノ權限ヲ有スル間ニ發布セラレタル命令カ當然其效力ヲ失ハサルト同シク此場合ニ於テモ委任シタル法律ノ消滅ハ委任命令ノ無効ヲ來スモノニアラサルナリ

第四節 獨立命令

獨立命令

獨立命令トハ法律ノ委任ニ基カス又法律ヲ執行スルノ目的ヲ有セス法律トハ全ク獨立シテ發セラル、所ノ命令ナリ而シテ此命令ヲ發スルノ目的ハ專ラ行政ノ活動ニアルヲ以テ或ハ之ヲ行政命令トモ云ヒ又此命令ハ法律ノ規定以外ノ事項

憲法 統治權ノ作用 大權事項 獨立命令

ヲ規定スルモノナルヲ以テ其結果ヨリ觀レハ法律ヲ補充スルモノト云フコトヲ得ヘキヲ以テ或ハ之ヲ補充命令トモ稱スルナリ我憲法第九條後段ニ規定スル命令ハ即チ是ナリ

憲法第九條ニ依レハ天皇ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及ヒ臣民ノ幸福ヲ増進スル爲メニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム云々トアルヲ以テ天皇ハ親ラ勅令ヲ以テ此獨立命令ヲ發スルコトヲ得ルノミナラス亦其機關ヲシテ之ヲ發セシムルコトヲ得ルナリ而シテ憲法カ特ニ獨立命令ナルモノヲ認メタルノ理由ハ蓋シ法律ハ議會ノ協賛ヲ經テ之ヲ定ムヘキモノナルヲ以テ實際上行政ノ活動ニ適應スルコト能ハサルノ憾ミアルカ故ナリ

我憲法第九條ノ如キ明文ナキ國ニ於テハ君主ニ於テ斯ノ如キ命令ヲ發スルノ權ヲ有スルヤ否ヤニ付キ一ノ疑問ヲ生スルナリ臣民ノ權利義務ヲ定ムル法規ハ必ス法律ニ依ラサルヘカラストスルノ論者ハ固ヨリ君主ニ獨立命令ノ發布ノ權ヲ認ムルコトナシ之ニ反シテ行政ノ實際上警察命令ニ至ルマテ悉ク法律ヲ以テ之ヲ規定スルノ不能ナルコトヲ認ムル論者ハ明文ナキモ君主ハ此權ヲ有スルモノ

三〇

三〇

ト主張シテ曰ク獨立命令ヲ發布スルノ權ハ憲法發布以前ヨリ君主ニ於テ之ヲ有スルモノナルヲ以テ苟モ憲法ノ明文ヲ以テ之ニ反スルノ規定ヲ設ケサル限りハ憲法發布後ニ於テモ此權ハ繼續シテ存在スルモノナリト云フニアリ實例ニ於テモ白耳義、奧地利及ヒ普漏西等ハ明文ナキニ拘ハラヌ少ナクモ警察事項ニ關シテハ君主ニ獨立命令發布ノ權アルコトヲ認ムルナリ然レトモ我國ニテハ憲法第九條ノ明文存スルニ依リ斯ノ如キ疑問ヲ講究スルノ必要存セサルナリ

第一款 獨立命令規定ノ範圍

我憲法第九條ニ於テハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及ヒ臣民ノ幸福ヲ増進スルカ爲メニ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得ト定メタルヲ以テ我憲法上所謂獨立命令ノ範圍ハ雷ニ消極的ノミナラス積極的ニ公益ニ關スル事項ニ付テモ亦之ヲ發スルコトヲ認メタルコト明カナリ或ハ本條ノ規定ヲ狹義ニ解釋シ公共ノ安寧秩序ヲ保持ストハ保安警察ノ目的ニシテ臣民ノ幸福ヲ増進ストハ行政警察ノ目的ニ外ナラス故ニ獨立命令ノ規定ノ範圍ハ警察事項ニ限ルモノナリト唱フル者アリト雖モ警察ナル觀念ニハ強制手段ヲ以テ人民ノ自由ヲ制限スルコトヲ要素トナス

獨立命令
規定ノ範圍

モノナルヲ以テ本條ノ範圍ト同一ナラサルヤ勿論ニシテ本條ニ所謂臣民ノ幸福ヲ増進ストハ強制手段ヲ以テ人民ノ自由ヲ制限スルコトアル場合ノミナラス廣ク教育、農工商其他一般ノ公益事業ニ關係スル總テノ場合ニ關スルモノナリ（憲法義解）
○一頁參照

獨立命令ノ規定ノ制限

第二款 獨立命令ノ規定ノ制限

獨立命令ハ憲法及ヒ憲法カ法律ヲ以テ定ムヘシト規定シタル範圍ヲ侵スコトヲ得サルノミナラス縱令憲法第九條ノ事項ト雖モ一旦法律ヲ以テ之ヲ規定シタル以上ハ獨立命令ヲ以テ之ヲ規定スルコトヲ得ス是レ同條末文ノ規定ニ基ク當然ノ論結ナリ又獨立命令ヲ以テ執行命令及ヒ委任命令ヲ廢止變更スルコトハ自由ナルモ其根本ノ法律ニ牴觸スルノ結果ヲ來ス場合ニ於テハ之ヲ廢止變更スルコトヲ得サルモノナリ

條約

第五節 條約

條約ノ締結者

第一款 條約ノ締結者

國家間ニ於ケル條約ノ關係ハ國際法ノ範圍ニ屬スルモ何人カ之ヲ締結スルノ權

ヲ有シ又國內ニ於テ條約カ如何ナル效力ヲ有スルカヲ論スルハ國法ノ範圍ニ屬スル問題ナリ而シテ條約ノ締結權ハ憲法第十三條ニ依リ我國ニ於テハ全ク天皇ニ專屬シ其締結ニ付テハ何等ノ機關ノ參與ヲ要スルコトナク又條約締結ノ成立要件トシテ何等ノ行爲ヲ要セサルナリ但此點ニ關シテハ各國ノ立法例區々ニ出ツルヲ以テ左ニ其重ナル二三ヲ摘示スヘシ

第一 獨逸ニ於テハ條約ノ成立要件トシテ聯邦議會ノ同意ヲ要シ若シ其同意ヲ得スシテ條約ヲ締結スルモ其締結ハ無効ナルモノトセリ

第二 北米合衆國ニ於テハ國家ノ負擔ヲ増スヘキ條約ニ付テハ元老院議員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ要スルモノトシ若シ此同意ナクシテ大統領カ條約ヲ締結スルモ其條約ハ何等ノ效力ヲ有セサルモノトセリ

第三 ウェルテンベルヒ、西班牙、葡萄牙、瑞西及ヒ佛蘭西等ニ於テモ條約ノ成立條件トシテ議會ノ同意ヲ要スルモノトセリ

右ノ如ク議會ノ同意ヲ以テ條約ノ成立要件トナスモ其同意ハ條約ノ締結前ニ之ヲ與フヘキカ又ハ締結後ニ與フヘキカニ付テハ和蘭ノ外明文ヲ以テ之ヲ規定シ

タルモノナシ和蘭ニ於テハ條約ヲ批准スル前ニ議會ノ同意ヲ要スト定メタルヲ以テ何等問題ヲ生スルコトナキモ他ノ明文ナキ國ニ於テハ條約締結以後ニ於テ同意ヲ得ヘキモノトスルヲ通例トナスヲ以テ若シ議會カ承諾セサル場合ニ於テハ困難ナル問題ヲ生スルコトアルヲ免カレス此場合ニ關シテ二個ノ學說アリ即チ條約ノ成立要件ヲ議會ノ同意ニ繫ラシメタル國ニ於テ若シ同意ナキトキハ其條約ハ條件ノ成就セサルモノトシテ無効ニ歸スヘク而シテ條約ノ締結ヨリ議會ノ不同意アルマテノ間ハ其條約ハ停止條件附ノ條約トシテ存在スルモノナリト唱フル說ト條約ハ締結セラレタル時ヨリ議會ノ議ニ付スルニ至ルマテハ其條約ハ相對的ノ效力ヲ有スルニ過キササルモノナリトノ說即チ是ナリ然レトモ斯ル問題ハ我憲法ノ解釋トシテハ深ク攻究スルノ必要ナキヲ以テ茲ニ之カ說明ヲ略スヘシ

條約ノ國內ニ於ケル效力

第二款 條約ノ國內ニ於ケル效力

條約ノ國內ニ於ケル效力トハ官廳及ヒ臣民ニ對スル效力ニシテ外國ニ對スル效力トハ別個ノ問題ニ屬スルモノナリ我憲法第十三條ハ條約ノ效力ニ關シ特別ノ

明文ヲ設ケサルニ依リ條約ノ國內ニ於ケル效力ニ付テモ何等ノ機關ノ參與ヲ要スルコトナシ故ニ縱令條約中ニ立法事項ヲ包含スルモ條約ノ國內ニ於ケル效力發生ノ要件トシテ帝國議會ノ同意ヲ得ルコトヲ必要トセサルモノト信ス或ハ憲法第六十二條第三項ニ國債ヲ起シ及ヒ豫算ヲ以テ定メタルモノヲ除クノ外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘシトアルヲ以テ國庫ノ負擔トナルヘキ事項ヲ包含スルノ條約ヲ締結スルトキハ議會ノ協賛ヲ經サルヘカラスト唱フル者アルモ契約ト條約トハ之ヲ同一視スヘキモノニアラス我國ニ於テハ契約ナル文字ハ私人間ニ締結スル民法上ノ行爲ニ之ヲ用キ條約トハ國ト國トノ間ノ國際法上ノ行爲ニ屬スルモノトナスヲ以テ契約ナル文字ノ中ニ條約ヲ含蓄セシメタルモノトハ之ヲ認ムルコトヲ得ス是ヲ以テ國庫ノ負擔トナルヘキ事項ヲ包含スル條約ヲ締結スル場合ト雖モ議會ノ協賛ヲ要セサルモノト解セサルヘカラス

我國ニ於テハ右ニ述ヘタルカ如ク條約ノ效力發生ノ要件トシテハ何等ノ行爲ヲ要セスト雖モ獨逸普漏西白耳義奧地利及ヒ伊太利等ニ於テハ或特別ノ條約ニ限

憲法 統治權ノ作用 大權事項 條約

リ其效力發生ノ要件トシテ議會ノ同意ヲ要スルモノト定メタリ今此等ノ國ニ於テ條約ハ締結ノ時ニ於テ既ニ成立シ外國ニ向テ其效力ヲ發生シタルニ拘ハラズ議會ノ同意ヲ得サルカ爲メ國內ニ對シテ效力ヲ發生セサルトキハ其條約ハ如何ナル結果ヲ生スヘキヤト云フニ實例學說共ニ區々ニ出テ未タ一定スル所ナシ而シテ其學說ヲ大別スルトキハ之ヲ二種ニ分ツコトヲ得一ハ國外ニ對スル效力モ國內ニ對スル效力モ之ヲ分離シテ考フルコトヲ得スシテ當然一致スヘキモノナリトナスモノニシテ他ハ國外ニ對スル效力ト國內ニ對スル效力トハ別物ナリ前者ハ國際法上ノモノニシテ後者ハ國法上ノモノナルヲ以テ之ヲ區別シテ論スヘキモノナリトナスモノ是ナリ

此二說中第一說ニ從ヘハ議會ニ於テ條約ニ協賛ヲ與ヘサルトキ外國ニ對シテモ其條約ハ無効ニ歸スルコト、ナリ又第二說ニ從フトキハ外國ニ對シテハ條約ノ成立スルニ拘ハラズ國內ニ於テハ其條約ハ無効トナリ國際法上ノ責任問題ヲ生スルコト、ナルナリ然レトモ此第一說ハ理論上當ヲ得タルモノニアラス何トナレハ條約ノ國外ニ對スル效力ト國內ニ對スル效力トハ之ヲ同一視スヘキモノニ

アラス若シ之ヲ同一視スルトキハ獨逸帝國ノ憲法ノ如キ條約締結ノ爲メニ聯邦議會ノ同意ヲ要シ條約ノ有效トナル爲メニハ帝國議會ノ同意ヲ要スト書キ分ケタル法文ノ趣意ヲ解スルコトヲ得サルコト、ナレハナリ又第二說モ之ヲ實行ノ點ヨリ考フルトキハ當ヲ得タルモノニアラス外國ニ對シテ條約成立スルモ國內ニ對シテ效力ヲ發生セサルモノトナストキハ其實條約ハ何等ノ用ヲ爲サ、ルモノニシテ斯ノ如キコト屢生スルトキハ信ヲ外國ニ失ヒ遂ニ條約ヲ他國トノ間ニ結フコトヲ得サルノ結果ニ陥ルモノナレハナリ故ニ條約ノ有效トナル爲メニ議會ノ協賛ヲ要ストナセル國ニテハ他國ト條約ヲ結フニ當リ議會ノ承諾ヲ停止條件トシテ條件附條約ヲ結フノ外ナシト云ハサルヘカラサルナリ

第三款 條約ノ執行

條約ハ官廳及ヒ臣民ニ對シ拘束力ヲ發生セシムル爲メニハ即チ條約ヲ實際ニ適用スル爲メニハ條約ヲ執行スル爲メノ法律及ヒ命令ヲ制定セサルヘカラサルモノナリヤ或ハ條約ヲ條約トシテ官報ニ公布スル以上ハ直チニ官廳及ヒ臣民ニ對シ拘束力ヲ生スルモノナリヤ否ヤノ疑問アリ之ニ付キ他國ノ例ヲ見ルニ獨逸、普

漏西、埃地利ノ如キ皆條約ヲ條約トシテ公布スレハ臣民ニ對シテ拘束力ヲ發生シ之ヲ執行スル爲メニ特ニ執行法律或ハ執行命令ヲ制定スルノ必要ナシトセリ蓋シ其根據ハ人民ヲ羈束スルモノハ法律、命令ノ形式ニ依リタルニ限ラサルニ依リ法律命令トシテ公布スルモ條約トシテ公布スルモ統治者カ其遵奉ヲ命令シ官報ニ之ヲ掲載シタル以上ハ人民ニ對シテ拘束力發生スルモノナリト云フニアリ而シテ我國ニ於テモ皇室典範、皇族婚嫁令ノ如キ法令以外ノ形式ヲ以テ人民ヲ拘束スルコトアルヲ認ムルノミナラス民法第二條ニモ外國人ハ法令又ハ條約ニ禁止セラル、場合ヲ除ク外私權ヲ享有スト規定シ尙ホ明治三十二年法律第七十號ニモ領事官ノ職權ニ關シ條約ノ效力ヲ認メタルヲ以テ我國ニテハ條約ノ實質ニ從ヒ執行法律若クハ執行命令ヲ發布セサルモ條約ヲ條約トシテ公布スル以上ハ之ニ依リテ官廳及ヒ臣民ヲ拘束スルコトヲ得ルノ制度ノ精神ナルコトヲ推察スルコトヲ得又條約ニ關スル實例ニ於テモ亦此主義ヲ認メタルモノ、如シ尤モ英國北米合衆國ノ如キ執行法律ヲ出スヘキ必要アリトナスノ國又ハ出スコトヲ得トナセル國ナキニアラス而シテ此等ノ國ニ於テハ若シ議會カ其執行法律ヲ否決シ

タルトキハ如何ナル結果ヲ生スヘキヤハ一ノ難問ニ屬スルモノナリ或ハ此場合ニ國家カ外國ト條約ヲ締結シタル以上ハ國家ハ之カ爲メニ羈束サレ從テ國家ノ機關モ之カ爲メニ拘束セラル、ニ依リ議會ハ執行法律ノ議案ニ對シ之ニ協賛スルノ義務ヲ有シ何時ニテモ自由ニ其協賛ヲ拒ムコトヲ得ヘキモノニアラスト唱フル者アリト雖モ特別ノ明文ナキ以上ハ斯ノ如ク解釋スルコトヲ許サス何トナレハ議會ノ協賛權ヲ無効ニ歸セシムルモノナレハナリ或ハグナイスト氏ノ如ク若シ執行法令ニシテ否決セラル、トキハ唯條約違反ノ結果ヲ受クヘキモノニシテ執行法律成立セサルモ外國ニ對スル條約ハ依然其成立ヲ保ツモノナリト說ク者アリト雖モ此說ハ前項ニ述ヘシ第二說ト同一ノ批難ヲ受クルヲ免カレサルナリ或ハ又條約ナルモノハ法律上強制スルコトヲ得ルモノニアラス條約ノ強制スルコトヲ得ルハ執行法律ノ制定セラレタル以後ニアリ執行法律制定セラレサレハ條約ハ法律上ノ生存ヲ保ツモノニアラス故ニ執行法律ニシテ議會ニ於テ協賛セラレサリシトキハ條約ハ全ク外國ニ對シテモ成立セサルモノナリト說ク者アリト雖モ此說ハ條約ノ國際法及ヒ國法上異ナリタル二面ノ性質ヲ有スルモノナ

ルコトヲ忘レタルモノナリ
 之ヲ要スルニ執行法律ヲ必要トナス國ニ於テハ條約ヲ締結スル際ニ締結者ハ執
 行法律ノ成立ヲ停止條件トナスコトヲ明カニ定ムヘキモノナリ
 我國ニ於テハ理論上及ヒ實例上條約ノ執行法律ヲ要セサルコト既ニ述ヘタル如
 クナルニ拘ハラヌ明治二十七年五月ノ衆議院ノ決議及ヒ或學者ノ說ハ執行法律
 ノ發布ヲ必要ナルモノト認メタリ蓋シ其理由ハ憲法中法律ヲ以テ定ムヘシト規
 定シタル法文ハ憲法第十三條ノ規定ニ依リテ妨ケラル、モノニアラスト云フニ
 アリ然レトモ此說ヲ認ムルトキハ憲法第十條ノ但書中ノ「法律」ナル文字及ヒ憲法
 第十四條ノ「戒嚴」ノ要件及ヒ效力ハ法律ヲ以テ定ムヘシトノ規定ハ共ニ贅文ニ屬
 スルコト、ナルナリ故ニ第十三條ノ法文ニ但書ヲ以テ執行法律ヲ必要トスルノ
 趣意ヲ規定セサルハ却テ條約ニ對スル執行法律ノ不必要ナルコトヲ證スルモノ
 ト云フヘシ

官制ノ制
定權

第六節 官制ノ制定權

憲法第十條ニ依リ官制ノ制定權ハ天皇ニ屬スルコト明カナリ然レトモ之ニ付キ

一ノ疑問トナルハ勅令以外ニ法律ヲ以テ官制ヲ制定スルコトヲ得ルヤ否ヤニア
 リ固ヨリ憲法ノ規定ニ於テ法律ヲ以テ官制ヲ制定スルコトヲ規定シタルモノ例
 ヘハ會計検査院官制ノ如キモノニ付テハ何等ノ疑義存セスト雖モ憲法ノ規定ナ
 キ場合ニハ法律ヲ以テ自由ニ官制ヲ制定スルコトヲ得ルヤ否ヤニ付キテ疑ノ存
 スル所ナリ或ハ憲法第十條ハ天皇ノ大權ニ屬スルコトヲ示シ而シテ大權作用ハ
 天皇親ヲ行ハサルヘカラサルモノナルニ依リ憲法中特ニ法律ヲ以テ定ムヘシト
 ナシタル場合ノ外法律ヲ以テ官制ヲ定ムルコトヲ得スト唱フル者アレトモ此說
 ニ依ルトキハ憲法第十條但書中ノ「他」ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各其條項ニ
 依ル「ト」ノ規定ハ空文ニ歸スヘキナリ或ハ又官制ハ勅令ヲ以テ定ムルヲ本則トス
 ルモ唯憲法ニ法律ヲ以テ定ムヘシトナシタルモノ及ヒ憲法制定ノ當時既ニ法律
 ヲ以テ規定シタルモノ、ミハ例外ニ屬スルモノナリト説ク者アリト雖モ「掲ケタ
 ル」トノ過去ノ動詞ヲ以テ規定セラレタルニ根據シ憲法發布前後ヲ區別シ憲法發
 布後ハ法律ヲ以テ官制ヲ定ムルコトヲ得スト論スルハ字句ニ拘泥スルノ甚タシ
 キモノト云フヘシ斯ノ如ク此等ノ說ハ共ニ採用スルコトヲ得サルニ依リ憲法第

憲法 統治權ノ作用 大權事項 官制ノ制定權 戒嚴ノ宣告

十條ノ但書ハ法律ヲ以テ官制ヲ定ムルコトヲ許スノ主旨ト解釋スヘキナリ然レトモ既ニ勅令ヲ以テ官制ヲ定メタル場合ハ第九條ニ於ケルト異ナリ此第十條ノ勅令ハ憲法第九條ノ勅令ノ如ク法律ヲ以テ妄リニ變更スルコトヲ得サルモノナルニ依リ法律ノ官制制定權ハ通常勅令ヲ以テ定メラレタル範圍外ニ限ラレタルモノト云フヘシ

戒嚴ノ宣告

第七節 戒嚴ノ宣告

戒嚴トハ非常ノ時ニ際シ司法行政ノ事務ヲ軍事上ノ處分ニ委スルノ結果ヲ生スルモノニシテ其戒嚴宣告ノ效果ヲ詳知セントスルトキハ臨戰地境ト合國地境トニ分チテ論スヘキナリ臨戰地境ニテハ地方行政事務及ヒ司法事務中軍事ニ關係スル事件ノミ管轄司令官ニ移リ合圍地境ニ於テハ地方行政事務及ヒ司法事務ハ凡テ司令官ノ手ニ移リ其結果憲法第二章ニ保障セラレタル人民ノ權利モ特ニ制限セラル、コト、ナルナリ

戒嚴ノ宣告ハ憲法第十四條ニ依リ天皇之ヲ宣告スルモノニテ時トシテ司令官ヲシテ宣告セシムルコトアリト雖モ此場合ハ宣告權ヲ委任スルモノニアラス唯君

恩赦

主カ司令官ヲシテ自己ノ命令ニ依リ宣告セシムルニ止マリ其實天皇ノ宣告タルモノナリ

第八節 恩赦

恩赦ハ審問處罰ニ關スル法律適用ノ免除トナルモノナルニ依リ固ヨリ明文以外ニ之ヲ推及セシムルコトヲ得ス故ニ租税ノ特免ノ如キハ法律ノ發布ヲ要シ天皇ノ大權ヲ以テ爲スコトヲ得サルモノナリ又憲法上此恩赦ハ天皇ノ大權事項ニ屬セシメラレタルモノナルニ依リ天皇ハ此恩赦權ヲ他ニ委任シ或ハ法律又ハ裁判所ノ職權ニ屬セシムルコトヲ得サルナリ

恩赦權ヲ設クルノ趣旨ハ實際ノ狀況ニ應シ法律ノ適用ヲ寛クスルモノナルカ故ニ犯罪人ノ利益ノ爲メニ存スルモノニアラス從テ犯罪人ニ於テ恩赦ヲ受ケタルトキ之ヲ拒ムコトヲ得サルナリ

榮典ノ授與

第九節 榮典ノ授與

外國ノ勳章ノ佩用ヲ許可スルハ之ヲ榮典ノ一種ト認ムヘキモノナルニ依リ天皇ハ其佩用ヲ許可スルノ權ヲ他人ニ委任スルコトヲ得サルナリ又勳章爵位ニハ年

金若クハ賜金ノ伴フコトアルモ之ヲ授與スルコトハ契約ニアラサルニ依リ憲法第六十二條第三項ノ適用ヲ受ケテ議會ノ協賛ヲ受クヘキモノニアラサルナリ又榮典ノ授與ヲ以テ君主ノ榮譽權トナス者アレトモ君主ノ榮譽權ハ自己ニ附著スルモノナルカ故ニ他人ニ榮典ヲ與フルハ自己ノ榮譽權ナルモノニアラサルナリ

第三章 豫算

第一節 豫算ノ性質

豫算ナル文字ヲ廣義ニ解スルトキハ議會ノ議定ヲ俟タスシテ存在スル歲入出入ノ計算表ヲ指示スルモノナレトモ憲法上豫算ト稱スルハ議會ノ議決ヲ經テ定マルモノヲ稱ス

豫算ノ性質ハ之ヲ絶對ニ論定スルコトヲ得ス其國ノ制度及ヒ其國ノ歴史ニ依テ定マルヘキモノニシテ或ハ豫算ノ法律タル國アリ或ハ又豫算ヲ以テ議會カ政府ノ責任ヲ問フノ具ニ供スル國アリ或ハ又豫算ヲ以テ一種ノ委任狀ト看做ス國ナキニアラサルナリ然レトモ我國ニ於テハ憲法上ノ豫算ハ斯ノ如キモノニアラス即チ議會ノ協賛ヲ經テ定マル所ノ財政計劃ニシテ且政府ニ對シ支出上ノ制限ヲ

爲スヲ目的トスルモノナリ(憲法六四會計法一〇、一二參照)

今茲ニ參考ノ爲メ豫算ノ性質ニ付キ從來存スル學說ノ重ナルモノヲ紹介スレハ

第一 豫算ハ法律ナリトノ說 此說ハ白耳義伊太利ノ多數ノ學者及ヒ獨逸ノツ

オルン氏等ノ主唱スル所ニシテ其根據ヲ憲法ノ明文ニ有スルモノナリ白耳義普

漏西及ヒ佛蘭西等ノ憲法ニ於テハ豫算ハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシト規定シ以

テ豫算ノ法律タルコトヲ明言セリ尤モ獨逸學者ノ多數ハ憲法ノ明文ニ豫算ハ

法律ヲ以テ之ヲ定ムトアルニ拘ハラス此法律ナル語ハ普通ノ法律ナル語ト異

ナリタル意義ヲ有シ豫算ハ其名法律ナリト雖モ其實質ハ法律ニアラスト主張

セリ之ニ反シテ豫算ハ法律ナリト唱フル者ハ曰ク憲法ノ明文ヲ以テ既ニ豫算

ハ法律ナルコトヲ明言スル以上ハ豫算ノ法律ナルコト一點ノ疑ナク其結果豫

算ヲ以テ法律ヲ變更スルコトヲ得ルノミナラス豫算モ法律ト同シク權利義務

ヲ定ムルモノナルヲ以テ豫算ノ成立ニ因リテ人民ニ納稅ノ義務生シ亦國庫カ

支出スルノ義務モ豫算ニ因リテ發生スルモノナリ夫ノ租稅ニ關スル法律ノ如

キハ單ニ課稅物件及ヒ稅率ヲ定ムルニ過キスシテ租稅ニ關スル法律ハ以テ納

税ノ義務ヲ惹起スルモノニアラス納税義務ヲ惹起スルモノハ豫算ナリ故ニ若シ豫算ニシテ成立セサルトキハ人民ハ納税ノ義務ヲ有セス國庫ハ支出ノ義務ヲ負擔スルコトナキモノナリト此說ノ白耳義伊太利及ヒ佛蘭西等ノ諸國ニ於テノ當否ヲ別問題トシ我國ニ於テ採用スルヲ得ヘキモノナリヤ否ヤヲ稽フルニ我國ニテハ採用スルコトヲ得サルナリ何トナレハ我憲法ニ豫算ハ法律ヲ以テ定ムヘシトノ明文ナク又收入ハ豫算ニ依ラス法令ニ依リテ徵收スヘキモノナルコトハ會計法第十條ノ規定スル所ニ屬シ又豫算ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ定マルヘキモノナルコトハ憲法第六十七條ノ條文ニ徵シテ明白ナルコトナレハナリ

第二 豫算ハ政府ニ對スル帝國議會ノ委任狀ナリトノ說 此說ヲ唱フル者ハ曰ク豫算ハ直接ニ人民ニ對シテ權利義務ノ關係ヲ生スルモノニアラス即チ豫算ナルモノハ人民ト國庫トノ關係ヲ定ムルモノニアラスシテ議會ト政府トノ關係ヲ定ムルモノニ過キス故ニ人民カ租税ヲ納ムルノ義務モ又國庫カ人民ニ對シテ支出ヲ爲スノ義務モ共ニ豫算ノ成立ヲ以テ發生スルモノニアラス唯政府

ハ豫算ノ成立セサル場合ニ租税ヲ徵收シ又ハ支拂ヲ爲スノ權限ヲ有セサルノミ即チ豫算ナルモノハ議會カ政府ニ對シテ與フル所ノ一ノ委任狀ナリ其結果豫算成立セサルトキハ政府ハ收入支出ノ權限ナキヲ以テ總辭職ヲ爲シ議會ヨリ此委任狀ヲ受クルノ望アル者ニ内閣ヲ讓ラサルヘカラサルモノナリト然レトモ此說モ我國ニ於テハ之ヲ採用スルコトヲ得ス何トナレハ我國ニ於テ政府ヲ組織スル國務大臣ハ君主ノ任命ニ係リ彼等ハ君主ノ委任ヲ以テ其職務ヲ執行スルモノニシテ國務大臣ノ權限ハ議會ノ委任ニ依リテ定マルモノニアラサレハナリ元來此說ハ三權分立說ニ基クモノニシテ議會ハ財政ニ關シ固有ノ權利ヲ有シ政府ハ議會ノ委任ヲ俟テ始メテ財政事務ヲ處理スルノ權限ヲ有スルモノナリトノ思想ヨリ來リタルモノナルカ故ニ管ニ我國ノミナラス一般君主國ニ於テモ採用スヘキモノニアラサルナリ

第三 豫算ハ豫メ政府ノ責任ヲ免除スルモノナリトノ說 此說ヲ唱フル者ハ曰ク豫算ナルモノハ財政計畫ニシテ之ヲ定ムルコトハ政府ノ行爲ニ屬スレトモ議會ノ協賛ヲ經ル結果トシテ豫算ニ基キテ爲ス所ノ收入支出ニ付キ政府ハ何

等ノ責任ヲ負ハサルコトヲ豫メ保障スルノ效力ヲ生スルモノナリ即チ議會ハ豫算ヲ以テ豫メ政府ノ財政行爲ニ付キ責任ヲ免除スルコトヲ保障スルモノナリスノ如ク豫算ハ本來ノ性質上之ヲ定ムルコト政府行爲ナルニ依リ其法律ニアラサルハ勿論ナリ從テ豫算ヲ議スルニ付テハ必ス法律ノ範圍内ニ於テ之ヲ定メサルヘカラス又豫算ヲ定ムルハ政府行爲ニシテ議會ノ固有ノ權限ニ屬スルモノニアラサルヲ以テ之ヲ議會ノ委任狀ナリト唱フルノ説ハ固ヨリ之ヲ採用スルコトヲ得ス故ニ豫算成立セサルモ政府ハ法令ニ從テ其收入支出ヲ爲スノ權限ヲ有シ必スシモ之カ爲メニ辭職スヘキモノニアラス唯豫算カ議會ノ協賛ヲ經テ定メラレサル場合ニ於テハ豫メ責任免除ノ保障ナキヲ以テ豫算不成立ノ場合ノ收入支出ニ付テハ次ノ議會ニ於テ之ニ對スル責任ノ解除ヲ求メサルヘカラサルニ至ルモノナリト此説モ亦我國ニ於テハ之ヲ採用スルコト能ハサルモノナリ豫算ハ政府行爲ニ屬スル財政計畫ナリトノ點ハ正當ナリト雖モ我國ニ於テハ政府ハ議會ニ對シ責任ヲ負フモノニアラサルヲ以テ議會ニ對スル責任ヲ基礎トシテ立論スル學說ハ之ヲ容ル、ノ餘地ナキナリ

豫算ノ成立

第二節 豫算ノ成立

豫算案ノ提出

第一款 豫算案ノ提出

第一 發案權

豫算ノ發案權モ法律ノ發案權ト同シク議會ニ屬スルノ國ナキニアラスト雖モ我帝國議會ハ兩院共ニ此權ヲ有セス豫算案ハ唯政府ニ依リテノミ提出セラル

第二 豫算ハ毎年之ヲ制定セサルヘカラス

是レ憲法第六十四條ニ「毎年ナル文字ノ存スルニ因リテ明カナリ乍併各國ノ法制皆必スシモ然ルニアラス獨逸聯邦中ニハ或ハバイエルン、ザクセンノ如ク二年毎ニ之ヲ定ムル國アリ或ハヘッセン、ウエルテンベルヒノ如ク三年毎ニ之ヲ定ムルアリ或ハ又ヨーロッパルヒ、ゴータノ如ク四年毎ニ之ヲ制定スルノ例モアルナリ

第三 豫算ハ先ツ衆議院ニ之ヲ提出スヘキモノナリ(憲法六五)

第四 總豫算ハ前年ノ帝國議會ノ集會ノ始ニ於テ之ヲ提出スヘキモノナリ(會計法五)

第二款 豫算案ノ議定

第一 豫算案ノ審査

豫算案ノ議定

憲法 統治權ノ作用 豫算 豫算ノ成立

豫算案衆議院ニ提出セラレタルトキハ豫算委員ハ其院ニ於テ受取リタル日ヨリ十五日以内ニ審査ヲ終リ之ヲ議院ニ報告スヘキモノトス(議院法四〇)而シテ此豫算ノ審査期限ナルモノハ停會ノ期限中ト雖モ進行スルモノニシテ停會ノ日數モ此審査期限中ニ算入セラル、モノナリ

第二 豫算案ノ修正

豫算案ニ對シ議會ノ修正權ヲ有スルコトハ議院法第四十一條ニ徴シテ明カナリ普漏西ニ於テハ上院ハ豫算案ニ對シ修正權ヲ有セスト雖モ我國ニ於テハ貴衆兩院共ニ之ヲ有スルハ明カナリ又此修正權ハ別ニ制限スル所ナキヲ以テ豫算中ニ款項ヲ新設シ或ハ豫算中ノ款項ヲ轉換シ或ハ金額ヲ増加スルコトヲ得ヘシ此款項ノ新設及ヒ金額ノ増加ニ付テハ佛蘭西ニ於テハ大ニ爭トナリシ問題ナリシモ我國ニ於テハ今日實例ノ認ムル所ナリ

豫算ノ裁可

第三款 豫算ノ裁可

前ニ豫算ノ性質ヲ説明スルニ際リテ示シタル第二說即チ委任說及ヒ第三說即チ責任免除說ニ從ヘハ豫算ハ當然議會ノ議決ニ依リテ確定スルモノニシテ君主ノ

裁可ヲ必要トセス然レトモ豫算ナルモノハ行政ノ監督ヲ主要ナル目的トシ此目的ヲ達スルカ爲メ議會ノ議決ヲ經テ定ムヘキ財政計畫ニ過キサルカ故ニ其性質上議會ノ議決ヲ以テ確定スヘキモノニアラス行政行爲ノ根源タル君主ノ裁可ヲ以テ成立スヘキコトハ多言ヲ要セスシテ明カナリ若シ豫算カ議會ノ議決ヲ以テ確定スヘキモノトセハ豫算ハ政府ノ支出行爲ニ對スル制限ヲ爲スノ效力ヲ有スルモノナルヲ以テ議會ハ政府ニ對シ命令權ヲ有スルモノナリトノ論結ヲ生セサルヲ得ス斯ル權限ヲ議會ニ於テ有スルコト固ヨリ我國ニ於テ認メラル、所ニアラサルナリ尙ホ豫算ニ裁可ヲ要セスト主張スル者ハ曰ク若シ我國ノ豫算ニシテ裁可ナキトキ豫算ノ全部成立セサルモノトセハ憲法第六十七條ニ於テ特別ノ歲出ノ廢除削減ニ付キ政府ノ同意ヲ要ストノ規定ハ之ヲ解スルコトヲ得スト然レトモ同條ハ豫算カ法令ヲ動カスノ必要アル場合ニ關シ定メタル規定ニシテ元來豫算ナルモノハ法令ノ範圍内ニ於テ定メラレサルヘカラサルモノナルニ依リ斯ノ如キ規定ヲ設ケタルノミ故ニ憲法第六十七條ヲ引用シテ豫算ニ裁可ノ不必要ナルコトヲ説明スルハ其當ヲ得タルモノト云フヘカラス而シテ我國ニ於ケル實

憲法

統治權ノ作用

豫算

豫算ノ成立

豫算議定ノ範圍

例モ亦豫算ニ裁可ノ必要ナルコトヲ認ムルカ如シ

第三節 豫算議定ノ範圍

第一 皇室經費及ヒ繼續費ノ豫算ニ付テハ増額及ヒ變更ノ場合ノ外毎年議會ノ協賛ヲ經ルコトヲ要セサルモノナリ(憲法六六)

第二 憲法第六十七條ニ列記セラレタル歳出ハ政府ノ同意ヲ得ルニアラサレハ

議會ニ於テ廢除削減スルコトヲ得サルモノナリ今左ニ之ヲ分説スレバ

一 政府同意ノ範圍

法律命令等ニ牴觸スルノ廢除削減ハ政府ノ同意スルコトヲ得ルモノニアラ

ハチスト唱フル者アリト雖モ政府ノ同意ヲ要スルハ其豫算ニ對スル議決カ法令

條約ノ範圍外ニ出テ通常議定權ノ權限ヲ超越スルカ爲メナルニ依リ縱令法

令等ニ牴觸スルノ廢除削減ト雖モ政府ハ之ニ同意ヲ爲スコトヲ妨ケス乍併

上諸法令等ヲ變更スルモ必ス支出セサルヘカラサルノ歳出ニ至リテハ政府カ之

同意スルモ如何トモスルコト能ハサルモノナルヲ以テ斯ノ如キ歳出ノ廢

除削減ニ付テハ政府ノ同意ノ範圍外ニ屬スルモノト云フコトヲ得ヘシ

二 政府同意ノ效力

元來議會ハ法令條約ノ範圍内ニ於テノ議決スヘキモノナリト雖モ特ニ憲

法第六十七條ノ規定ノ存スルカ爲メ法令條約ノ變更ヲ豫想シテ歳出ノ廢除

削減ヲ議決スルコトヲ得ルモノナルニ依リ政府ノ同意ハ直チニ其廢除削減

ニ對シ確定ノ效力ヲ與フルモノニアラスシテ單ニ政府ハ此同意ヲ以テ將來

歳出ニ法令條約等ノ變更ヲ約束スルニ過キサレナリ其結果政府ノ同意ヲ得テ廢

除削減ヲ爲シタル議決ハ停止條件附ノモノニシテ若シ其法令條約ノ改正、變

更セラレサルトキハ其廢除削減ノ議決ハ無効ニ歸スルモノト云フヘシ

三 政府ノ同意ヲ求ムルノ時期

政府ノ同意ヲ得ルニハ廢除削減ノ議決ヲ爲ス前ニ同意ヲ求ムルノ議決ヲ爲

スルコトヲ求ムヘキモノニシテ政府ノ同意アリタル後廢除削減ノ確定議決ヲ

爲スコトヲ得ルモノナリ故ニ政府ノ同意ハ廢除削減ノ確定議決ヲ爲スニ付

テノ事前ノ要件ナリト云フヘシ

第四節 豫算ノ效力

歳入ニ對スル效力

第一款 歳入ニ對スル效力

歳入ナルモノハ豫算ノ有無ニ拘ハラス凡テ法令ニ從ヒ徴收スヘキモノニシテ我國ニ於テハ豫算ノ存スルカ爲メ臣民ニ納税ノ義務ヲ生スルモノニアラス又豫算ノ確定ニ依リテ政府カ收入ノ權限ヲ得タルモノニアラス是レ會計法第十條ニ租稅其他ノ收入ハ必ス法令ニ從ヒ徴收スヘシト規定セラレタル所以ナリ故ニ歳入ノ豫算ニ適合セサル收入ヲ爲スモ決シテ政府及ヒ當局官廳ノ過失トシテ懲戒上ノ問題ヲ惹起スルモノニアラサルナリ

歳出ニ對スル效力

第二款 歳出ニ對スル效力

歳出ニ付テハ收入ノ場合ト異ナリ豫算ハ政府ノ支出ニ對シ制限スルノ效力ヲ有スルモノナリ即チ豫算カ確定シタルトキハ政府ハ左ノ原則ニ從テ支出ヲ爲サ、ルヲ得サルモノトス

第一 政府ハ豫算ノ定額ヲ超過シテ支出スルコトヲ得ス

第二 政府ハ豫算ノ目的以外ニ支出ヲ爲スコトヲ得ス

第三 政府ハ豫算ノ定額ヲ翌年度ノ經費ニ充ツルコトヲ得ス

第四 政府ハ豫算ノ款項ノ金額ヲ彼是流用スルコトヲ得ス

第五節 豫算ノ超過及ヒ豫算外ノ支出

豫算ノ超過及ヒ豫算外ノ支出

政府ハ前ニ述ヘタルカ如ク豫算ノ金額以内ニ於テ支出ヲ爲スヘク又豫算ニ定メサル目的ノ爲メニ支出スルコトヲ得スト雖モ物價ノ變動、災害ノ發生其他種々ノ必要ナル事情ニ因リ豫算超過及ヒ豫算外ノ支出ヲ爲スノ必要生スルコトアリ而シテ若シ斯ル支出ヲ禁止スルニ於テハ行政ノ活動ヲ中止セサルヘカラサルヲ以テ例外トシテ之ヲ許容セサルヘカラス是ヲ以テ憲法ハ其第六十四條第二項ニ於テ後ニ議會ノ承諾ヲ求ムルノ條件ヲ以テ豫算超過及ヒ豫算外ノ支出ヲ認め又其支出ニ充ツルカ爲メ第六十九條ニ於テ豫算中ニ豫備費ヲ設クルコトヲ定メタリ茲ニ聊カ疑問トナルハ豫算超過及ヒ豫算外ノ支出カ豫備費ヲ以テ支出スルモ尙ホ不足ヲ告クル場合ニ於テハ國庫ノ剩餘金ヨリ支出スルコトヲ得ルヤ否ヤノ問題是ナリ實例ニ於テハ政府カ豫備費以外ノ支出ヲ爲シ亦議會ニ於テモ之ニ承諾ヲ與ヘタルコトアリト雖モ憲法第六十九條ニ特ニ豫備費ノ規定ヲ設ケ又會計法第六條及ヒ第七條ニ於テ定メラレタル豫備費ノ性質ヨリ觀ルモ豫算超過及ヒ豫

憲法

統治權ノ作用

豫算

豫算ノ超過及ヒ豫算外ノ支出

豫算ノ不成立

三三三

W323.2
SH49

豫算ノ不
成立

算外ノ支出ニシテ豫備費ヲ以テ之ヲ支辨スルコト能ハサルトキハ議會ニ追加豫算ヲ提出スルカ若クハ議會ヲ召集スルノ追ナキ場合ニ於テハ憲法第七十條所定ノ緊急財政處分ニ依ルノ外ナキモノト解スルヲ以テ正當トス

第六節 豫算ノ不成立

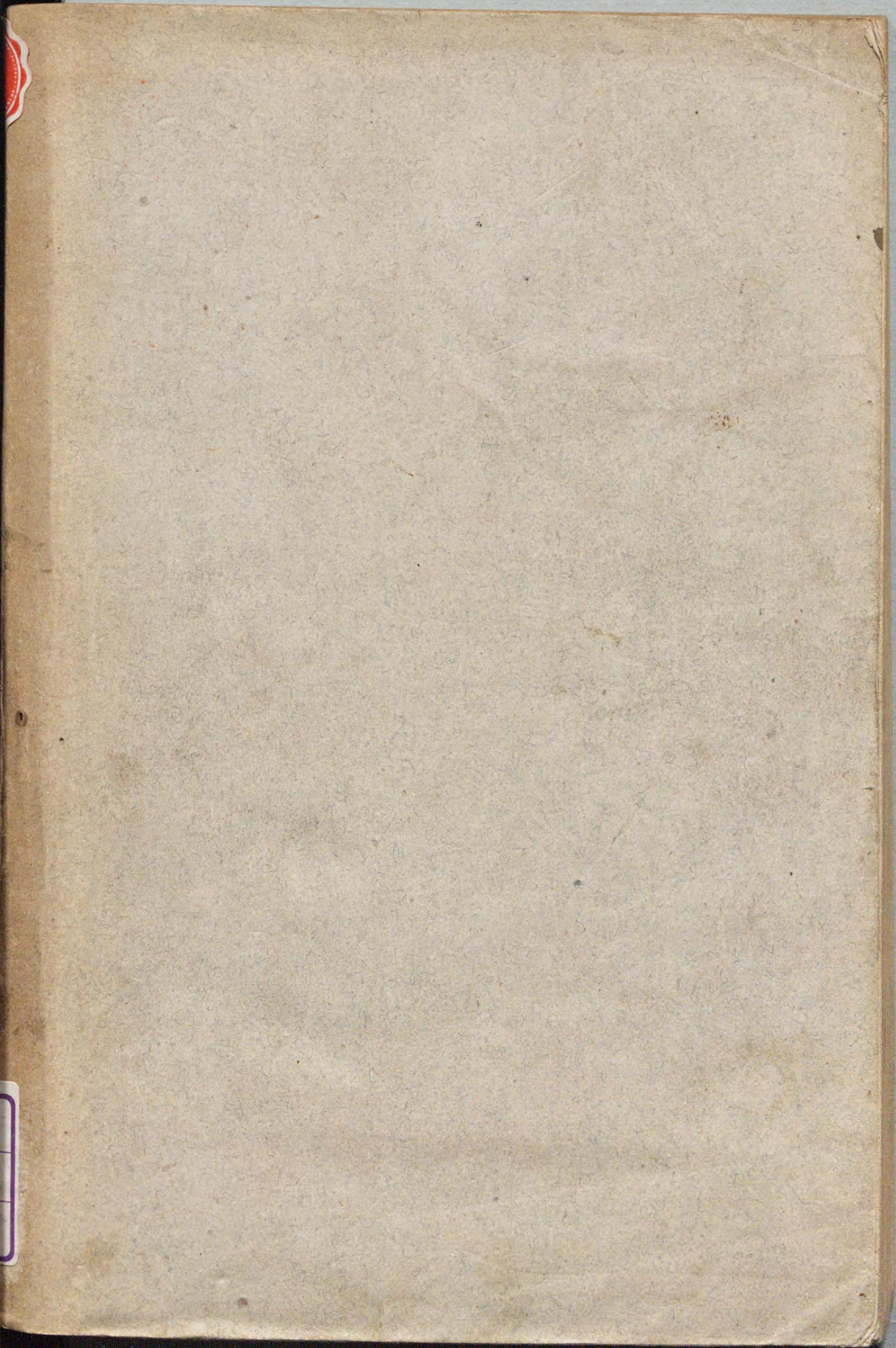
豫算不成立ノ場合ニ處スル明文ナキ國ニ於テハ豫算成立セザルトキハ如何ニスヘキヤニ付キ學說ノ分ル、所ナリト雖モ我國ニ於テハ憲法第七十條ノ規定存スルヲ以テ全ク斯ル問題ヲ生スルコトナク政府ハ當然前年度ノ豫算ヲ施行スヘキモノナリ

憲法(完結)

最高裁判所図書館



000126464



Inches 1 2 3 4 5 6 7 8
cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue	Cyan	Green	Yellow	Red	Magenta	White	3/Color	Black
[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]	[Patch]

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

